

発掘調査報告第9集

県営ほ場整備事業大田切(3)地区(昭和53年度分)

埋蔵文化財緊急発掘調査

荒 神 沢 遺 跡

——緊急発掘調査報告書——

1979

南信土地改良事務所

駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第9集

県営ほ場整備事業大田切(3)地区(昭和53年度分)

埋蔵文化財緊急発掘調査

荒 神 沢 遺 跡

——緊急発掘調査報告書——

1979

南信土地改良事務所

駒ヶ根市教育委員会

序 文

今回ここに刊行との運びとなった報告書は、県営ほ場整備事業に伴い、昭和53年に実施された発掘調査の報告であります。

北は大田切川、南は中田切川を境界とする赤穂地区は、広い扇状台地状に展開し、その間には、古田切川・上穂沢・辻沢川などの小河川が東流し、田切地形を形成しており、遺跡は中央アルプス山麓や小河川の沿岸に沿って集中して見られ、その濃密な遺跡群は古くから学界の注目するところでした。

駒ヶ根市では、これらの遺跡群を対象に、昭和45年以来県営ほ場整備事業に先行しつつ、多くの遺跡の発掘調査を行ってきたわけであります。

今回発掘調査を行った荒神沢遺跡は、古くから縄文時代晩期の遺跡として注目されていた遺跡であります。報告書の各項にみられますように多くの遺構・遺物が確認されております。とりわけ確認された住居址一軒は県下ではこの時期のものとしては初めてであり、今後の研究上に果たす役割りは大きなものがあると確信しております。

長期間にわたって発掘調査をご指導下さった友野良一団長を初め、快く発掘作業に参加していただいた地元の方々、事業に深いご理解をいただいた大田切土地改良区並びに南信土地改良事務所の方々、地主の方々等、多くの皆さまのご協力、ご厚志によって無事初期の目的を達成することができました。

ここに関係者の皆さま方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が学界のお役に立つことを念願する次第であります。

昭和54年3月1日

駒ヶ根市教育長 木 下 衛

凡 例

- 1 今回の調査は昭和53年度に実施したもので、大田切(3)地区県営ほ場整備事業に伴うものである。
- 2 事業は南信土地改良事務所の委託により、県営ほ場整備事業大田切(3)地区埋蔵文化財調査会が実施したものである。
- 3 本報告書は契約期間内にまとめることが要求されているため、調査によって明らかとなった遺構及び遺物をより多く図示することに重点をおき、文章記述はでき得る限り簡略し、資料の再検討は後日の機会にゆずることとした。
- 4 遺構関係の図面は小原晃一が製図した。縮尺はその都度指示してある。
- 5 土器の実測、拓影は気賀沢進があたった。
- 6 石器、石製品の実測は宮下喜代子・新井美智子が主となり、一部小原晃一があたった。
- 7 本報告書の執筆は気賀沢進・小原晃一が分担した。文責は文末に記してある。
- 8 土器の分類は気賀沢進・小原晃一が協議して行った。
- 9 遺物及び実測図類は市立博物館に保管してある。

目 次

序 文	
凡 例	
目 次	
挿 図 目 次	
図 版 目 次	

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査に至るまでの経過	1
第 2 節 調査会の組織	1
第 3 節 発掘作業経過	2

第 II 章 遺跡の環境

第 1 節 位置及び地形	2
第 2 節 歴史的環境	5

第 III 章 発掘調査

第 1 節 調査概要	13
第 2 節 住居址	14
第 3 節 土 坎	16
第 4 節 ロームマウンド	46
第 5 節 炉 址	50

第 6 節 遺 物

1. 土 器	51
2. 石 器	66
3. 土製品	81
4. 石製品	81
5. 出土土器について	83

第 IV 章 おわりに

挿 図 目 次

第 1 図 荒神沢遺跡位置図	3
第 2 図 荒神沢遺跡地形図	4
第 3 図 荒神沢遺跡付近遺跡分布図	6
第 4 図 荒神沢遺跡グリット図	8
第 5 図 17-う-49-う (A-B) 地層断面図	9
第 6 図 23-き-49-き (C-D) 地層断面図	9
第 7 図 25-さ~あ' (E-F) 地層断面図	10

第8図	46-な~あ (G-H) 地層断面図	10
第9図	遺構全体図	11・12
第10図	住居址実測図	14
第11図	住居址出土遺物	15
第12図	土壇実測図	18
第13図	土壇実測図	19
第14図	土壇実測図	20
第15図	土壇実測図	21
第16図	土壇実測図	22
第17図	土壇実測図	23
第18図	土壇実測図	24
第19図	土壇実測図	25
第20図	土壇実測図	26
第21図	3号マウンド及び土壇実測図	27
第22図	土壇実測図	28
第23図	土壇実測図	29
第24図	土壇実測図	30
第25図	土壇実測図	31
第26図	1号マウンド及び土壇実測図	47
第27図	1号マウンド遺物実測図	48
第28図	2号マウンド及び土壇実測図	49
第29図	4号マウンド及び土壇実測図	50
第30図	1号炉址実測図	51
第31図	第I・II群土器	52
第32図	第III群土器	53
第33図	第III群土器	54
第34図	第III群土器	55
第35図	第III群土器	56
第36図	第III群土器	57
第37図	第III群土器	58
第38図	第III群土器	59
第39図	第IV群、第V群a 類土器	60
第40図	第V群b 類、第VI群土器	61
第41図	打製石斧実測図	69
第42図	打製石斧実測図	70
第43図	打製石斧実測図	71

第44図	打製石斧実測図	72
第45図	磨製石斧実測図	73
第46図	大形粗製石匙、石錘実測図	74
第47図	石錘、敲打器実測図	75
第48図	敲打器実測図	76
第49図	特殊敲打器、横刃形石器実測図	77
第50図	石礮、搔器実測図	78
第51図	搔器実測図	79
第52図	土製円板、土錘拓影図	80
第53図	土製品、石製品実測図	82
別図 1	炉址近辺土器出土分布図	
別図 2	炉址近辺石器出土分布図	

図 版 目 次

図版 1	遺跡遠景	115
図版 2	土塚群	116
図版 3	住居址と土塚群	117
図版 4	土塚群	118
図版 5	住居址	119
図版 6	土塚 1	120
図版 7	土塚 1	121
図版 8	各土塚	122
図版 9	1号マウンド	123
図版10	マウンドと炉址	124
図版11	第Ⅲ群土器	125
図版12	第Ⅲ群土器	126
図版13	第Ⅲ群土器	127
図版14	第Ⅲ群土器	128
図版15	第Ⅴ群土器	129
図版16	第Ⅵ群土器	130

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経過

荒神沢遺跡の一部が県営ほ場整備事業の一部に入るとのことで、県教委と現地協議をした結果記録保存を行うということで市が担当して発掘調査を行うこととなった。

南信土地改良事務所から発掘調査の依頼があり、6月19日市長との間に委託契約を結び、つづいて市長と調査会会長との間に再委託契約を締結した。調査は県営ほ場整備事業大田切(3)地区埋蔵文化財発掘調査会が行うこととし、調査団を編成し団長には友野良一氏をお願いし、調査の準備にはいった。

休耕田の作物があるため本格的な調査は7月17日から行うこととした。

第2節 調査会の組織

● 県営ほ場整備事業大田切(3)地区埋蔵文化財調査会

会 長	木 下	衛 (市教育長)
理 事	有 賀	勤 (市教育次長)
〃	下 村	忠比古 (市文化財審議会副委員長)
〃	宮 下	一 郎 (市文化財審議委員)
〃	松 村	義 也 (〃)
〃	伊 藤	和 正 (市博物館長)
監 事	松 崎	保 穂 (市文化財保存会会長)
〃	佐 藤	雪 洞 (駒ヶ根郷土研究会会長)
幹 事	松 崎	勝 治 (市教委社会教育係長)
〃	原	寛 恒 (市教委社会教育係)
〃	福 沢	房 美 (市博物館)
〃	気賀沢	進 (〃)

● 調査団

団 長	友 野	良 一 (日本考古学協会会員) 〈発掘担当者〉
調査員	気賀沢	進 (長野県考古学会会員・市博物館) 〈発掘担当者〉
	小 原	晃 一 (〃 〃)
	高 羽	和 子 (〃 〃 立正大学生)
	北 沢	雄 喜 (長野県考古学会会員)

調査員	吉 沢 文 夫 (長野県考古学会会員)
〃	田 中 清 文 (〃)
〃	飛田野 正 佳 (立正大学生)
指導者	永 峯 光 一 (国学院大学教授)
〃	丸 山 徹一郎 (県文化課指導主事)
〃	関 孝 一 (〃)
〃	今 村 善 興 (〃)
〃	樋 口 昇 一 (〃)
〃	笹 沢 浩 (〃)
〃	伴 信 夫 (〃)
〃	青 沼 博 之 (〃)
〃	小 林 秀 夫 (〃)
〃	神 村 透 (〃)
〃	林 茂 樹 (〃)
〃	高 橋 桂 (〃) (順不同)

第3節 発掘作業経過

6月19日委託契約を締結したのち、現地地下見、草刈りなどを行い、7月15日にグリットを設定し、7月17日から本格的調査に入る。

グリットによる試掘から遺構が全面にわたることが判明したため、全面発掘に切り換えて遺構確認を行う。

住居址1軒と土坑262基、マウンド4基を発見して9月3日すべての調査を終わった。

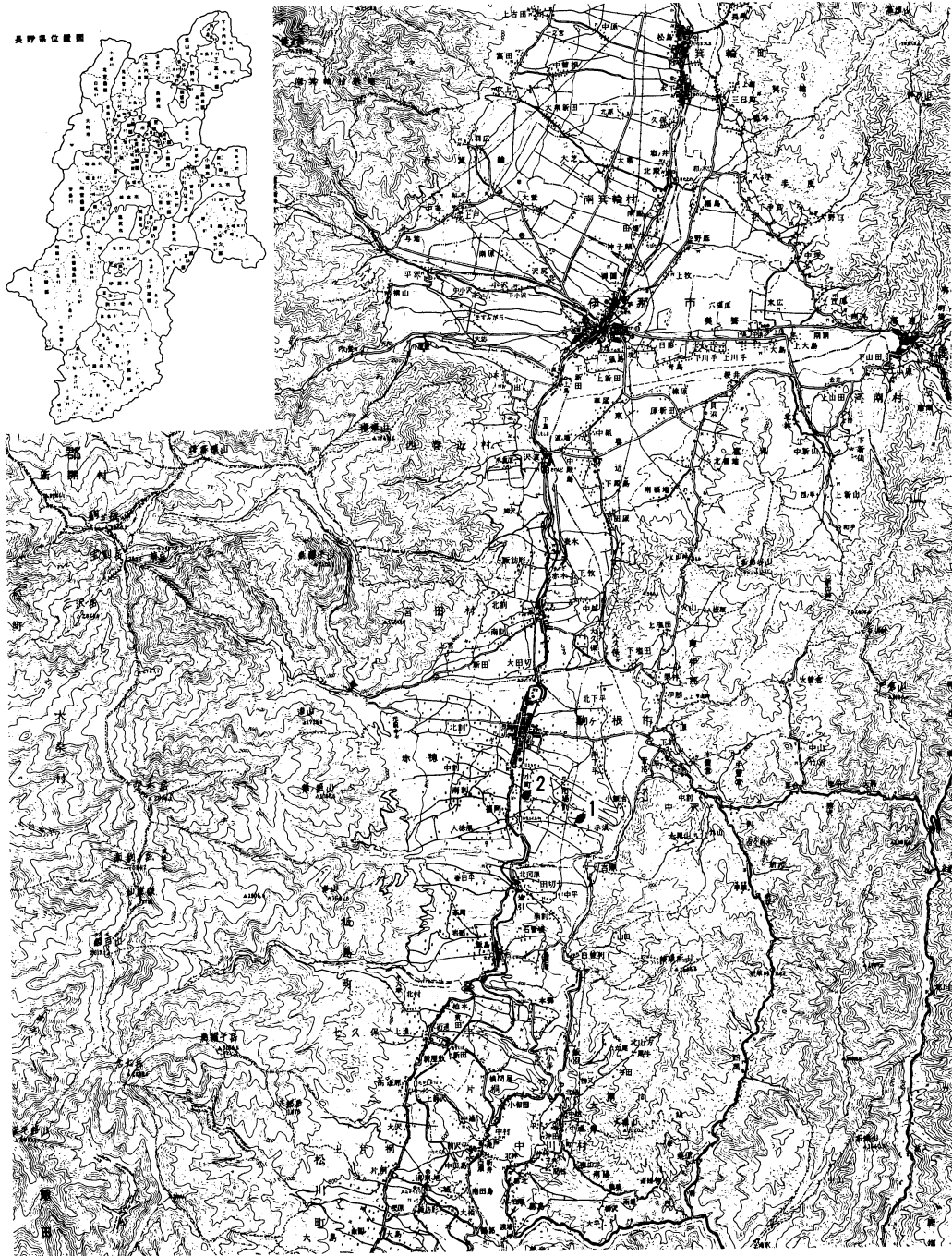
地元土地改良区をはじめ、南信土地改良事務所、地主の方々、長期間発掘調査に参加して下さった地元の協力者等、多くの皆様方のご協力ご厚志によってここに初期の目的を果たすことができました。心から感謝を申し上げる次第であります。(気賀沢 進)

第Ⅱ章 遺跡の環境

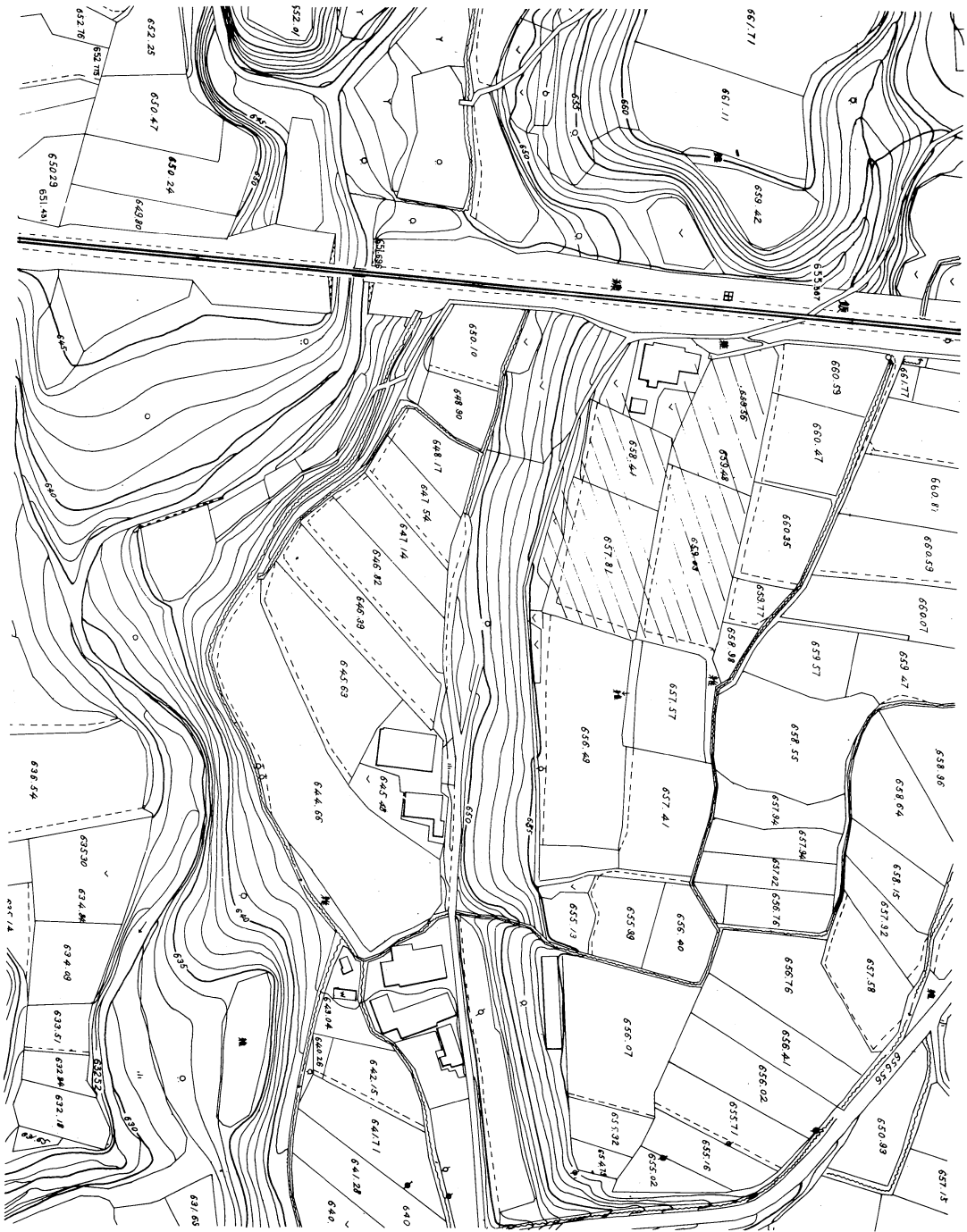
第1節 位置及び地形 (第1・2図)

当遺跡は駒ヶ根市赤穂小町屋南部にあり、飯田線がすぐ西側を通る。福岡駅と小町屋駅との間にあり0.8kmほどの距離である。さらに西側300mで国道153号線に出る。

駒ヶ根市赤穂地区は市の境界となっている北の大田切川、南の中田切川によって形成された二つの大きな扇状地の複合した地域である。この両河川にはさまれた赤穂地区は更に幾つかの小河川が東流して天竜川に注ぎ、田切地形を造っていることで有名である。赤穂地区の遺跡は



第1図 荒神沢遺跡位置図 ($S = \frac{1}{200000}$)，1は中通り下，2は荒神沢遺跡)



第2図 荒神沢道跡地形図 (S = $\frac{1}{2000}$)

それらの小河川に沿ってほとんどが分布している。

当遺跡は上穂沢川の左岸段丘上にあり、東側には一段と低い低位段丘が続いている。北600mにはねずみ川が台地を開折して東流している。段丘面は東西に続くが西側は荒神沢によって段丘が切られている。上穂沢川との比高は20mほどで標高は658m前後である。

遺跡の南は傾斜面上で上穂沢川に注ぐ。現在は遺跡部分は水田のため一見ただけではあまりはっきりしないが、丘陵上の南斜面にあたると思われ、ローム面は南東に傾斜している。

上穂沢川は赤穂地区を南北に分断する河川で、源を中央アルプスに発し、国道153号線付近より深いV字谷を形成している。

当遺跡は伊那礫層を基盤としており層位は以下のとおりである。詳細は次章においてふれるので簡単にとどめておく。

第Ⅰ層——耕作土（客土）

第Ⅰ'層——表土（土手）

第Ⅱ層——地場

第Ⅲ層——埋土

第Ⅲ'層——埋土（土手）

第Ⅳ層——黒褐色土（旧表土）

第Ⅴ層——暗褐色土（漸移層）

第Ⅵ層——ローム層

このような層位関係を示すが、開田時の状況によってⅥ層が削り取られた部分があったり、Ⅲ層の埋土のある所、ない所などノーマルな状態を示していないことは当然である。

第2節 歴史的環境

昭和28年に行った赤穂地区の遺跡分布調査による遺跡数77箇所、遺物採集地点230箇所に及んでいる。最近の分布調査による遺跡数100箇所ほどとなっている。

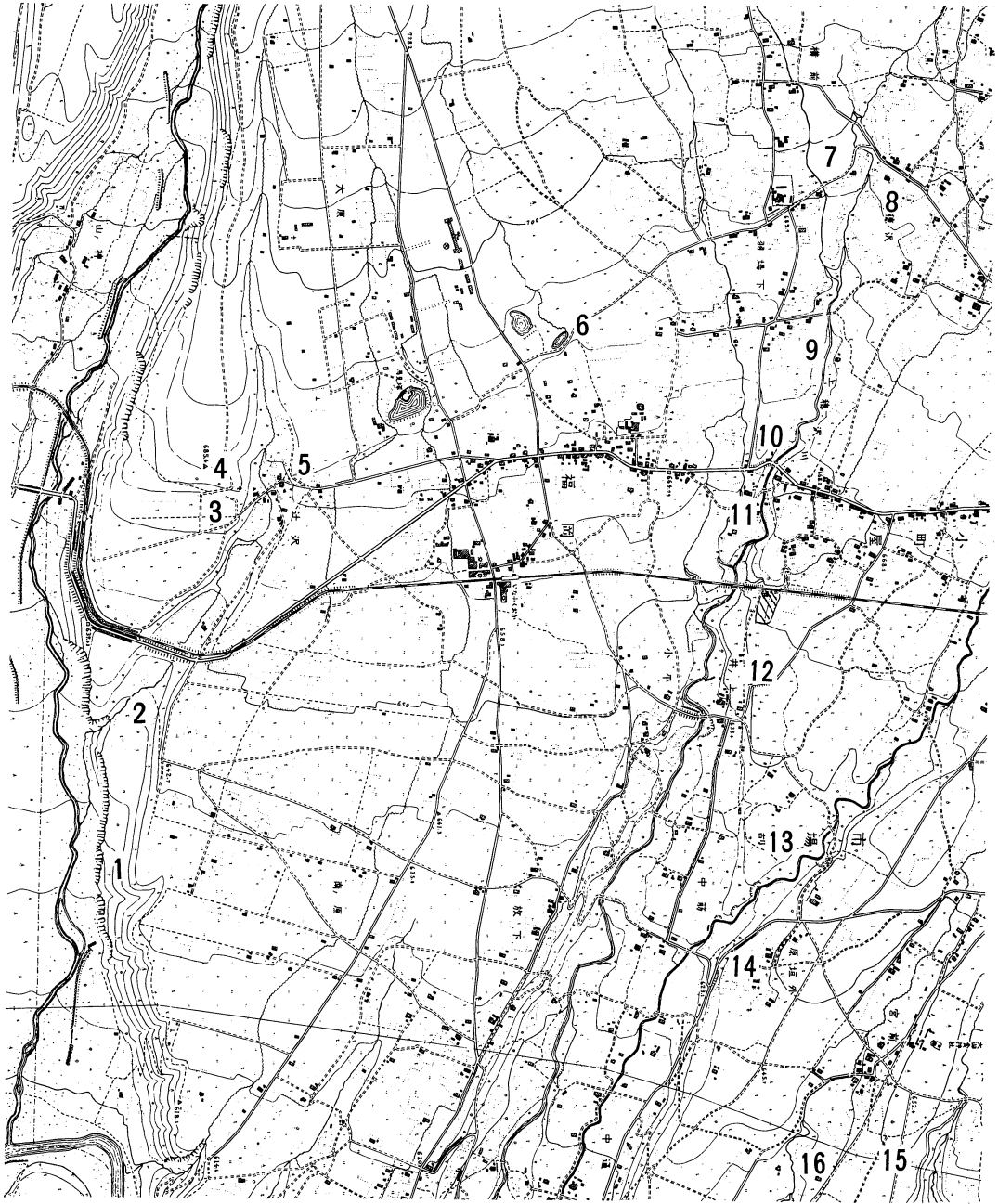
当遺跡付近の遺跡について簡単にふれておきたい。

1. **蟹沢遺跡** 中田切川の左段低位段丘面にあり、遺跡はそう広くない。縄文晩期末～弥生時代にかけての条痕文を主体に出土しており、当時期とほぼ同時期である。

2. **水落し遺跡** 辻沢川の末端にあり遺跡はやはりそう広くはない。縄文中期の土器が主体に出土している。

3. **馬住の原遺跡** 辻沢川の南にあり、この辻沢川の沿岸は濃密な遺跡群を形成していることで知られている。馬住の原は昭和45年に一部が発掘調査され、縄文中期の住居址が確認されている。この台地上には経塚があったことが知られており、昔から交通の要所とされた所で、土師・須恵器なども散布している。

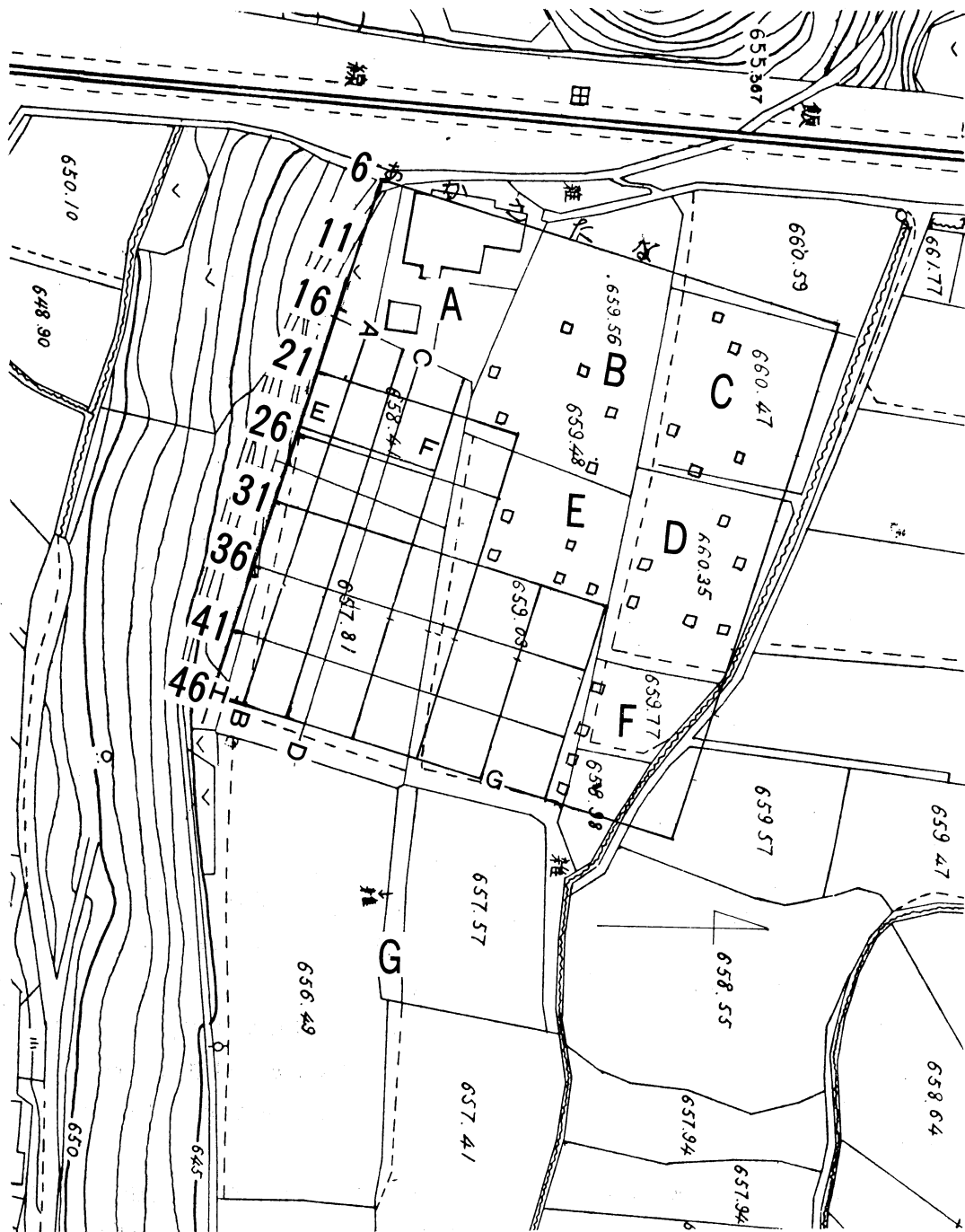
4. **辻沢南遺跡** 馬住の原の西段丘上にあり、一部は宅地造成によって破壊されている。縄文中期を主体とし、早期のものもわずかに採集している。



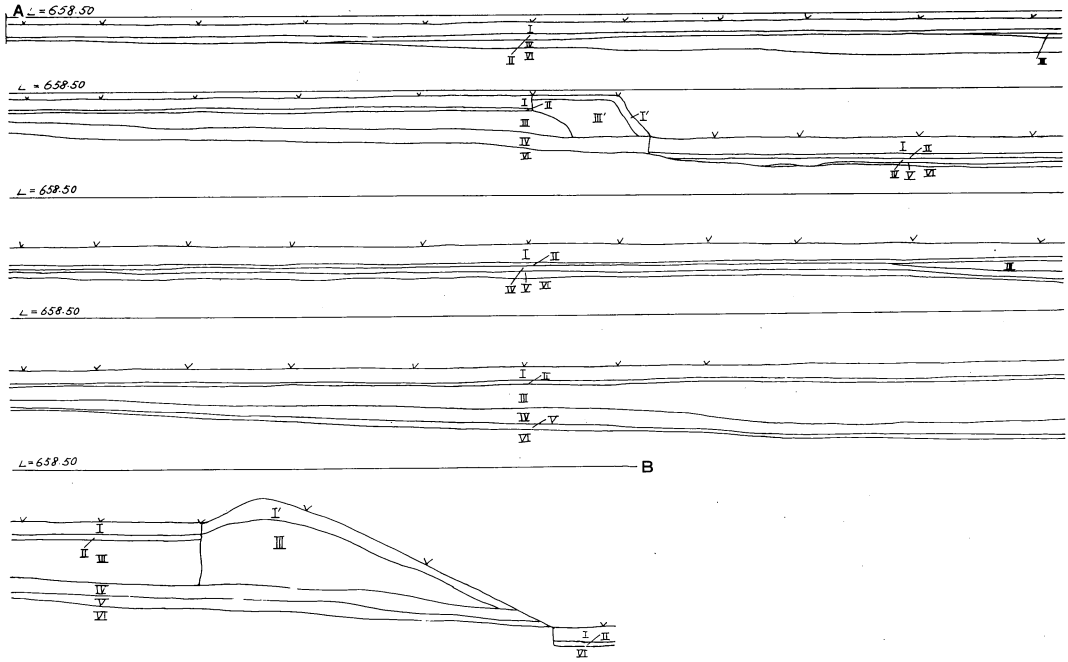
- 1.蟹沢 2.水落し 3.馬住の原 4.辻沢南 5.辻沢北 6.十二天 7.大城林 8.藤助畑
 9.羽場下 10.舟山 11.如来寺 12.丸塚 13.尾崎・14.原垣外 15.御射山 16.七免川

第3図 荒神沢遺跡付近遺跡分布図 (S = $\frac{1}{200000}$)

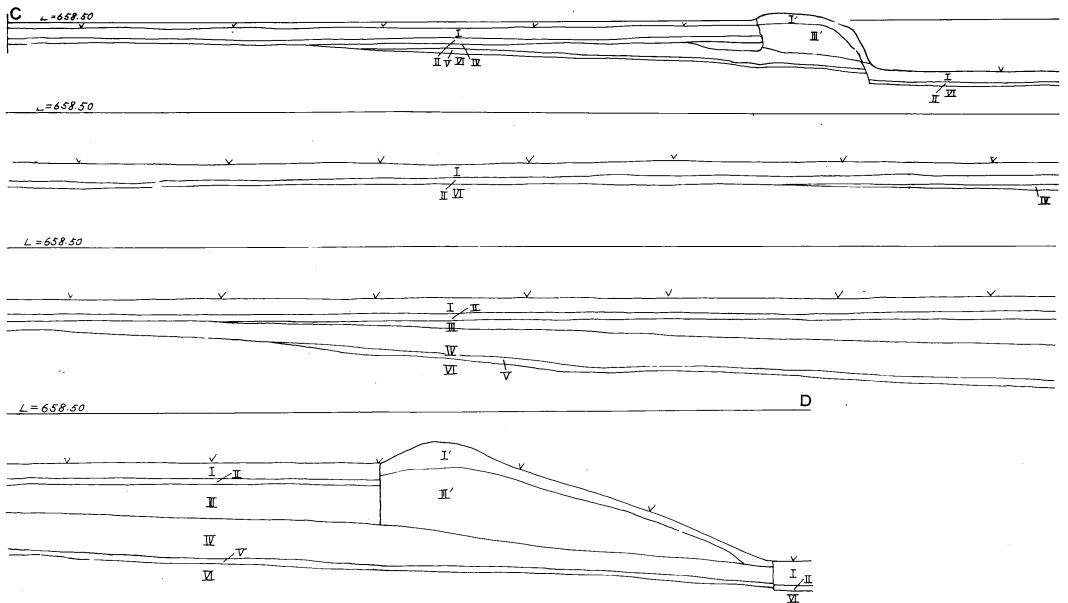
5. **辻沢北遺跡** 辻沢南遺跡の対岸段丘突端に広がる遺跡である。押型文土器を初め、縄文中期の土器が出土しており、住居址も確認されている。
6. **十二天遺跡** 駒ヶ根工業高校の北東にあり段丘上に位置している。開田中に太田保氏により発見された遺跡で、上伊那における縄文後期の標識遺跡として有名である。
7. **大城林遺跡** 上穂沢川右岸段丘突端に位置しており、昭和47年春夏2回にわたって発掘調査が行われている。30軒を越す縄文中期の住居址が確認され、大集落址であることが知られている。さらに水神平系土器が単独出土するなど重要な遺跡である。
8. **藤助畑遺跡** 大城林遺跡の対岸にあり、昭和45年夏に発掘調査されている。縄文中期末の住居址と配石址が確認されている。
9. **羽場下遺跡** 上穂沢川右岸大城林遺跡の東段丘下に位置している。昭和46年の発掘調査によって縄文前期末の住居址4軒と小竪穴、平安時代の住居址1軒が発見されている。
10. **舟山遺跡** 羽場下遺跡の東方丘陵上に位置しており、上穂沢川はこの付近より深いV字谷となっている。昭和45年夏・秋、昭和46年夏と3回にわたる発掘調査が行われている。縄文弥生・平安時代の複合遺跡でとりわけ縄文早期から前期にかけてみるべきものがある。縄文前期末の条痕系土器には東海地方の粕畑式土器など混在しており東西文化の交流を知ることができる。またそれらの土器に伴う小竪穴址の多さはその性格とともに注目されている。
11. **如来寺遺跡** 舟山遺跡の東上穂沢川の右岸低位段丘上にある。当遺跡と同様縄文晩期の土器を出土しており、上伊那における標識遺跡として有名である。
12. **丸塚** 当遺跡の東方200mにあり、名前のとおり古墳である。大正年代開田のため破壊され現在では石室に使われた石を積んで塚とし碑が立つのみである。後期古墳である。
13. **尾崎遺跡** ねずみ川の右岸にあり、台地の突端部に位置している。昔石棒も出土してるとのことで縄文中期の遺跡と思われ広い。
14. **原垣外遺跡** 尾崎遺跡の対岸ねずみ川の左岸丘陵上の南斜面に位置している。昭和52年に発掘調査され、縄文中期の住居址30軒、奈良から平安時代にかけての住居址13軒、さらにほとんどが縄文中期に属すると思われる土拵330基あまりが確認され、大複合遺跡であることがわかっていて。遺跡は丘陵中央に向かってつづくと思われ大遺跡である。
15. **御射山遺跡** 七免川の北丘陵上に位置し、北には宮沢川が流れる。由緒古い美女ヶ森大御食神社一帯から東に広がる大遺跡である。昭和50年に遺跡の東部分の発掘調査が行われ、平安時代の住居址9軒が確認されている。原垣外遺跡、中通り下遺跡同様歴史時代解明に欠かせぬ遺跡である。
16. **七免川遺跡** 原垣外遺跡と御射山遺跡の間を流れる七免川の低位段丘上に位置する。開田による破壊は激しいが、弥生時代後期の遺物が多量に発見されている。また縄文時代中期、晩期末から弥生にかけての土器もみられ広い範囲にわたる複合遺跡である。 (気賀沢進)



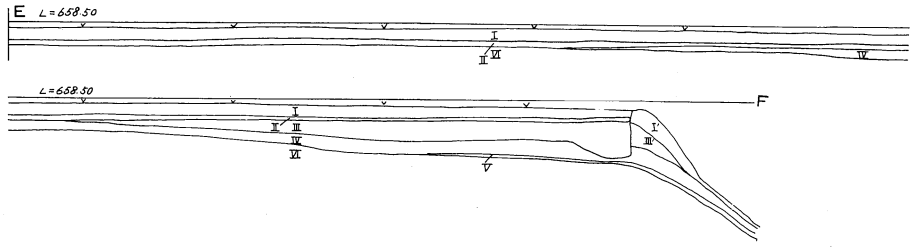
第4図 荒神沢遺跡グリット図 ($S = \frac{1}{1000}$)



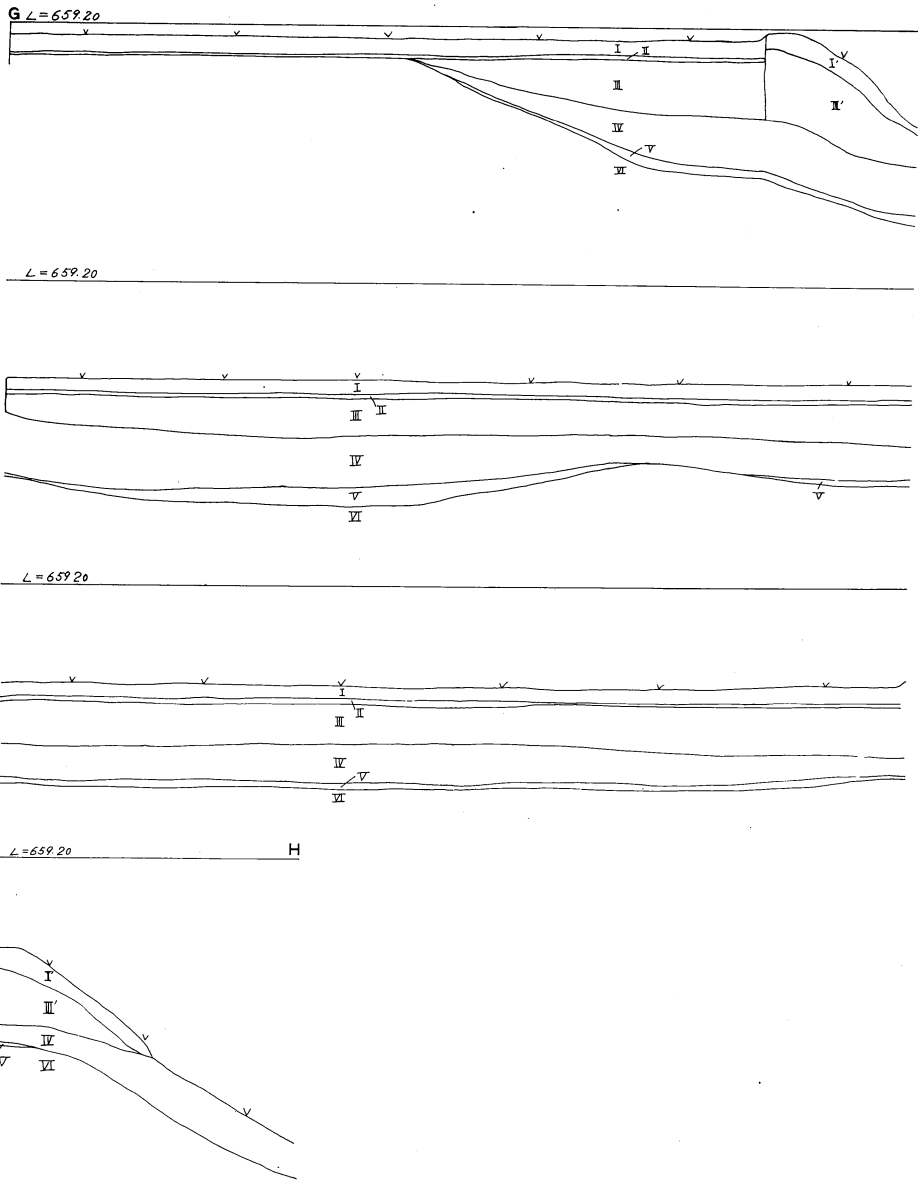
第5図 17-う~49-う (A-B) 地層断面図 ($S = \frac{1}{100}$)



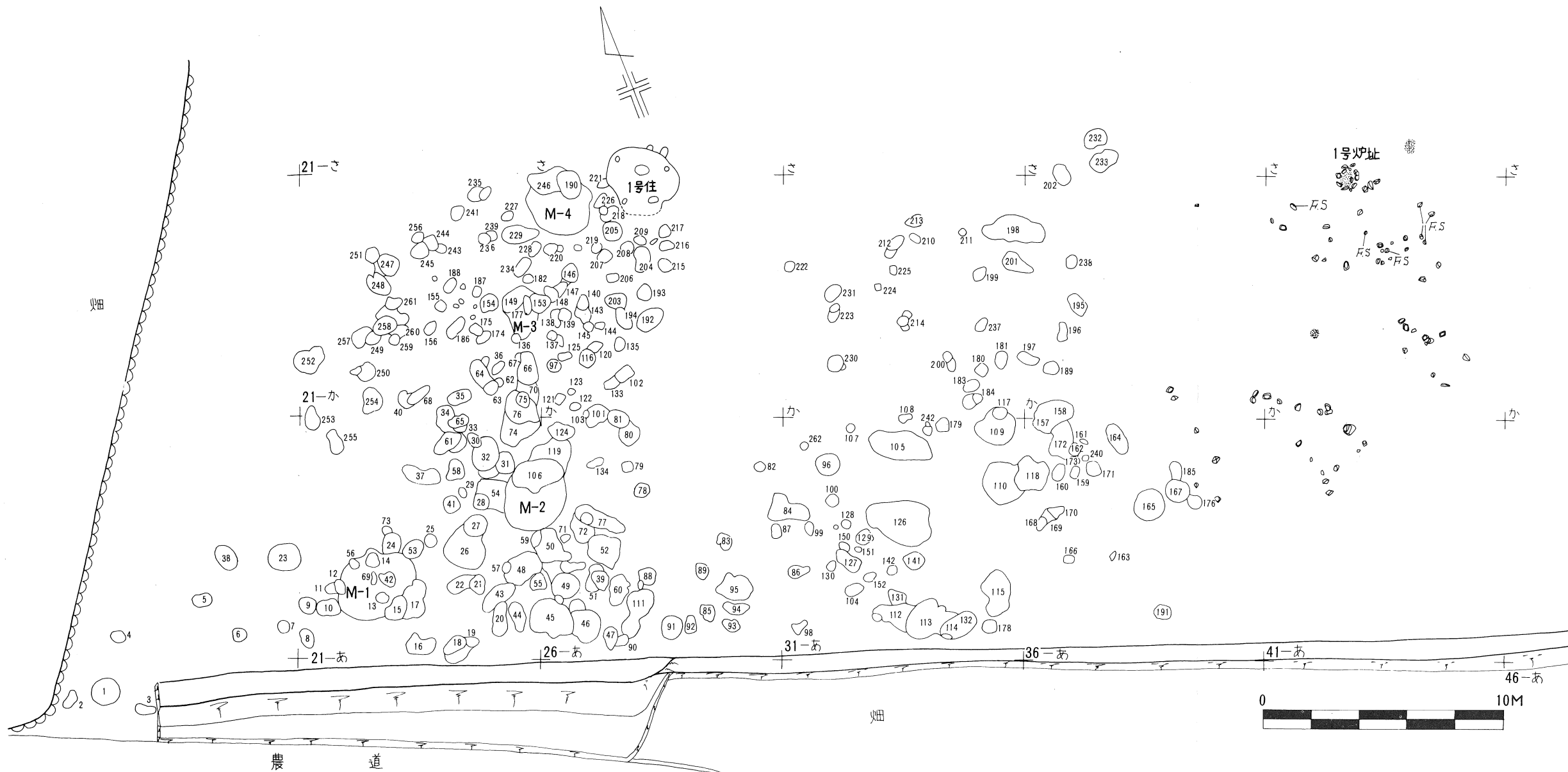
第6図 23-き~49-き (C-D) 地層断面図 ($S = \frac{1}{100}$)



第7図 25-さ~あ'地 (E-F) 地層断面図 ($S = \frac{1}{100}$)



第8図 46-な~あ地層 (G-H) 断面図 ($S = \frac{1}{100}$)



第9図 遺構全体図 (S = $\frac{1}{200}$)

第三章 発掘調査

第1節 調査概要

当遺跡は古くから土器・石礫が多量に出土することで知られていた。今回の発掘区域は水田のため詳細は不明であった。上穂沢川の段丘崖南傾斜面には今でも土器が散布している。「矢ノ根石」が捨える場所として有名であったこの場所から田中清文氏が、網状浮線文を持つ土器を多量に採集し、一躍注目を浴びることとなったわけである。

この南斜面は今回のほ場整備事業の対象地区からはずされ段丘上のみ調査となったわけである。当初縄文晩期末の遺跡は南斜面の限られた範囲のみであろうとあまり期待はしていなかったわけであるが、予想に反して後述する如く多量の遺物と住居址、土壇群を発見することができ非常にうれしい限りである。

このようなことから我々の予想以上の広がりを持つ遺跡となったわけであるが、遺跡は完掘することができなかった。調査日数・予算とも行き詰まり一部未調査部分（A区）を残したが、今回の開田による破壊はなく完全に埋没することとなったためやむを得ない措置と考えている。

計画段階においては第4図に示した如く広い範囲にグリットを設定したが、B・C・D・E・F区は試掘の結果破壊がいちじりしく遺物はまったく出土しなかったため、調査範囲をせばめて行うこととした。A区については先に述べた通り未調査区域で新田の下となっている。

調査はグリット方式を採用し、段丘突端対象区域南端に基準線をおき、ほぼ南北に2m毎にあいう……、東西に123……とした。試掘を行い遺構確認を待つて拡張する方法で臨み最終的には全面発掘となったわけである。調査面積2,000㎡を超えている。

遺物はドットマップ方式により一点一点図示し、土壇については断面を完全にとることとした。しかしながら調査整理段階において全点のドットした遺物について番号を付し図化することができないとの判断から遺構内遺物について図化して遺構別出土遺物の一覧表を付すこととした。ドットマップ方式は非常に日数と経費がかかり、それに見合う報告ができなければ何の役にも立たず限られた行政発掘においてそれ以上に犠牲となるものの方が多いのではなかろうかと思う。詳細な発掘調査は否定されるものではないが、それをいかに生かした報告を出すか真剣に考えねばならぬ問題である。丹念な調査の記録を図示する方法を考えぬ限り、自己満足のなことで終わり、危険な大きな犠牲をしいられることとなりはしないであろうか。

つぎに当遺跡の地層についてふれることとする。

第4図にみる如くA-B、C-D、E-F、G-Hの4本の地層断面を設定した。先にもふれたが南東に傾斜する台地で、E・F・Dはかなり高く丘陵となっていることがうかがわれる。

特徴的なこととして東側部分が非常に深くなり部分的に黒褐色土が厚く推積している。第8図の断面図にみられる如くである。39の東か一つの部分において非常に顕著である。この黒褐色土層中に多量の遺物がみられ、また炉址、焼石などがあり、生活面があったことがうかがわ

れる。

このことは西側においてローム面を切って同時代の土壇があることと非常に対比的である。

縄文時代晩期末の遺跡においては、遺物は多量に出土しても遺構が確認できないと言われておるが、東側はまさにそのとおりである。同一遺跡において対比的な立地を持つことに何か理由があるのであろうか今後の問題である。

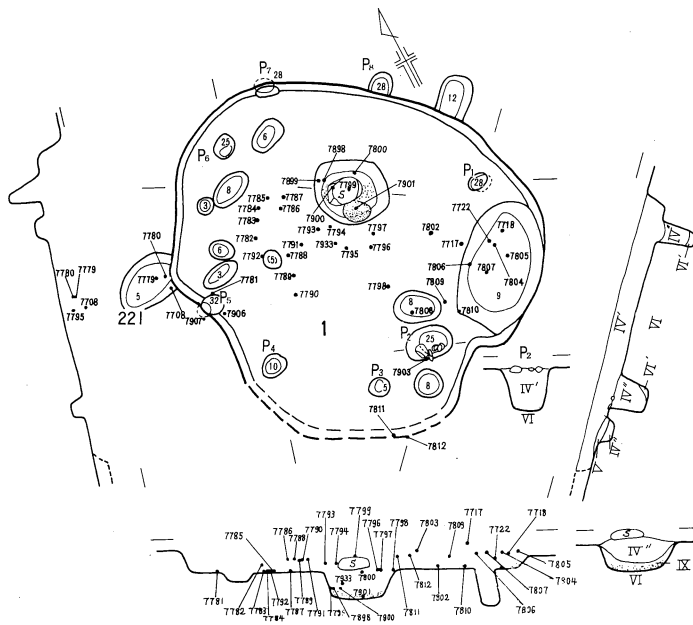
今回の調査によって明らかとなった遺構は、縄文時代晩期末の住居址1軒、大方同時期に属する土壇262基、マウンド4基、炉址である。この時期の遺跡としてはこれだけの遺構を伴う例は県下にはなく、住居址も県下で初めての発見である。 (気賀沢 進)

第2節 住居址 (第10・11図)

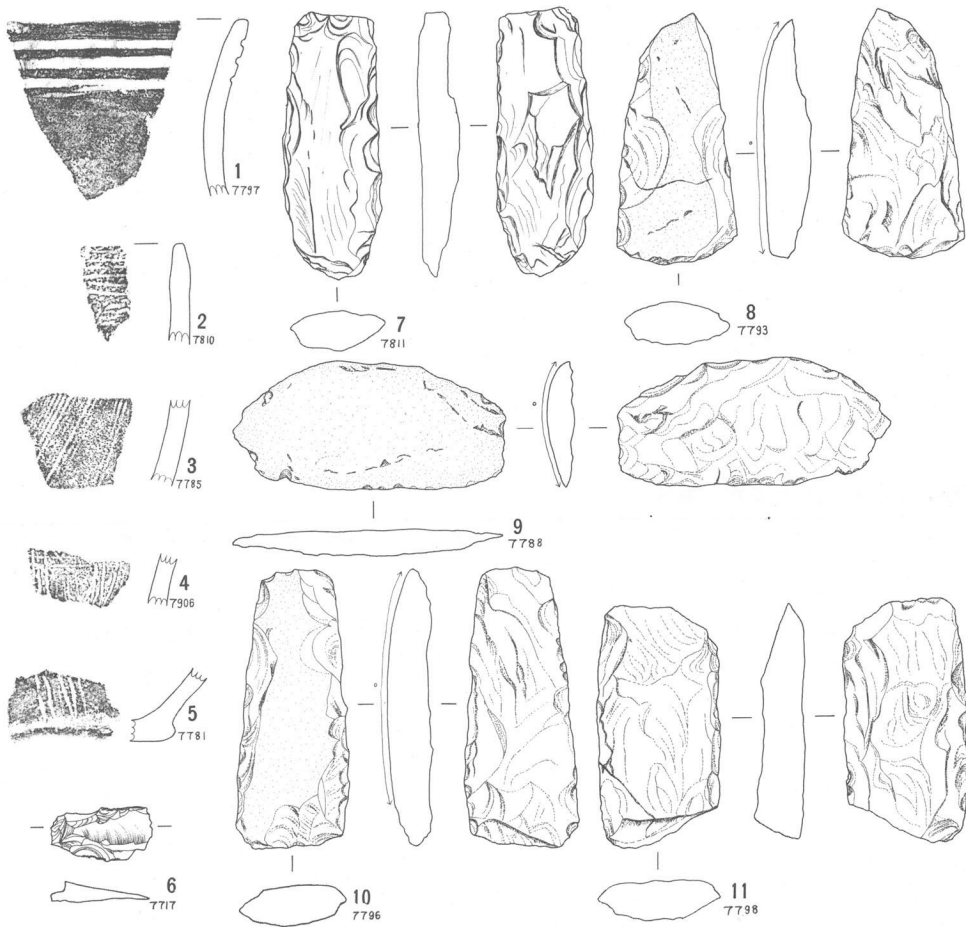
遺構 (第10図)

本住居址は非常に小さなものであるがただし縄文晩期末の住居址例の発見は県下では今回初めてのため比較はできないわけである。

プランは不整で南西部が攪乱されているが、だるま形と称すれば良いだろうか。大きさは東西3m、南北推定2.8mを測る。



第10図 住居址実測図 (S = 1/60)



第11図 住居址出土遺物（ $\frac{1}{3}$ ）

ローム層を掘り込んだ住居址で壁の立ち上がりはゆるやかで壁高は北及び西で20cm前後，東は低くなり10cm前後である。

床面は中央がやや凹む格好で固く叩きしめられており良好である。

覆土は黒褐色土で炭化物粒を含んでいる。

支柱穴はP₁、P₂、P₆の3本は確実である。南西はP₅と考えられるがやや壁に近い。

炉は住居址中央北寄りP₁とP₆のほぼ真ん中にあり、炉穴である。上面に石があり、わずかに焼土が上面にみられ、底部うすく焼土が推積している。大きさは60×50cmで深さは15cmほどである。

遺物（第11図）

遺物はあまり多くない。土器はすべて破片で器形を知り得るものはない。覆土上層より縄文

中期の土器が出土している。床面、炉内土器は縄文時代晩期末のものである所から住居址もその時期に属すであろう。

出土遺物は一覧表に示したとおりである。

土器は深鉢のみである。1は口縁部破片で3溝によって削去され2本の隆帯が残るもので、内外とも研磨されている。2～4は胴部破片で条線文のみられるものである。5は屈曲する立ち上がりを示す底部破片で条線文がみられる。

これらは氷Ⅰ式に比定されるものである。

石器は全部で9点出土している。内訳は打製石斧5点、横刃形石器2点、搔器1点、黒耀石剥片1点である。

7・8・10・11は打製石斧で短冊形他の1点も短冊形である。6は黒耀石製の搔器、9は硬砂岩製の横刃形石器である。

(小原晃一)

第1号住居址出土遺物一覧表

番号	種類	名称、形態、その他	層位	番号	種類	名称、形態、その他	層位	番号	種類	名称、形態、その他	層位
7717	石器	搔器、黒耀石	Ⅲ	7718	土器	縄文中期初、深鉢、口縁部	Ⅲ	7722	土器	Ⅲ-深鉢-口縁部(直立)-無文	Ⅳ'
7781	土器	Ⅲ-深鉢-底部-条線文	床面	7782	〃	縄文中期初、環鉢、胴部	〃	7783	石器	横刃形、硬砂岩	床面
7780	〃		〃	7788	石器	横刃形石器、硬砂岩	Ⅳ'	7790	土器	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	Ⅳ'
7792	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	〃	7793	〃	打製石斧、短冊形、完形、硬砂岩	〃	7794	石器	打製石斧、短冊形、頭欠、硬砂岩	〃
7795	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	〃	7796	〃	打製石斧、短冊形、完形、硬砂岩	床面	7797	土器	Ⅲ-深鉢-口縁部(直立)-溝	床面
7798	石器	打製石斧、短冊形、頭欠、硬砂岩	〃	7799	土器	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	Ⅳ'	7800	石器	黒耀石剥片	〃
7805	土器	縄文中期、深鉢、胴部	Ⅳ'	7806	〃	縄文中期、深鉢、胴部	床面	7807	土器	縄文中期、深鉢、胴部	〃
7808	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	〃	7809	〃	Ⅲ-深鉢-底部-無文	〃	7810	〃	Ⅲ-深鉢-口縁部(直立)-条線文	〃
7811	石器	打製石斧、短冊形、完形、黄岩	〃	7812	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	Ⅳ'	7898	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	炉内
7900	土器	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	炉内	7901	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-条痕文	炉内	7906	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-条線文	Ⅳ'
7907	〃	Ⅲ-深鉢-胴部-無文	P5内								

第3節 土塚

本遺跡で検出された土塚は、総数262基を数える。このほかの遺構は、前述の通り、住居址1軒、マウンド4基、炉址1基が検出された。群別に大別するならば、住居址周辺の土塚、マウンド周辺の土塚に分けられ、さらに比較的規模の大きな土塚の周辺の土塚という様に分けることが可能である。又、土塚のもつ性格や特殊性が認められるものもある。例えば、配石を伴うもの、焼土を伴うもの、焼石を伴うもの等があげられる。そのほか、出土遺物量の多少の関係もあげられるが、出土遺物については、後述したい。

なお、広い意味で、土塚の範ちゅうに含まれるマウンドについては、逆堆積という点から、後で取り上げて述べたい。

そこで、先づ、土塚の堆積土の層位についてであるが、Ⅳ層－黒褐色土（炭化物・ローム粒少し含む）、Ⅳ'層－黒褐色土（炭化物・ローム粒多く含む）、Ⅳ''層－黒褐色土（炭化物・ローム粒多く含む、ローム粒の割合が多い）、Ⅴ層－暗褐色土（炭化物多く含む）、Ⅵ層－ローム層Ⅵ'層－ロームふらん土、Ⅵ''層－ロームブロック、Ⅶ層－ローム土と黒色土の混土、Ⅷ層－焼土、Ⅷ'層－焼土とローム粒、Ⅸ層－灰、Ⅹ層－炭化物層（炭化種子）、Ⅺ層－二次堆積ローム、Ⅻ層－粘土、Ⅼ層－攪乱層、Ⅽ層－礫層として分け、この層位は、住居址、土塚、マウンド、炉址に共通するものとする。

土塚の分析にあたり、次の様な原則を設ける。前述のように群別には、住居址周辺の土塚、マウンド周辺の土塚、大規模土塚周辺の土塚別にする。次に、配石を伴うもの、焼土を伴うもの、焼石を伴うものに分ける。

土塚の形状については、

1. 平面・床面形は、長軸と短軸の差が10cm以内のものを円形、10cmをこえ20cm以内のものを楕円形、20cmをこえるものを長楕円形とし、これ以外で、大きいものや小さいものは、この限りではない。また、形状より、隅丸方形、三角形、ひし形、五角形、不整形とする。
2. 断面形は、皿状、タライ状、すり鉢状、円筒状、フラスコ状に分け、壁については、外傾、直壁（直に近いもの）、内傾とし、床は、丸底、平底、傾斜底、凸凹に分ける。
3. 深さは、開口部両端より床面までの垂直距離であるが、開口部が平らでない場合は、その中間点よりの距離とする。
4. 切合関係は、A土塚がB土塚を切るという場合は、 $A > B$ というように $>$ を用いて表わす。
5. 口径、底径は、共に、開口部、床面の長軸、短軸（ほぼ直行する両軸）の計測値であり資料整理時の再計測値である。
6. 土塚内の堆積土の状態を次の様に分類する。それぞれ、Ⅳ層→Ⅵ層、Ⅳ'層→Ⅵ層、Ⅳ''層→Ⅳ層→Ⅵ層、Ⅴ→Ⅵ層の4群にし、その間に堆積する各層を種類として分ける。そして、Ⅳ→ⅥをA群、Ⅳ'→ⅥをB群、つづいて、C群、D群とする。その他をE群とする。

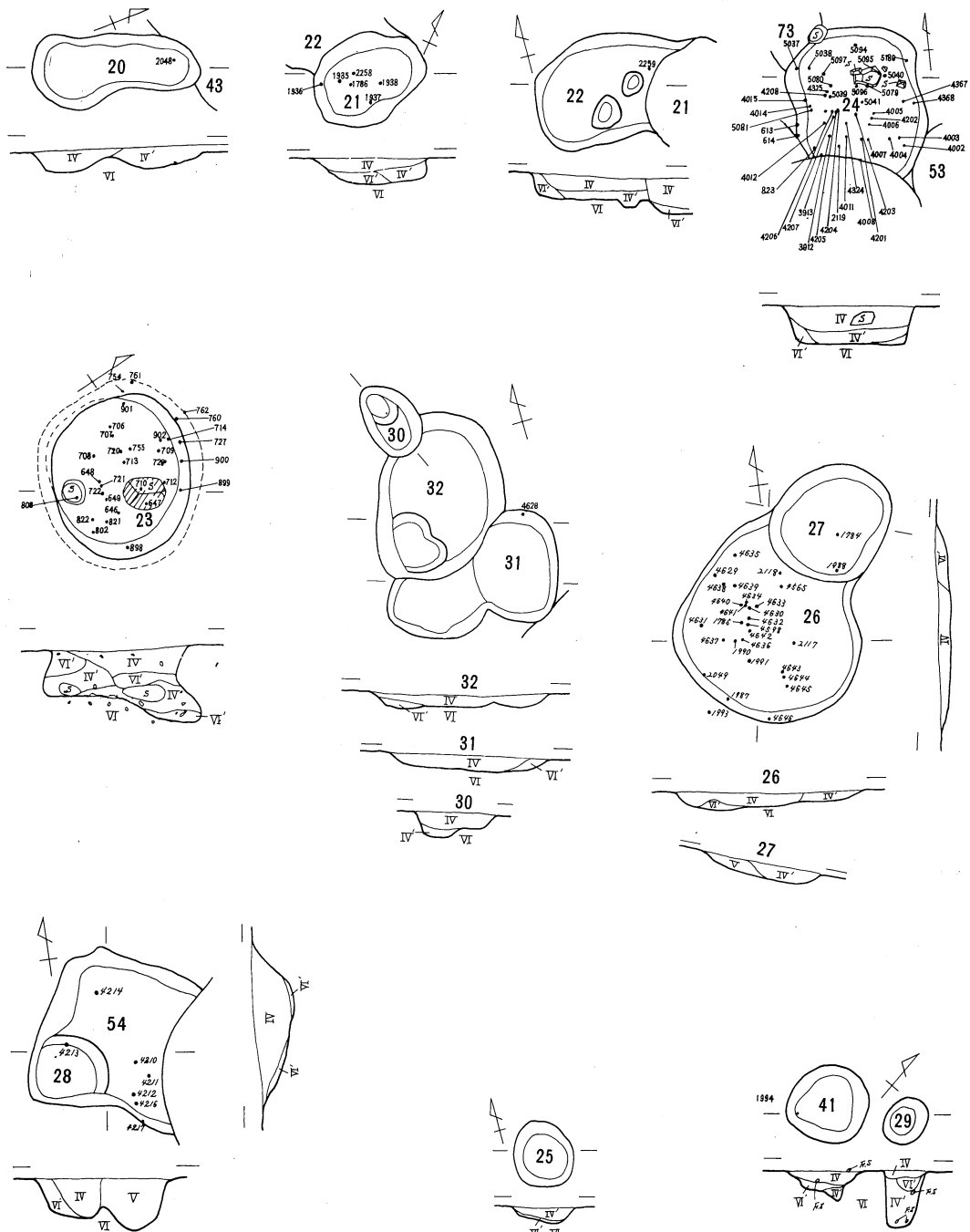
A-1 (Ⅳ→Ⅵ) A-2 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅵ) A-3 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅴ→Ⅵ) A-4 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅵ) A-5 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅳ→Ⅵ) A-6 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅶ→Ⅵ) A-7 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅵ) A-8 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅵ) A-9 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅶ''→Ⅵ'→Ⅵ) A-10 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅵ'→Ⅵ) A-11 (Ⅳ→Ⅴ→Ⅶ→Ⅵ) A-12 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅵ'→Ⅵ) A-13 (Ⅳ→Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅶ→Ⅵ) A-14 (Ⅳ→Ⅵ'←Ⅶ→Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅵ) A-15 (Ⅳ→Ⅴ→Ⅵ) A-16 (Ⅳ→Ⅴ→Ⅶ→Ⅵ)

B-1 (Ⅳ'→Ⅳ) B-2 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅵ) B-3 (Ⅳ'→Ⅴ→Ⅵ) B-4 (Ⅳ'→Ⅳ'→Ⅵ) B-5 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅵ) B-6 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅵ'→Ⅵ) B-7 (Ⅳ'→Ⅴ→Ⅵ'→Ⅵ) B-8 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅵ'→Ⅵ) B-9 (Ⅵ''→Ⅵ)

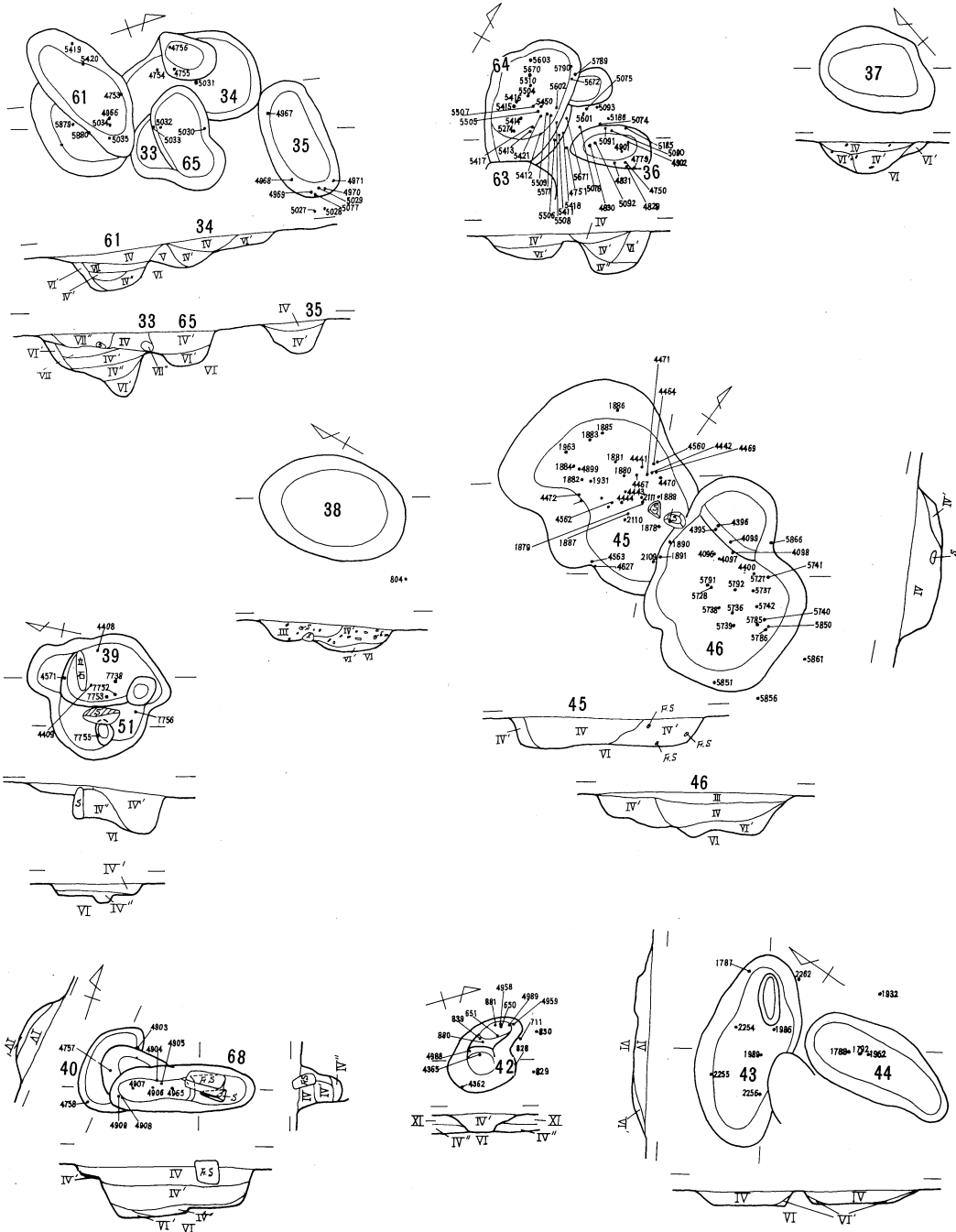
C-1 (Ⅳ'→Ⅳ→Ⅵ) C-2 (Ⅳ'→Ⅳ→Ⅵ'→Ⅵ) C-3 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅳ→Ⅵ) C-4 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅳ→Ⅵ'→Ⅵ) C-5 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅳ→Ⅵ) C-6 (Ⅳ'→Ⅳ''→Ⅴ→Ⅳ→Ⅵ'→Ⅵ) C



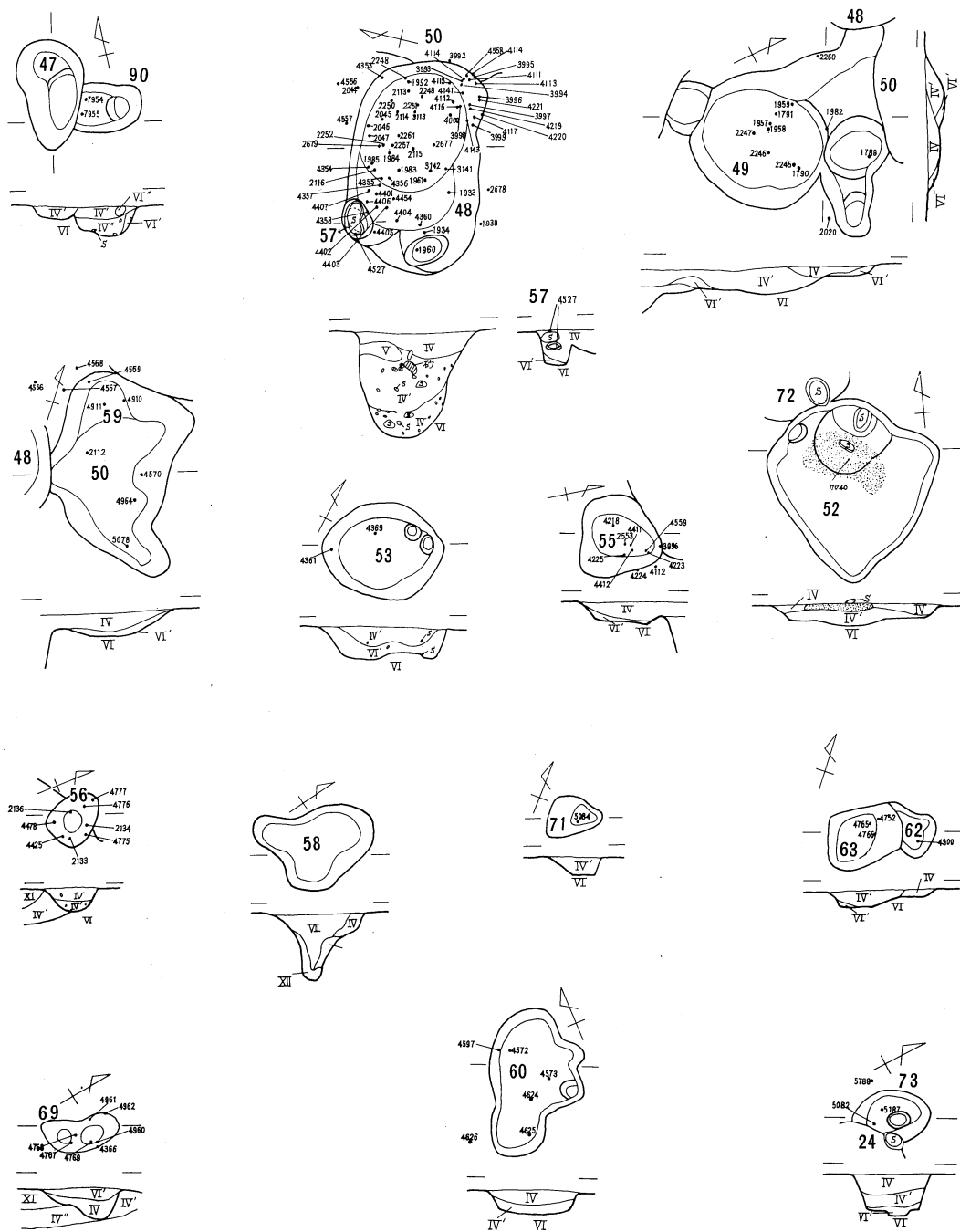
第13图 土坑实测图 (S = 1/60)



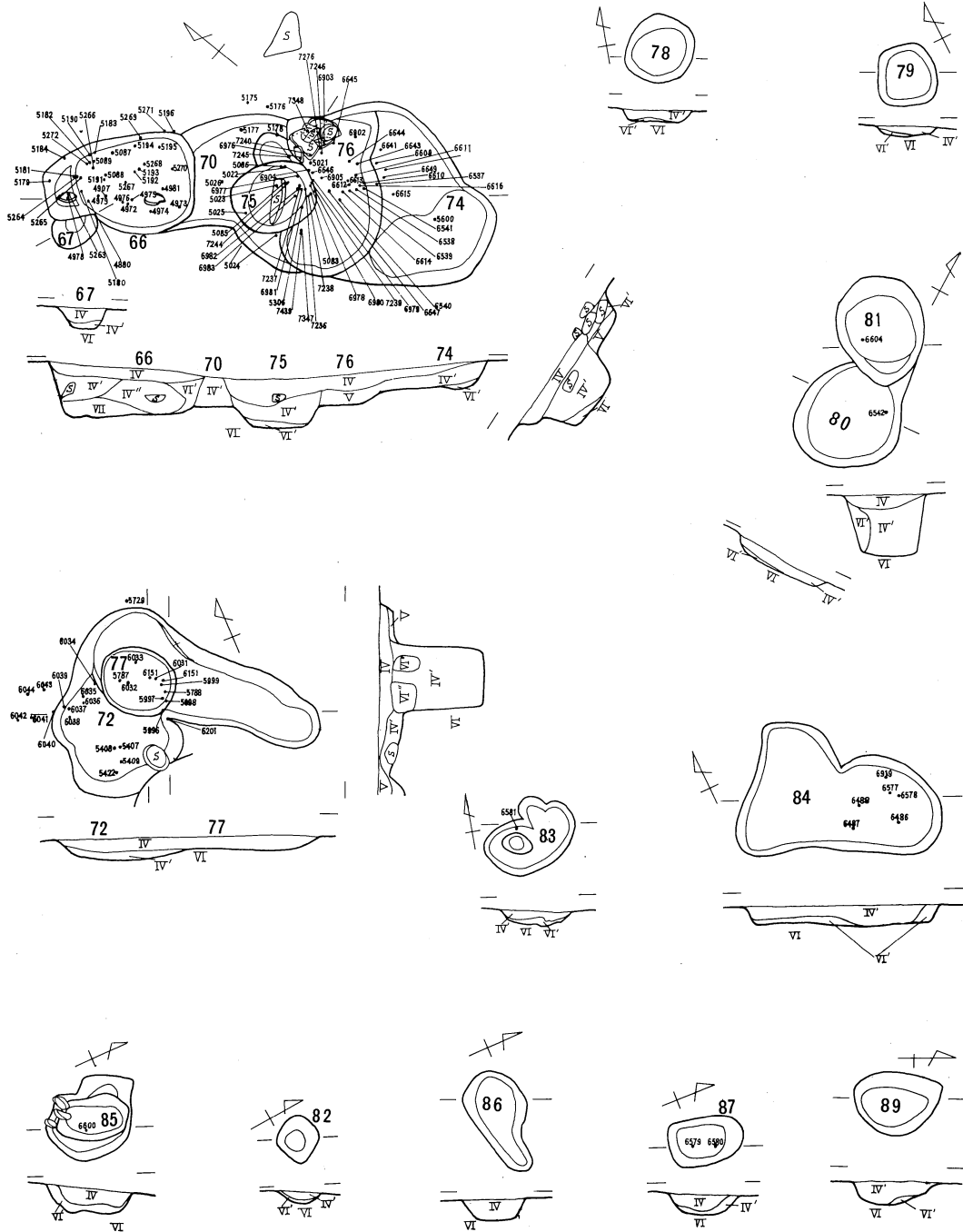
第14図 土坑実測図 (S = $\frac{1}{50}$)



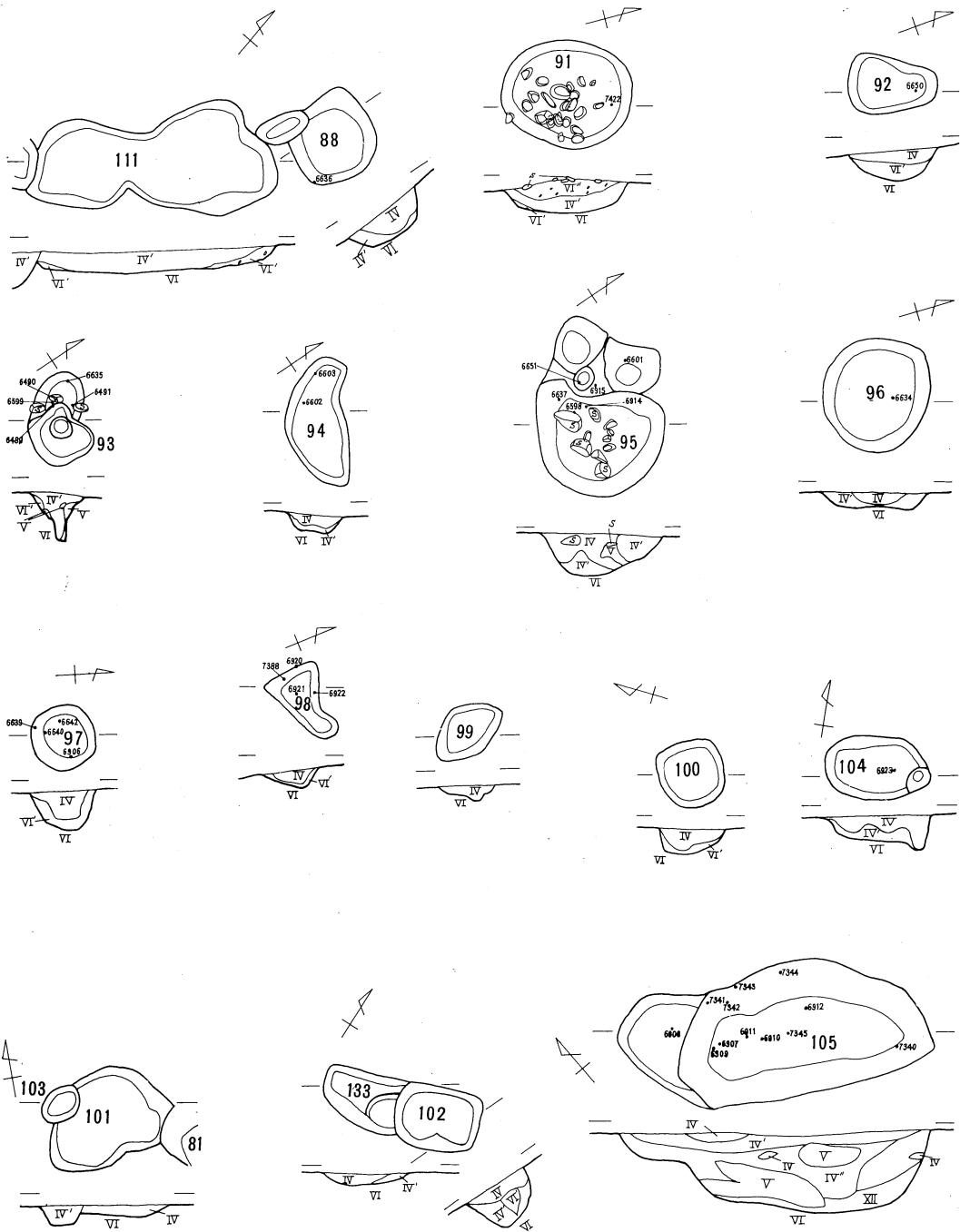
第15図 土坑実測図 (S = $\frac{1}{50}$)



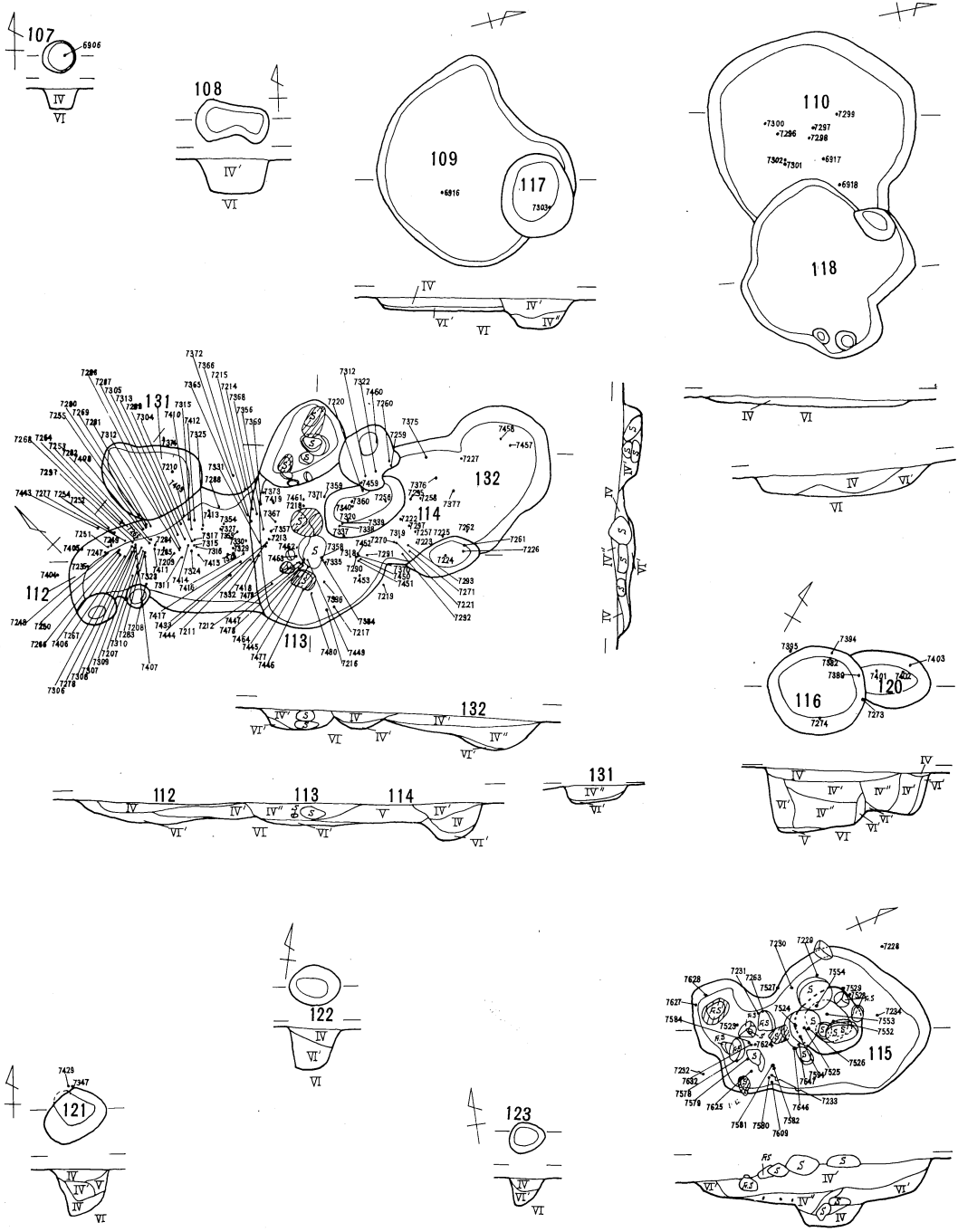
第16图 土坡实测图 (S = 1/50)



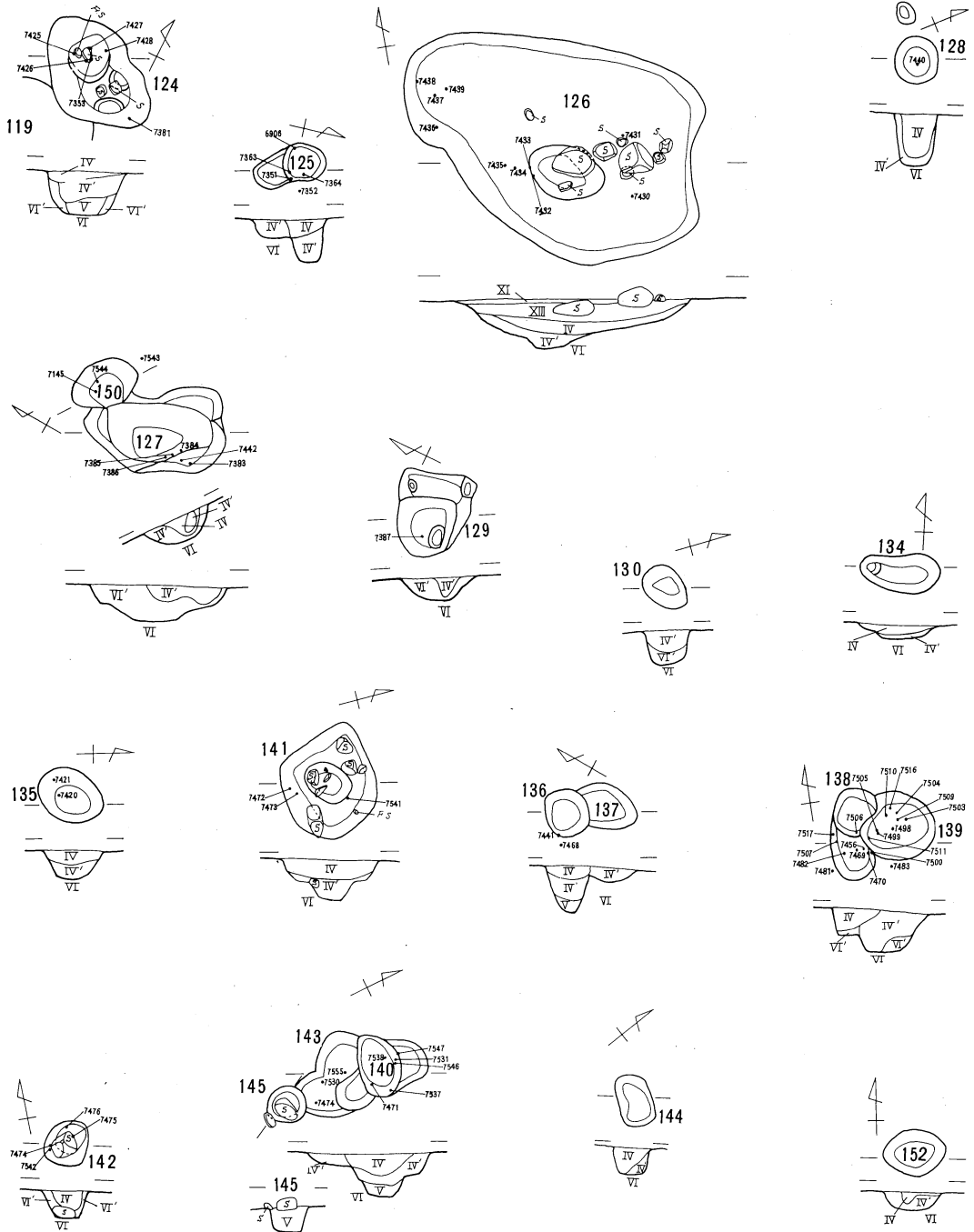
第17图 土坛実測図 (S = $\frac{1}{60}$)



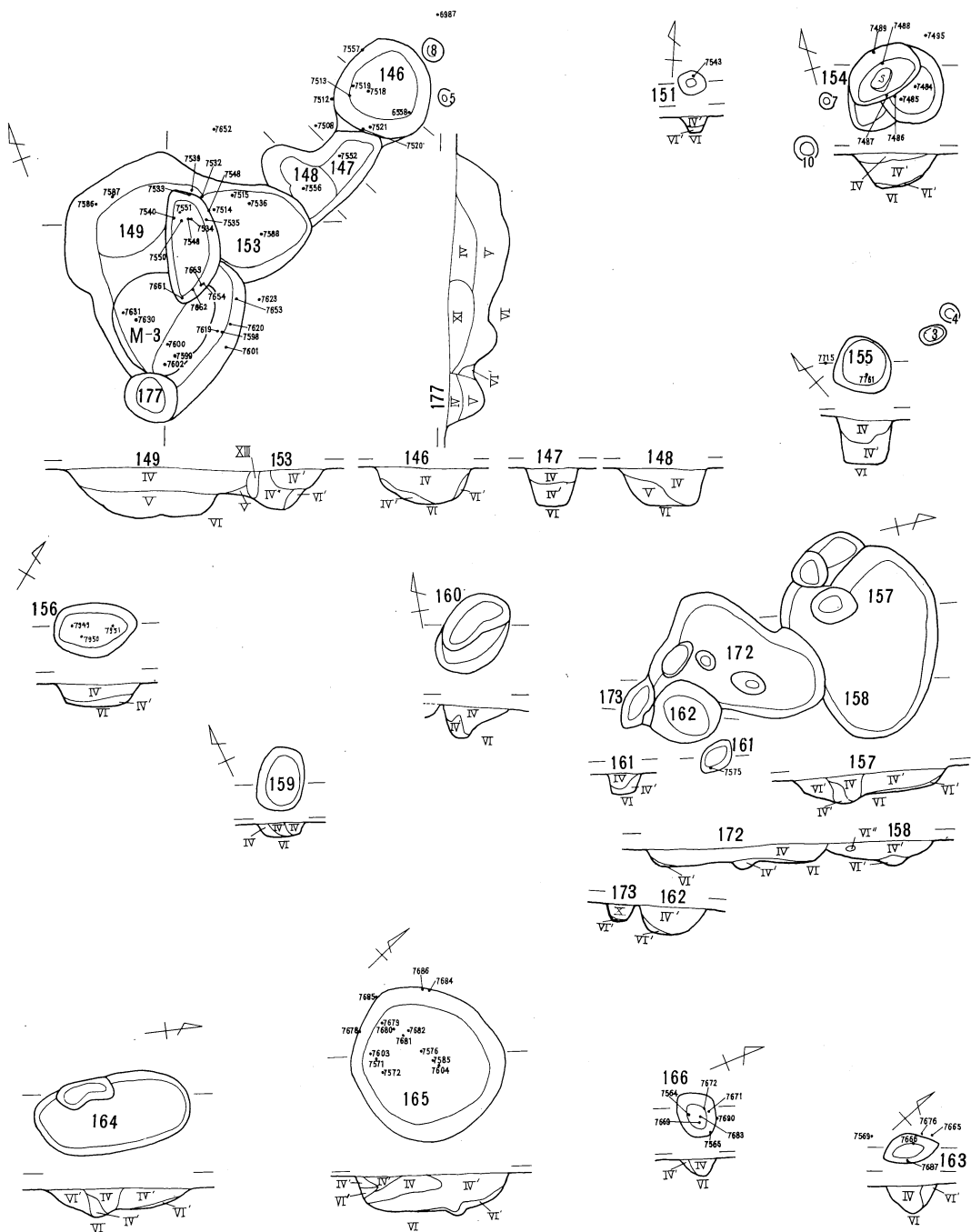
第18图 土坑实测图 (S = 1/50)



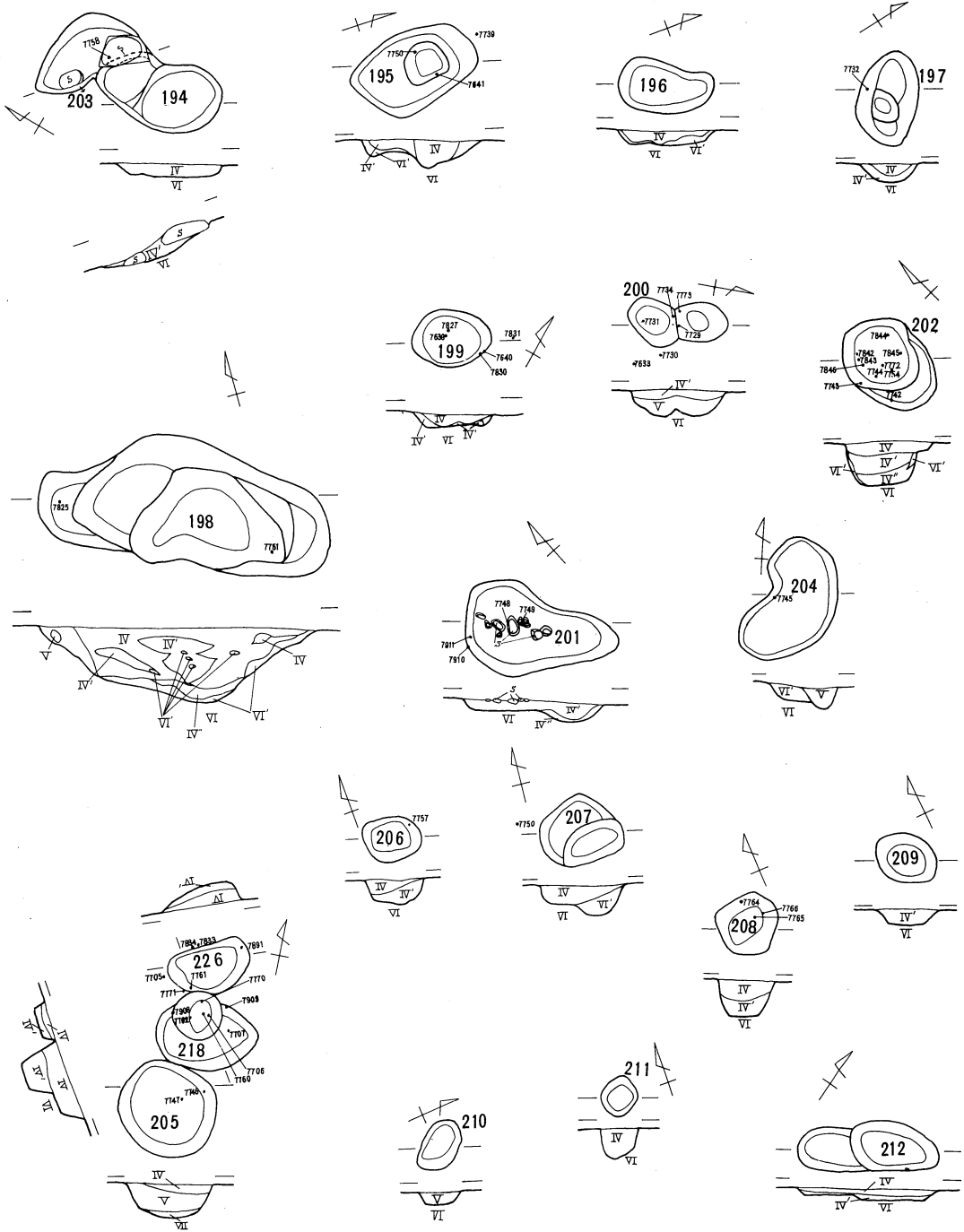
第19图 土坑实测图 (S = 1/60)



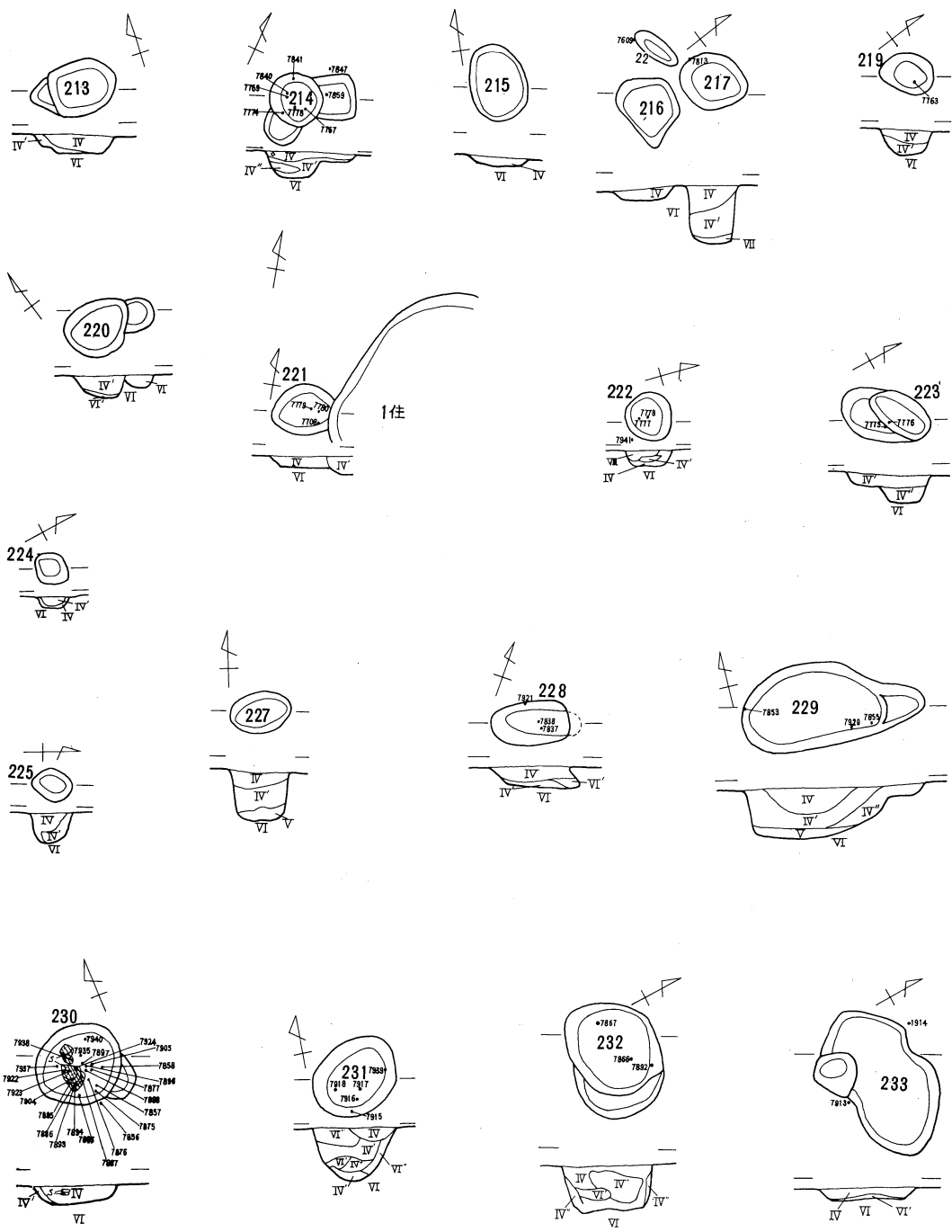
第20図 土坑実測図 (S = $\frac{1}{60}$)



第21图 土坑実測図 (S = $\frac{1}{60}$)



第23图 土坑实测图 (S = 60)



第24図 土塚実測図 (S = 1/50)

－ 7 (IV'→VI'→IV→VI) C－ 8 (IV'→IV→V→VI'→VI) C－ 9 (IV→IV'→V→IV→VI)

D－ 1 (V→VI) D－ 2 (V→VI'→VI)

E－ 1 (X→VI) F－ 1 (VIII→IV→VI'→VI)

住居址周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
204	1住南域	不整形	不整形	タライ状	外傾	凹凸	114× 48	106× 48	14			D－ 2	
205	〃 西域	円形	円形	すり鉢状	〃	丸底	87× 80	66× 60	29			A－ 16	
206	〃 南域	楕円形	楕円形	〃	〃	凹凸	48× 25	34× 25	20			A－ 2	
207	〃 〃	隅丸方形	隅丸方形	タライ状	〃	平底	65× (50)	52× (36)	16			A－ 4	
208	〃 〃	五角形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	54× 24	34× 24	32			A－ 2	
209	〃 〃	楕円形	〃	タライ状	〃	〃	58× 28	35× 28	14			B－ 1	
215	〃 〃	〃	〃	皿状	〃	〃	68× 40	56× 40	8			A－ 1	
216	〃 〃	不整形	五角形	〃	〃	〃	60× 40	43× 40	8			〃	
217	〃 〃	楕円形	楕円形	円筒状	直壁	丸底	62× 33	44× 33	51			A－ 6	
218	〃 西域	〃	〃	タライ状	外傾	平底	90× 42	74× 42	18			A－ 2	
219	〃 〃	〃	〃	すり鉢状	〃	丸底	43× 20	25× 20	22			〃	
221	〃 〃	三角形	三角形	タライ状	〃	平底	58× 29	46× 29	10	1住>221		A－ 1	
226	〃 〃	不整形	不整形	〃	〃	丸底	73× 34	50× 34	18			A－ 2	

1号マウンド周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
7	西域	円形	不整形	タライ状	外傾	丸底	52× 50	()× ()	23		1	A－ 5	
8	〃	長楕円形	円形	すり鉢状	〃	〃	92× 68	57× 41	25			〃	
9	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	平底	85× 75	80× 74	12		1	A－ 4	
10	〃	〃	〃	〃	〃	凹凸	98× 60	91× 55	20	10>M－ 1	1	A－ 5	
11	西壁	〃	〃	〃	〃	平底	86× 74	80× 55	14	12>11		〃	
12	マウンド内	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	〃	60× 33	45× 15	30	12>M－ 1		A－ 4	
13	〃	円形	円形	〃	〃	〃	74× 38	69× 47	35	13>M－ 1	1	〃	
14	〃	〃	三角形	〃	〃	丸底	65× 36	61× 37	31	14>M－ 1	1	C－ 2	
15	南壁	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	116× 93	104× 90	25	15>M－ 1	1	A－ 4	
16	南域	〃	〃	〃	〃	〃	107× 82	104× 50	30		2	A－ 5	
17	南壁	〃	〃	皿状	〃	平底	160× 113	140× 85	25		5	〃	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
18	南域	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	外傾	丸底	98×70	76×55	41			A-4	
19	〃	円形	円形	〃	〃	〃	49×30	45×28	25	19>18		〃	
21	東域	長楕円形	長楕円形	タライ状	〃	平底	100×78	78×46	23	21>22		A-5	
22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(160)×93	(130)×72	20	1	2	〃	
24	北壁	〃	〃	〃	〃	〃	(135)×110	(120)×94	33	M-1>24		〃	
25	東域	円形	円形	皿状	〃	丸底	57×38	52×38	14			B-4	
26	〃	不整形	不整形	〃	〃	平底	(180)×165	(162)×150	15	27>26		A-5	
27	〃	円形	円形	〃	〃	〃	106×87	95×64	13			B-3	
42	マウンド内	不整形	不整形	すり鉢状	〃	〃	76×56	52×24	18	42>M-1	2	B-1	
53	東域	円形	円形	タライ状	〃	凹凸	106×82	84×61	28		2	B-4	
56	北壁	長楕円形	円形	すり鉢状	〃	丸底	50×177	38×16	21	56>M-1		A-2	
69	マウンド内	〃	楕円形	タライ状	〃	凹凸	63×288		25	69>M-1	2	C-1	
73	北域	〃	〃	すり鉢状	〃	平底	68×566	46×32	32			A-5	

2号マウンド周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
28	西域	円形	円形	すり鉢状	外傾	平底	68×52	60×46	34	54>28		A-4	
29	〃	長楕円形	長楕円形	円筒状	〃	丸底	42×25	35×21	50			A-5	
30	北域	〃	〃	タライ状	〃	平底	70×45	54×26	14		1	A-2	
31	〃	不整形	不整形	皿状	〃	〃	145×96	132×78	14			A-4	
32	〃	長楕円形	長楕円形	〃	〃	〃	146×111	122×85	8	32>31	2	〃	
33	西域	(円形)	(円形)	すり鉢状	〃	〃	(46)×36	(60)×42	20	65>33		A-1	
34	〃	長楕円形	長楕円形	皿状	〃	〃	(124)×77	(108)×65	13	61, 65>34	1	A-5	
35	〃	〃	〃	タライ状	〃	丸底	106×54	84×36	27			A-2	
36	北域	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	70×36	46×22	36			A-9	
37	西域	〃	〃	〃	〃	〃	100×72	77×45	27			A-5	
40	〃	〃	〃	タライ状	〃	〃	76×(46)	66×(36)	20	68>40		A-2	
41	〃	円形	三角形	すり鉢状	〃	凹凸	70×49	68×47	17			A-5	
54	西壁	不整形	不整形	皿状	〃	丸底	(150)×130	(140)×110	35	54>28		D-1	
58	西域	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	86×62	62×52	57			(A-6)	
61	〃	長楕円形	長楕円形	〃	〃	〃	133×55	100×42	33	61>34		A-14	
62	北域	(不整形)	(不整形)	タライ状	〃	平底	(48)×38	(36)×26	6	63>62		A-1	
63	〃	楕円形	楕円形	〃	〃	〃	66×50	38×34	14			B-4	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
64	北域	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	丸底	120×71	110×55	22	63>64		B-4	
65	西域	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	93×48	74×38	30	65>33		〃	
66	北域	楕円形	楕円形	〃	〃	凹凸	108×88	98×76	44	66>67, 70		A-14	
67	〃	(〃)	(〃)	〃	〃	平底	42×30	20×14	18			A-2	
68	西域	長楕円形	長楕円形	タライ状	〃	〃	124×40	110×25	34			A-9	
70	北域	不整形	不整形	〃	〃	〃	()×104	()×90	26	66, 75>70		B-1	
74	〃	〃	〃	〃	〃	凹凸	140×()	110×()	20	76>74		A-5	
75	〃	楕円形	円形	すり鉢状	〃	平底	72×60	52×47	45	75>70, 76		A-5	
76	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	140×88	130×700	26	75>76>74		A-3	
78	東域	円形	円形	円筒状	直壁	〃	60×58	48×42	10			B-4	
79	〃	隅丸方形	隅丸方形	皿状	外傾	凹凸	54×52	42×40	10			〃	
80	〃	円形	円形	〃	〃	平底	93×93	82×71	12	81>80		〃	
81	〃	楕円形	〃	すり鉢状	〃	丸底	96×75	58×58	53			A-5	
97	北域	隅丸方形	楕円形	〃	〃	〃	55×54	39×34	34			A-4	
101	東域	不整形	不整形	皿状	〃	凹凸	116×80	92×68	10	103>101		A-1	
103	〃	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	平底	38×28	28×18	18			B-1	
106	マウンド内	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	丸底	208×118	156×90	70	106>M-2		A-3	
119	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	()×156	()×126	24	M-2>119		A-5	
121	北域	〃	〃	〃	〃	斜底	54×40	28×34	40			C-9	
122	〃	〃	〃	〃	〃	丸底	44×35	28×16	36			A-4	
123	〃	円形	〃	〃	〃	〃	32×26	21×16	24			〃	
124	〃	不整形	不整形	〃	〃	平底	116×77	70×38	38		3	A-10	
125	〃	円形	円形	円筒状	直壁	〃	38×32	28×26	38		1	A-2	
134	東域	長楕円形	長楕円形	皿状	外傾	丸底	70×35	54×16	12		1	〃	

3号マウンド周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
102	東域	楕円形	楕円形	すり鉢状	外傾	斜底	75×56	61×42	37	102>133		A-5	
116	〃	円形	円形	〃	〃	凹凸	84×78	68×53	55	116>120		A-12	
120	〃	長楕円形	長楕円形	〃	〃	〃	(80)×48	(60)×25	38			A-9	
133	〃	〃	〃形	皿状	〃	丸底	(80)×48	(62)×35	10		1	A-2	
135	〃	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	60×45	32×24	25			〃	
136	〃	円形	円形	円筒状	〃	〃	42×38	26×25	40	136>137		A-3	
137	〃	楕円形	楕円形	タライ状	〃	〃	(60)×40	(44)×26	12			B-1	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
138	東域	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	平底	80×(36)	64×(26)	24		1	A-4	
139	東域	円形	円形	すり鉢状	外傾	平底	66×60	54×38	36	139>138		A-5	
140	〃	楕円形	楕円形	〃	〃	凹凸	58×36	44×26	36		1	A-3	
143	〃	不整形	不整形	皿状	〃	平底	76×(56)	61×(40)	10			B-1	
144	〃	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	46×30	34×20	23			A-2	
145	〃	円形	円形	〃	〃	〃	35×34	25×23	20			D-1	
146	〃	〃	〃	〃	〃	丸底	83×83	66×58	30			A-5	
147	〃	長楕円形	長楕円形	タライ状	〃	平底	100×50	80×26	32			A-2	
148	〃	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	78×(54)	54×36	32	148>147		A-15	
149	北域	不整形	不整形	タライ状	〃	凹凸	198×120	158×100	50	M-3>149		〃	
153	東域	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	丸底	(100)×85	(86)×66	34	149>153		B-8	
154	西域	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	丸底	66×44	55×26	30		2	A-5	
155	〃	円形	円形	円筒状	直壁	平底	48×47	37×39	38			A-2	
156	〃	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	丸底	72×48	58×30	18			〃	
174	〃	〃	〃	すり鉢状	〃	平底	75×46	61×28	38			C-5	
175	〃	隅丸方形	隅丸方形	円筒状	〃	丸底	46×46	37×30	40	175>174	1	A-10	
177	南壁	円形	円形	すり鉢状	〃	〃	46×44	30×24	30	177>M-3		A-15	
182	北域	〃	〃	〃	〃	〃	40×36	25×22	14			A-4	
186	西域	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	平底	102×58	82×38	36			A-11	
187	〃	隅丸方形	隅丸方形	円筒状	〃	丸底	44×40	30×28	42			(A-3)	
188	〃	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	〃	79×48	50×30	25			C-1	
192	東域	〃	〃	タライ状	〃	〃	120×80	106×60	22			A-2	
193	〃	円形	円形	すり鉢状	直壁	平底	68×64	54×44	28			〃	
194	〃	楕円形	楕円形	皿状	外傾	〃	74×60	67×47	11		1	A-1	
203	〃	三角形	三角形	〃	〃	丸底	104×57	90×38	10	203>194		B-1	

4号マウンド周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
190	北壁	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	外傾	平底	128×100	85×48	80	190>M-2		A-3	
220	西域	楕円形	楕円形	〃	〃	丸底	60×48	48×33	20		1	B-4	
227	〃	〃	〃	円筒状	〃	凹凸	55×38	47×23	42			A-3	
228	〃	〃	〃	半フラスコ状	内傾	丸底	70×40	67×23	20			A-5	
229	〃	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	外傾	〃	155×76	128×58	26		1	A-8	
234	〃	〃	〃	〃	〃	平底	100×50	78×34	38			A-5	
235	〃	楕円形	楕円形	〃	〃	丸底	(86)×64	(64)×44	26			A-16	
236	〃	円形	円形	〃	〃	平底	53×48	37×36	37			B-3	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
239	西域	楕円形	楕円形	すり鉢状	外傾	平底	50×41	34×21	21			A-1	
241	〃	〃	〃	〃	〃	〃	66×56	56×40	20			A-2	
243	〃	〃	〃	タライ状	〃	凹凸	(56)×42	(40)×25	18			B-8	
244	〃	円形	円形	すり鉢状	〃	平底	74×64	52×40	28	244>243		B-2	
245	〃	〃	〃	〃	〃	〃	76×76	60×48	28			B-8	
246	北壁	長楕円形	長楕円形	〃	〃	凹凸	(140)×100	(72)×43	74	246>M-4	2	(A-3)	
256	西域	円形	円形	〃	〃	平底	50×46	35×33	27			A-5	

1号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
1	M-1西域	円形	円形	すり鉢状	外傾	丸底	130×115	115×102	40			(炉址)	
2	D-1 〃	不整形	不整形	皿状	〃	平底	68×43	60×26	9		1	A-4	
3	〃 東域	長楕円形	長楕円形	〃	〃	凹凸	92×52	72×34	13			〃	
4	〃 〃	円形	円形	タライ状	〃	平底	70×62	48×40	21			〃	

23号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
5	西域	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	凹凸	104×81	90×64	40			A-4	
6	〃	円形	円形	〃	〃	丸底	76×72	60×50	24		3	A-5	
23	M-1西域	〃	〃	フラスコ状	〃	凹凸	140×125	120×112	65			A-9	
38	西域	長楕円形	長楕円形	タライ状	〃	〃	130×88	93×66	23			(B-4)	

39号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
20	西域	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	丸底	146×63	125×48	19			A-2	
39	M-2南域	〃	〃	すり鉢状	〃	凹凸	86×60	71×49	32	39>51	1	B-2	
43	西域	〃	〃	皿状	〃	平底	166×80	140×58	12	20>43		A-4	
44	〃	〃	〃	〃	〃	〃	134×63	124×39	10			〃	
45	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	(190)×130	(150)×93	28	46>45		A-2	
46	〃	〃	〃	〃	〃	凹凸	186×141	155×105	32			A-5	
47	南域	〃	〃	皿状	〃	丸底	96×58	66×25	11	47>90		B-1	
48	西域	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	〃	185×112	138×88	91	48>50	2	A-8	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
49	西域	円形	円形	タライ状	外傾	丸底	114×111	105×84	22		3	B-4	
50	北域	不整形	不整形	〃	〃	平底	145×104	111×73	20	50>59		A-4	
51	〃	〃	〃	皿状	〃	〃	125×110	118×93	10	39>51		B-2	
52	〃	隅丸方形	隅丸方形	〃	〃	〃	140×100	126×124	20			(A-2)	
55	西域	不整形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	71×65	71×36	17		1	A-4	
57	北域	楕円形	〃	〃	〃	丸底	35×25	22×15	30	57>48		〃	
59	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	()×()	()×()	16	50>59		A-1	
60	南域	〃	〃	〃	〃	〃	128×80	112×66	20		1	A-2	
71	北域	楕円形	三角形	すり鉢状	〃	平底	48×36	21×19	17			B-1	
72	〃	不整形	不整形	タライ状	〃	丸底	166×114	150×95	20	77>72		A-2	
77	〃	円形	円形	円筒状	直壁	平底	66×58	58×50	90			〃	
88	東域	隅丸方形	隅丸方形	すり鉢状	外傾	丸底	74×74	54×51	24		1	〃	
90	南域	楕円形	楕円形	〃	〃	〃	(70)×44	(50)×28	20	47>90	1	B-8	
111	〃	不整形	不整形	皿状	〃	〃	216×100	190×80	18	90>111		B-4	

95号土塚周辺の土塚

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
83	北域	不整形	不整形	タライ状	外傾	凹凸	80×50	71×38	13		1	B-4	
85	西域	〃	〃	〃	〃	〃	76×70	64×60	20		1	A-4	
86	東域	〃	〃	〃	〃	平底	95×80	84×83	18			A-1	
89	北域	三角形	三角形	〃	〃	丸底	72×55	57×34	20			B-4	
91	西域	楕円形	楕円形	〃	〃	〃	114×92	94×75	26			(〃)	
92	〃	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	78×52	58×44	26			A-4	
93	南域	不整形	不整形	〃	〃	平底	60×44	44×42	23		1	B-7	
94	〃	三角形	三角形	〃	〃	凹凸	112×54	98×44	14			A-2	
95		不整形	不整形	〃	〃	丸底	112×94	82×66	38		3	A-3	
98	南域	〃	〃	〃	〃	〃	68×50	54×30	18			A-4	
99	東域	ひし形	ひし形	タライ状	〃	凹凸	68×44	52×30	8			A-1	

84号土塚周辺の土塚

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
82	北域	隅丸方形	円形	タライ状	外傾	丸底	35×34	18×17	10			B-4	
84		不整形	不整形	〃	〃	凹凸	170×120	152×110	17			〃	
87	南域	楕円形	楕円形	〃	〃	平底	66×28	42×28	18			A-2	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
100	南域	隅丸方形	隅丸方形	すり鉢状	外傾	丸底	60×58	44×46	22			A-4	
262	北域	円形	円形	皿状	〃	〃	40×35	30×26	9			A-2	

105号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
105		不整形	不整形	すり鉢状	外傾	丸底	220×116	172×59	68		1	A-13	
107	北域	円形	円形	〃	〃	平底	29×28	24×22	18			A-1	
108	〃	不整形	不整形	〃	〃	〃	64×37	50×21	31			B-1	
200	東域	楕円形	楕円形	〃	〃	凹凸	50×36	30×22	23		1	B-3	
242	北域	円形	円形	タライ状	〃	〃	50×41	32×28	14			A-2	

126号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
96	北域	円形	円形	タライ状	外傾	凹凸	100×92	80×68	14			A-2	
104	西域	長楕円形	長楕円形	〃	〃	平底	90×56	74×41	22		1	〃	
112	南域	不整形	不整形	〃	〃	凹凸	()×110	()×85	18			A-5	
113	〃	〃	〃	〃	〃	〃	()×116	()×104	19	113>112		B-8	
114	〃	〃	〃	〃	〃	平底	()×120	()×103	15			C-8	
115	〃	〃	〃	〃	〃	丸底	208×128	194×110	26		1	C-4	
126		〃	〃	〃	〃	〃	260×187	244×165	28		1	(A-2)	
127	西域	〃	三角形	〃	〃	〃	123×75	43×16	31			B-4	
128	〃	円形	円形	円筒状	直壁	〃	42×38	26×23	45			A-2	
129	〃	隅丸方形	隅丸方形	すり鉢状	外傾	〃	53×51	34×30	20		1	B-4	
130	〃	楕円形	三角形	〃	〃	〃	43×32	23×14	30			〃	
131	南域	不整形	不整形	タライ状	〃	平底	86×64	71×58	16			B-9	
132	〃	〃	〃	〃	〃	丸底	(110)×98	(80)×70	26	114>132		B-8	
141	〃	隅丸方形	隅丸方形	〃	〃	〃	84×80	62×56	22		1	A-2	
142	〃	円形	円形	すり鉢状	〃	平底	41×36	28×22	24			A-4	
150	西域	楕円形	〃	〃	〃	丸底	50×40	28×28	21	127>150		A-2	
151	〃	円形	〃	〃	〃	平底	22×21	9×7	14			A-4	
152	〃	ひし形	ひし形	タライ状	〃	丸底	55×42	35×23	16			A-2	
178	南域	円形	円形	〃	〃	〃	62×60	46×38	18			A-5	

109号土塚周辺の土塚

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
109		不整形	不整形	皿状	外傾	平底	164×138	158×136	12	117>109	1	A-4	
110	南域	円形	円形	〃	〃	〃	(180)×182	(160)×160	8	118>110		A-1	
117	北壁	〃	〃	すり鉢状	〃	〃	74×62	52×38	26			B-2	
118	南域	不整形	不整形	タライ状	〃	丸底	144×136	126×124	21			A-4	
157	東域	楕円形	楕円形	〃	〃	〃	170×136	150×120	8	157=158	3	A-5	
158	〃											B-4	
159	南域	楕円形	楕円形	タライ状	外傾	平底	56×40	44×28	12			A-2	
160	〃	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	丸底	80×54	66×34	28			〃	
161	東域	ひし形	ひし形	〃	〃	〃	36×23	24×12	18			〃	
162	〃	円形	円形	〃	〃	〃	58×54	45×31	24	162>172		B-4	
164	〃	長楕円形	長楕円形	皿状	〃	〃	136×68	128×54	18		1	A-5	
171	〃	五角形	五角形	タライ状	〃	凹凸	67×56	51×38	16			A-4	
172	〃	長楕円形	長楕円形	皿状	〃	〃	150×90	126×76	12			A-5	
173	〃	〃	〃	タライ状	〃	丸底	40×24	32×12	15			炭化物	
179	西域	不整形	不整形	〃	〃	〃	58×52	40×36	14			A-10	
180	北域	隅丸方形	隅丸方形	〃	〃	凹凸	48×46	25×24	16			A-2	
181	〃	長楕円形	不整形	〃	〃	丸底	80×56	60×35	18			〃	
183	〃	〃	長楕円形	すり鉢状	〃	〃	78×52	45×31	20			A-7	
184	〃	円形	円形	〃	〃	〃	70×66	48×52	20		2	A-4	
189	〃	楕円形	楕円形	タライ状	〃	凹凸	78×60	43×23	15			C-2	
197	〃	〃	〃	すり鉢状	〃	丸底	83×51	67×25	16		1	A-2	
240	東域	〃	〃	〃	〃	平底	50×41	34×21	21			B-1	

165号土塚周辺の土塚

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
163	西域	ひし形	ひし形	すり鉢状	外傾	丸底	50×26	28×12	24			A-4	
165		円形	円形	タライ状	〃	〃	140×125	110×102	32			A-5	
166	西域	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	46×33	24×16	14			A-2	
167	東域	〃	円形	〃	〃	〃	108×95	68×68	48	167>185		B-8	
168	西域	不整形	不整形	〃	〃	〃	61×42	50×42	20	168>169		B-1	
169	〃	〃	〃	〃	〃	〃	()×54	()×24	17			〃	
170	〃	〃	〃	タライ状	〃	〃	63×44	44×23	12	170>169		〃	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
176	東域	円形	円形	タライ状	外傾	凹凸	58×55	46×41	16			A-2	
185	〃	長楕円形	長楕円形	〃	〃	丸底	(100)×60	(80)×30	16	167>185		A-4	
191	南域	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	凹凸	80×60	56×40	22			A-2	

198号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
195	南壁	長楕円形	長楕円形	タライ状	外傾	凹凸	110×68	84×55	14		1	B-4	
196	〃	〃	〃	〃	〃	〃	84×46	68×34	12			A-4	
198		不整形	不整形	すり鉢状	〃	丸底	262×114	232×72	64			A-12	
199	西域	楕円形	楕円形	皿状	〃	凹凸	70×52	51×42	10			A-4	
201	南域	不整形	不整形	〃	〃	〃	136×85	114×68	10			B-2	
202	東域	円形	円形	すり鉢状	〃	丸底	66×64	51×46	38		1	A-9	
210	西域	楕円形	楕円形	タライ状	〃	〃	48×31	36×19	11			D-1	
211	〃	隅丸方形	隅丸方形	すり鉢状	直壁	〃	32×30	22×20	26			A-1	
212	〃	長楕円形	長楕円形	皿状	外傾	平底	80×44	58×28	10		1	A-2	
213	〃	楕円形	楕円形	タライ状	〃	〃	60×48	44×32	16		1	A-2	
214	〃	円形	円形	すり鉢状	〃	〃	48×45	33×30	23		2	A-7	
222	〃	〃	〃	〃	〃	〃	44×42	33×28	13			F-1	
223	〃	長楕円形	長楕円形	皿状	〃	〃	81×46	62×25	11		1	B-2	
224	〃	隅丸方形	隅丸方形	すり鉢状	〃	〃	28×26	16×16	10			C-1	
225	〃	楕円形	楕円形	〃	〃	丸底	32×27	21×14	26			A-2	
230	〃	円形	円形	タライ状	〃	〃	74×74	58×58	26		1	〃	
231	〃	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	80×64	58×40	46			A-9	
232	東域	円形	円形	〃	直壁	凹凸	84×78	72×62	40		1	〃	
233	〃	不整形	不整形	皿状	外傾	平底	142×76	124×61	10		1	A-4	
237	南域	楕円形	楕円形	〃	〃	凹凸	66×42	52×28	8			A-2	
238	〃	円形	円形	タライ状	〃	〃	58×57	42×42	12			〃	

258号土坑周辺の土坑

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
247	北域	楕円形	楕円形	タライ状	外傾	平底	88×72	60×50	26		1	A-1	
248	〃	不整形	不整形	〃	〃	〃	110×84	90×64	26		1	C-4	
249	西壁	楕円形	楕円形	すり鉢状	〃	丸底	(84)×60	(50)×35	36	258>249		A-5	

番号	位置	平面形	床面形	断面形	壁	床	口径	底径	深さ	切合	小穴	堆積	備考
250	西域	隅丸方形	隅丸方形	皿状	外傾	平底	82×80	69×64	12		1	A-1	
251	北域	円形	楕円形	すり鉢状	〃	〃	71×66	48×35	30			A-3	
252	西域	不整形	不整形	皿状	〃	凹凸	116×103	100×83	12		3	A-5	
253	〃	〃	〃	タライ状	〃	〃	100×60	82×40	18		2	A-2	
254	〃	〃	〃	皿状	〃	〃	108×80	96×65	10			A-1	
255	〃	円形	円形	すり鉢状	〃	丸底	65×60	48×40	18		1	A-2	
257	〃	長楕円形	長楕円形	〃	〃	平	73×43	52×30	20			〃	
258		〃	〃	〃	〃	凹凸	106×80	82×56	46	258>249		〃	
259	南域	円形	円形	〃	〃	丸底	50×42	28×23	28			〃	
260	南壁	不整形	不整形	タライ状	〃	〃	(66)×62	48×45	16	258>260		A-15	
261	北域	長楕円形	長楕円形	すり鉢状	〃	平底	66×32	47×20	37		1	C-2	

1. 炉址 (第12図)

第12図にのせた1号土坑は、炉址としての性格をもつ。堆積状態は、第12図の様に、Ⅳ'層+焼石の層が10cmから15cm、Ⅷ層が15cmから25cm、Ⅸ層が5cmから8cm、Ⅵ'層が床の壁ぎわに5cmから20cmの厚さで堆積している。Ⅳ"層の配石された焼石のうち、図の様に2個のみが自然石であり、花崗岩・輝緑花崗岩が多い。石の配置は、円形に組み合わせている。

出土遺物は、総数182点で黒褐色土層(やや明るい土色)と焼土層に集中している。遺物の3分の1は、焼石であり輝緑花崗岩が多い。土器は、全体の3分の2弱を占め、Ⅲ群—深鉢—胴部—無文のものが大半で、明確な器形の把握は困難である。また、Ⅴ群—深鉢—胴部—条痕文やⅣ群口縁部—沈線文・無文のものも半分位出土している。総じて、縄文晩期末のものである。

石器は、硬砂岩製で短冊形打製石斧の刃欠のものが1点と、黒曜石搔器1点、ほかは、黒曜石の剥片12点である。

本土坑の位置は、本遺跡の西南端の台地の隅寄りにあり、2号～4号土坑が取りまいてる状態であり、単独石囲炉址と言える。堆積状態から、炉の性格を考えると、ロームふらん土(Ⅵ'層)が堆積し、その中心で火をたいた為、灰が堆積し、周囲の土を火消し用として灰のまわりに用いたものが焼土となり、たき火→火消しを繰り返すことにより、25cmという厚さにも及ぶ焼土の堆積が行なわれたものと考えられる。焼土の中にも、木炭化物や灰は混じっている。さらに、そのたき火→火消しを繰り返す時、現代的に露出している焼石が、どこに位置していたかは解からないが、焼土の堆積と共に、炉石も上へと移動させてきたと考えるのは、行き過ぎであろうか。炉石の上のⅣ"層の下にも、焼土が確認され、炉使用の最後のたき火後のものであろうと考えられる。

2. 焼土及び焼石を伴うもの

① 焼土を伴う土塚（第16図52）

52号土塚は、2号マウンドの東南域及び39号土塚の北東域に位置する。北壁に小穴と自然石の配石を開口部にもち、焼土が5 cmから8 cmの厚さで堆積している。

北壁で、52号土塚が72号をやや切っている状態である。

出土遺物は検出されなかった。

② 焼石を伴う土塚（第14図29・41，第15図45・68）

29・41号土塚は、ともに2号マウンドの西域に位置する。29号においては、炭化物・ローム粒を多く含む黒褐色土層より焼石が検出された。また、41号においては、炭化物・ローム粒の少ない黒褐色土層より検出された。石盾は、輝緑花崗岩である。

焼石があるかわりに、焼土・灰が検出されなかった為に、焼石の出自や土塚の性格は、つかみにくい。

出土遺物は29号では検出されず、41号下層よりⅢ群—深鉢—胴部—無文のものが1点出土したのみである。

45号土塚は、東壁よりに配石と堆積土中に焼石を伴う土塚であり、39号土塚の西域に位置する。焼石は、Ⅳ'層より検出され、花崗岩である。

出土遺物は土器が多くⅢ群の浅・深鉢の無文のものが多く、中には、Ⅳ'群の沈線文やⅤ群a類の条痕文をもつものがある。

68号土塚は、2号マウンド西域に位置している。焼石は花崗岩で、Ⅳ層中に含まれている。40号土塚を、西壁が切っている。焼土及び灰は検出されなかった。

出土遺物は、少ないが、Ⅲ群—深鉢—胴部—無文の土器が出土している。

3. 配石を伴う土塚（第13図13・14・18，第14図23・24，第15図51，第18図91・93・95，第19図113・115，第20図124・126・141・142・145，第21図154，第22図167，第23図201・203，第24図230，第25図258）

① 自然石を配した土塚

土塚の13・14号は、1号マウンドを切り、Ⅳ及びⅣ'層に花崗岩質の自然石が投げ込まれた状態を呈して、検出された。

13号土塚出土遺物は、土器が多く、Ⅲ群深鉢形の無文の胴部、底部が出土している。

14号土塚出土遺物は、黒耀石剥片が数点と、Ⅲ群深鉢形の条線文のものや同群浅鉢形の胴部無文のもの、Ⅴ群b類の深鉢形胴部条痕文のものが混じって出土している。

24号土塚の配石は、花崗岩の塊まりが一括して出土している。

出土遺物は、土器が多く、Ⅲ群深鉢形胴部片で無文のものが主で、条線文も若干含まれている。

91号土塚については、その堆積状態→ロームブロック→黒褐色土→ロームふらん土→ローム層より、マウンド的要素をもち、マウンドとして取扱った方がよいのかもしれないが、本稿では、自然石の配石を伴う土塚の中に分類した。

出土遺物は、黒耀石剥片1点のみである。

93号土塚は、北西壁にある小穴の開口部に花崗岩の自然石が配石されている。

出土遺物は、黒耀石製石礫破片1点と、Ⅲ群深鉢形胴部片で無文のものやⅤ群深鉢形胴部片で条痕文と思われるものが、数点出土している。

95号土塚は、床面に花崗岩の配石をもち、すべて自然石である。

出土遺物は、すべて土器であり、Ⅲ群浅鉢形胴部片で浮線網状文のものやⅤ群深鉢形胴部片でB類に属する条痕文が施されたものが数点出土している。

124号土塚は、堆積土中(Ⅳ～Ⅳ'層)に自然石の花崗岩と焼石(花崗岩)1点が配されている。焼土・灰は伴わない。

出土遺物は少なく、黒耀石剥片1点と、Ⅴ群a類、b類ともに深鉢形胴部条痕文土器が数点出土している。

126号土塚は、二次堆積ローム→攪乱層→黒褐色土層→ク→ローム層という層序でありマウンド的要素をもつことの反面、攪乱層が第2層にあるため、性格付けが難しいが、ここでは、配石を伴う土塚として分類した。

出土遺物は、Ⅲ群浅鉢形胴部片で工字文のものやⅤ群a類深鉢形胴部片条痕文が数片出土し、層位的には、Ⅲ群とⅤ群がほぼ同位にある。

141号土塚は、堆積土中(Ⅳ～Ⅳ'層)に、平らに花崗岩の自然石が配されている。焼石が1点東壁にある。

出土遺物は少なく、炭化物1点と、Ⅲ群—深鉢形—胴部—無文のものが2点出土している。

142号土塚は、床に花崗岩自然石が1点配されている。

出土遺物は、すべて無文の胴部片であるが、器形は鉢形と思われる。

145号土塚は、143号土塚に伴う小穴的要素もあるが、一応個別の配石を伴う土塚とした。開口部に、大小2個の花崗岩自然石を配している。

154号土塚は、開口部中央に花崗岩自然石を1点配している。

出土遺物は覆土に多く、チャート製石礫1点と、黒耀石剥片2点のほか、Ⅲ群の深鉢形の胴部片と同群浅鉢形の口縁部工字文のものが若干出土している。

167号土塚は、堆積土中に炭化物の混じる割合が、他のものより多い。南壁とⅣ''層に焼石をもつ。また、土塚外南域には、すった痕跡がある花崗岩が立つ形で置かれていた。立石として位置づけるかは難しい点である。

出土遺物はすべて土器であり、Ⅲ群の深鉢形の無文胴部片やⅤ群b類の深鉢形の条痕文胴部片が出土している。

201号土塚は、花崗岩の自然石が開口部に配されている。

出土遺物は、黒耀石剥片1点とⅤ群の深鉢形の条痕文胴部片やⅢ群の深鉢形の擦糸文胴部片

が1点ずつと、文様・器形不明なものが出土している。

203号土塚は、194号に切られる状態で検出され、大きな平らな石と小さめの石が配され、共に花崗岩の自然石である。

出土遺物は、V群a類の深鉢形の条痕文胴部片が1点のみ出土している。

258号土塚は、西壁開口部から堆積土中にかけて、花崗岩の自然石が配置されている。258号土塚の周辺には、5つの土塚と2つの小穴が囲んでいて、258号がそれらの核的存在をなしていると考えられる。

出土遺物は、土器の方が多く、Ⅲ群の深鉢形の胴部片が主で、条線文や縄文が施されている。

② すり石を配石した土塚

18号土塚は、Ⅳ層とⅣ'層の間にあった自然の石を利用して、すり石として利用している。

出土遺物は、中期初頭の深鉢形の胴部片と底部片が出土し、竹管文が胴部片には施されている。18号は、中期のものか、晩期のものか決めがたい。

23号土塚は、本遺跡の中にあって、唯一のフラスコ状の土塚である。花崗岩の自然石が配されていて、一つはすり石である。

出土遺物は、黒耀石剥片1点と、打製石斧で頭部を欠いた砂岩製のものが1点と、ほかは土器である。土器は、Ⅲ群の深鉢形の胴部片が多く、浮線網状文や条線文が施されている。

51号土塚は、開口部に花崗岩のすり石を1つもつ。すり石は、片面のみである。

出土遺物は、土器1点と黒耀石剥片1点が出土し、土器は、深鉢形の胴部片で捺糸文+沈線文が施されていて、Ⅲ群に分類しても良いのではないかと考えられる。

113号土塚は、112・114・132号と連結した状態であり、3つのすり石と2つの自然石が堆積土中に配されている。

出土遺物は、多く、土器は、Ⅲ群の深鉢形の無文胴部片が多く、V群b類の深鉢形の条痕文胴部片が混じっている。

115号土塚は、12個の花崗岩が、Ⅳ'層の上部と、床面に配され、そのうち6個が焼石で3個がすり石である。1個は焼石でありすり石として使用されている。

出土遺物は、木片炭化物2点とトチの実と考えられる種子炭化物2点のほか、石器は、黒耀石剥片1点、焼石1点が出土し、土器の量が多い。Ⅲ群の深鉢形の破片が多く、無文が主であり、V群b類の深鉢形の胴部片条痕文も混じっている。

230号土塚は、堆積土中に花崗岩のすり石が4個配されている。

出土遺物は、すべて土器である。V群b類深鉢形の条痕文の胴部片が多く出土し、その中に混じってⅢ群深鉢形の無文胴部片が数点出土している。

4. 立石を伴う土塚 (第15図39)

39号土塚は、立石を伴う土塚であり、この花崗岩の立石は焼けている。1号マウンドと2号マウンドの東域に位置する。39号土塚は、51号土塚の床面に二次的に掘られたものである。

焼土・灰は、検出されていない。

出土遺物は、Ⅲ群深鉢形の無文、縄文が施された胴部片が出土している。

5. 大規模で舟形を呈する土塚（第18図105、第23図198）

105号土塚と198号土塚は、形態的にも、位置的にも、似かよった様相を呈している。形状は、P 38・40の通りであるが、平面・断面的は舟形を呈し、堆積状態も似ている。さらに、長軸が東西にあり、小穴も西に張り出している。異なる点は、最下層に105号では、粘土層が、198号では、ロームふらん土が堆積していることである。

出土遺物については、105号が数量も多く、Ⅲ群の深鉢形の無文胴部片が主体となっている。198号は、Ⅲ群深鉢形と思われる無文胴部片がわずかに2点出土しているのみである。

また、位置的には、10m位南北の間隔をおいて、平行していることが挙げられる。

性格付けは、明確にできないが、共通の使用意識が働いていると考えられる。

なお、堆積土中に含まれる炭化物は、多いが、骨片等は、一片も検出できなかった。

6. 単独埋壺を伴う土塚（第16図57）

57号土塚は、48号土塚の北西壁を切る状態で検出され、V群a類の壺形土器のほぼ完形品が平らな石の下からつぶれた状態で出土した。この壺形土器は、頸部がくびれ、口縁部には、凸帯文が指圧してつけられ、頸部下半は、条痕文が施されている。平らな石は、硬砂岩であり、壺の蓋の役目をしたかもしれない。

48号土塚の出土土器は、Ⅲ群深鉢形の無文胴部片が多く、おそらく、57号土塚は、48号土塚に後行するものであろう。

なお、壺形土器の堆積土の中からは、炭化物、種子類等は検出されなかった。

7. 炭化種子を伴う土塚（第21図173）

173号土塚は、172号土塚に包括される小穴のような形態を示すが、多数の炭化種子を含んでいたもので、個別に取り挙げた。

炭化種子の出土状態は、長軸40cm、短軸24cm、深さ15cmの穴の中に、焼土と混じる状態で、トチの実が95個から100個、塊となって出土した。大きさは、直径1cm～1.8cmで、1.5cm位のものが多い。その実の断面は、熱で溶けて固まったようになっている。包皮は、むかれているものも多く、中には、皮がついたままのものもある。包皮のむかれたものは、葉脈状を思わせる溝が、表面についている。

また、焼土とかたく混合した実は、非常にもろく、形がくずれてしまう状態であった。

焼土と小さな焼石が伴うことより、ここで、トチの実が、焼かれて、炭化したものであろうと考えられる。

周辺の土塚の161・162・172号土塚からも、トチの実の炭化したものが、数個ずつ出土している。
(小原晃一)

第4節 ロームマウンド

262基の土塚と共に、4基のロームマウンドが検出された。ロームマウンドという用語は、上・下伊那地方において、顕著に用いられる言葉であり、現代的には、その用途、目的は明確にされていない点が多い。

ロームマウンドと呼ばれるものをまとめの段階で、その出自、形態、特徴等を述べることで、ここでは、本遺跡より検出されたロームマウンド4基について記したい。

まず、本遺跡のロームマウンドの概括的な特徴を示すと、

- ① ローム土（こぶし大以下の自然石を含むローム土）が、黒褐色土層の上に人為的操作を思わせる様に堆積し、マウンド状を呈している。
- ② 二次堆積ローム土下の黒褐色土層は、木炭化物を多く含むと同時に、土器片、黒曜石剥片等の遺物を含む
- ③ 平面形は、不整な楕円形を呈し、断面形は、すり鉢状やタライ状を呈し、黒褐色土が、二次堆積ロームの下を半円状に堆積し、そのローム土が浮いた状態を呈していることの3点が挙げられる。

1. 1号ロームマウンド（第26・27図）

1号ロームマウンドは、炉址としての性格をもつ1号土塚から東方へ10mの地点にある。

大きさは、東西3m25cm、南北2m60cmで、深さ40cmを測る。二次堆積ローム土の範囲は、東西2m40cm、南北2m5cm、厚さ25cmを測る。マウンドの平面形は、円形に近いが不整な楕円形であり、断面形はタライ状を呈する。

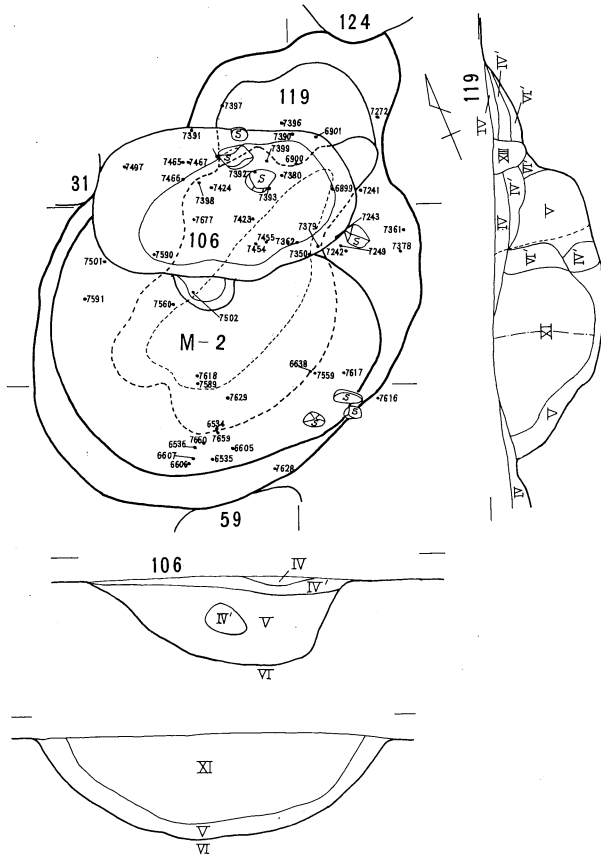
まず、堆積状態を示すと、上層より、XI層（二次堆積ローム土）→VI'層（ロームふらん土）→IV''層（黒褐色土）→VI層（ローム層）の順であり、マウンド東域部に焼土・木炭化物層が、5～7cm位堆積していた。さらに、マウンド最下層の西域部に木炭化物層が3cm位と焼土層が同じく3cm位堆積していた。

マウンド床面には、計13個の花崗岩自然石が検出されたが、人為的性格を感じさせる遺存状態ではなかった。計13個の石のうち、6個が焼石であり、西域部の焼土・木炭化物層と同じレベルにあるので、火を床面でたいた可能性も強いと考えられる。

マウンドと土塚の切合関係は、ロームマウンドが24号土塚を切る場合をのぞいて、11・12・13・14・15・17・42・56・69はともにロームマウンドを切っている。マウンドを切っている土塚の堆積状態は、IV層→IV'層というように黒褐色土が堆積している。

XI層（二次堆積ローム土）のローム土は、親指大からこぶし大までの花崗岩、砂岩を多く含み、明黄褐色を呈し、砂粒の混合度が多く、砂質ロームと言える。XI層の中には、土器片、黒曜石剥片、木炭化物片等の遺物は、まったく包含されていなかった。

なお、このXI層は、VI層の砂質ローム土と同盾のものとして判別できうる。



第28図 2号マウンド及び土坑実測図 (S = 土坑)

自然石を含んだ砂質ロームで、最下層のVI層のロームと同盾のものと判別できる。

出土遺物は、総数15点である。

このうち、土器片は14点、石器は黒曜石剝片の1点である。

土器片は、V群a類の深鉢形土器の胴部片で条痕文を施したものや擦痕が見られるものがほとんどである。

3号マウンドは、他の1・2・4号マウンドに比べ小形であり、出土遺物も少ない。

ロームマウンドの平面形は不整な楕円形で、断面形はすり鉢である。

4. 4号ロームマウンド (第29図)

4号ロームマウンドは、1号住居址の西方1mの地点にあり、226号土坑をはさんですぐ近くにある。

それぞれの目的意識やその他の利用意識が、転換して、改造・新造の形として表われていると受けとめることが可能ではないだろうか。

3. 3号ロームマウンド (第21図)

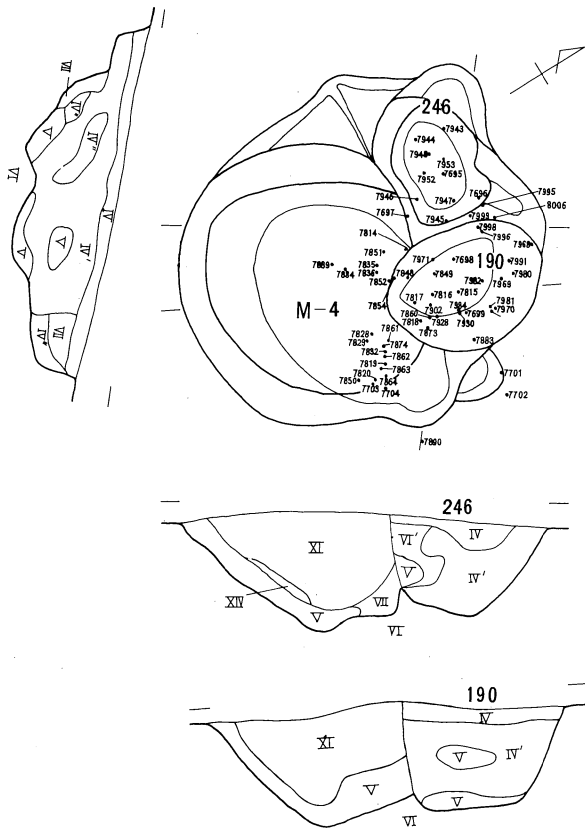
3号ロームマウンドは、2号ロームマウンドから北へ4m、1号住居址から南へ3mの地点にある。

大きさは、東西1m30cm、南北1m60cm、深さ40cm弱であり、二次堆積ローム土の範囲は、東西90cm、南北90cm、厚さ25cmを測る。

堆積状態は、XI層→V層→VI層の順で、V層の黒色土には、木炭化物が割合多く含まれている。

ロームマウンドと土坑の切合関係は、明確にならない要素もあるが、3号マウンドが、149号・153号土坑を切り、177号土坑が3号マウンドを切っている状態である。

XI層の二次堆積ローム土は、親指大からこぶし大の花崗岩や砂岩の自然



第29図 4号マウンド及び土坑実測図 (S=60)

のものが多く、同群深鉢形土器の無文胴部もある。石器片は、すべて黒耀石剥片である。

第5節 炉 址 (第30図)

炉址としての性格を持つ土坑として、1号土坑を第3節で挙げたが、本節では、本遺跡の東域の黒色土層上部より検出された炉址を挙げる。

形態は、13個の自然石をほぼ円形に組み、それぞれの石を、炉の中心部にむけて傾かせている。13個のうち、12個が焼けている。11個が花崗岩で残り2個は砂岩である。砂岩は、第30図中、南西の2個で風化が著しい。

大きさは、東西80cm、南北85cmで、IV層までの深さは20cmである。

堆積状態は、VIII層(焼土)6~10cm→IV'層4~8cm→IV''層8~11cmで、IV''層は、IV層と判別が困難なくらい黒く、木炭化物を多く含む。

大きさは、東西2m60cm、南北2m20cm、深さ90cmで、二次堆積ローム土の範囲は、東西1m90cm、南北1m70cm、厚さ80cmである。

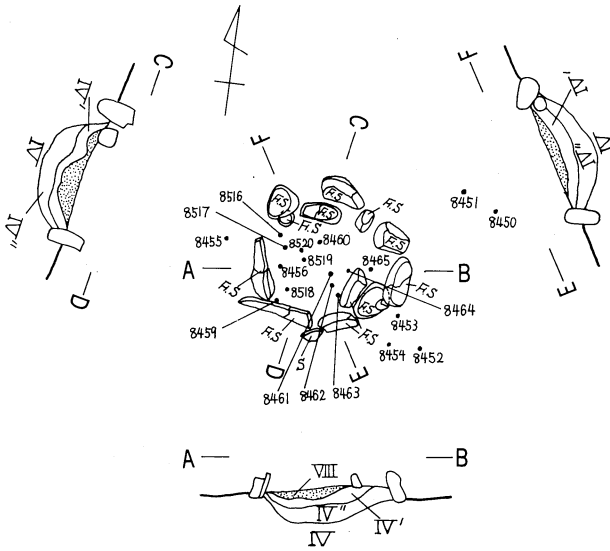
マウンドと土坑の切合関係は、190号・246号土坑が、4号マウンドを切っている状態にある。190・249号土坑ともに、IV層→IV'層→V層→VI層の順に堆積状態であり、246号には、さらにマウンド寄りにVI'層を含んでいる。

堆積状態は、XI層→VII層(ローム土と黒色土の混土)→XIV層(礫層)→V層→VI層の順であり、他の1~3号マウンドと違い、VII層とXIV層を含んでいる。

XI層の二次堆積ローム土は、親指大からこぶし大の花崗岩や砂岩の自然石を含んだローム土であり、砂粒の全体的な混合は少ない。VI層のローム層のものと同盾と判別できうる。

出土遺物は、総数20点である。

このうち、土器片が16点で、石器片が4点である。土器片は、III群の浅鉢形土器の胴部片で、網状浮線文や無文



第30図 1号炉址実測図 (S =)

黒色土層中における平地住居址の可能性が考えられる。

なお、炉址の周辺の黒色土層中からは、Ⅲ群の浅鉢形土器の胴部片で、網状浮線文を施したものと同群深鉢形土器の無文胴部片が多量に出土している。(小原晃一)

第6節 遺物

1 土器 (第31~40図)

今回の調査によって出土した土器はかなり多い。しかしながら大半が細片で性格を明らかにでき得ないものが多くあること、また図上復元可能な資料の乏しいことも残念なことである。

確認された土器をⅠ~Ⅵ群にわけて以下述べることとする。第Ⅰ・Ⅱ群は非常に少なく図示した以外にわずかに知られるものである。第Ⅰ群は縄文時代中期、第Ⅱ群は後期に属するものである。

第Ⅲ・Ⅳ群は文様的には同一のものであるが、永遺跡において指摘されたように文様の手法上の相違として分類したものである。第Ⅳ群は非常に少ないものである。第Ⅲ群土器は本遺跡出土の土器の主体を占め、器面を刮去することによって細隆線状の文様を表出するもので、深鉢形土器の胴部文様には無文、条線、擦痕、縄文などの組み合わせがみられる。

第Ⅴ群土器は東海地方の影響を受けた条痕文土器の一群で、胎土によってa類、b類とわけてある。第Ⅵ群は量は少ないが、庄ノ畑式土器と考えられるものである。

炉址の最下層がⅣ層であり、その下にⅤ層(黒褐色土)がある。このⅣ層は、40cmから50cmの厚さに堆積し、炉址を基点に、南へ10m、北へ2m東へ5m、西へ6~7mに渡って堆積している。

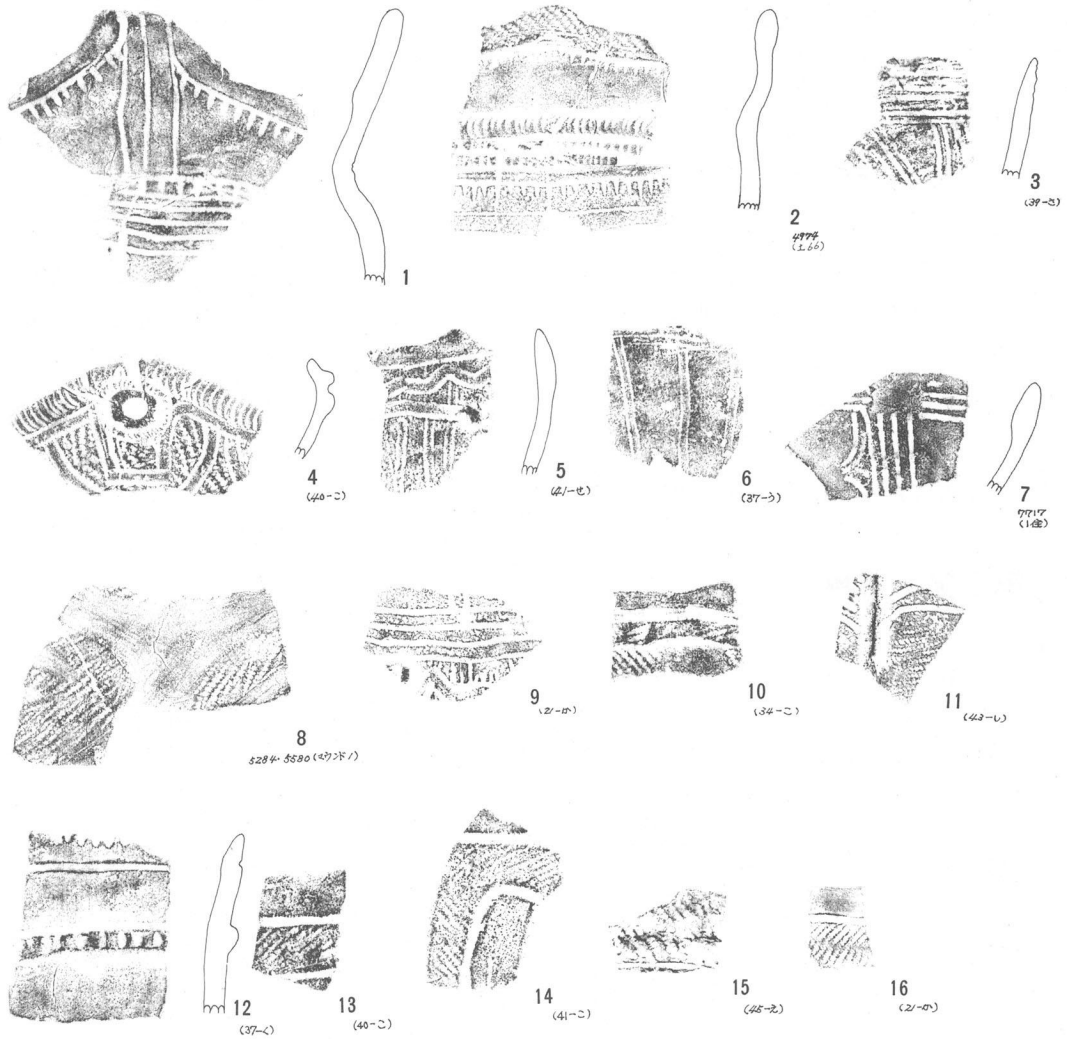
炉内よりの出土遺物は、15点で土器13点、石器2点である。のうち土器片は、Ⅲ群の深鉢形土器の口縁部や胴部片が主で、焼土上部より出土し、二次的な火をうけ、表面が剥落しているものもある。石器片は黒曜石剥片である。

炉址を中心に、柱穴及びピットに類するものの検出を試みたが、黒褐色土層であるため、その境目が、明確に確認できなかった。それゆえに、

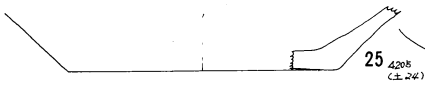
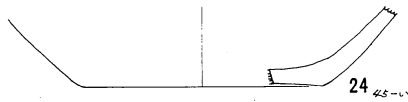
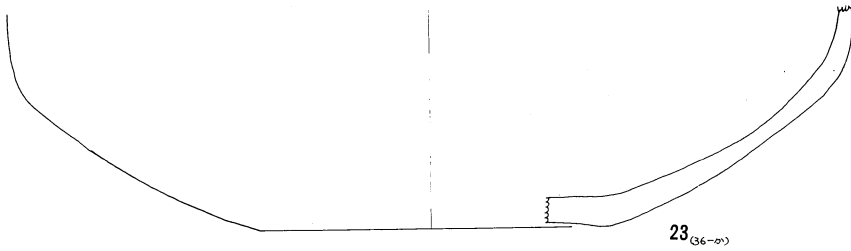
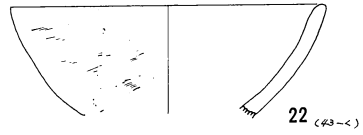
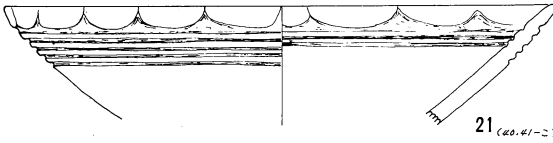
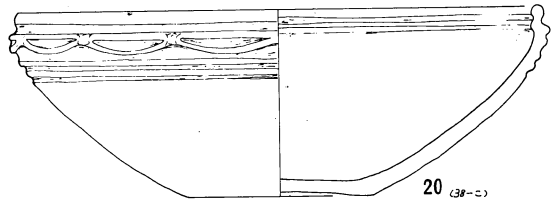
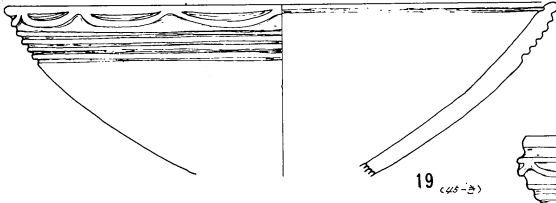
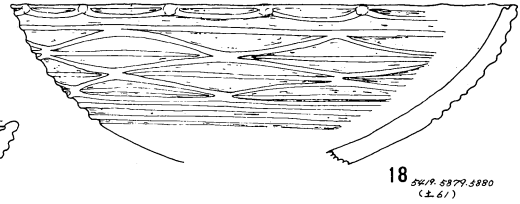
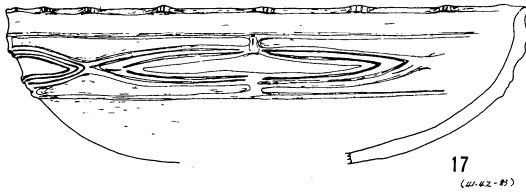
(1)第I群土器 (第31図-1~11)

縄文時代中期に属するものである。量は非常に少ない。

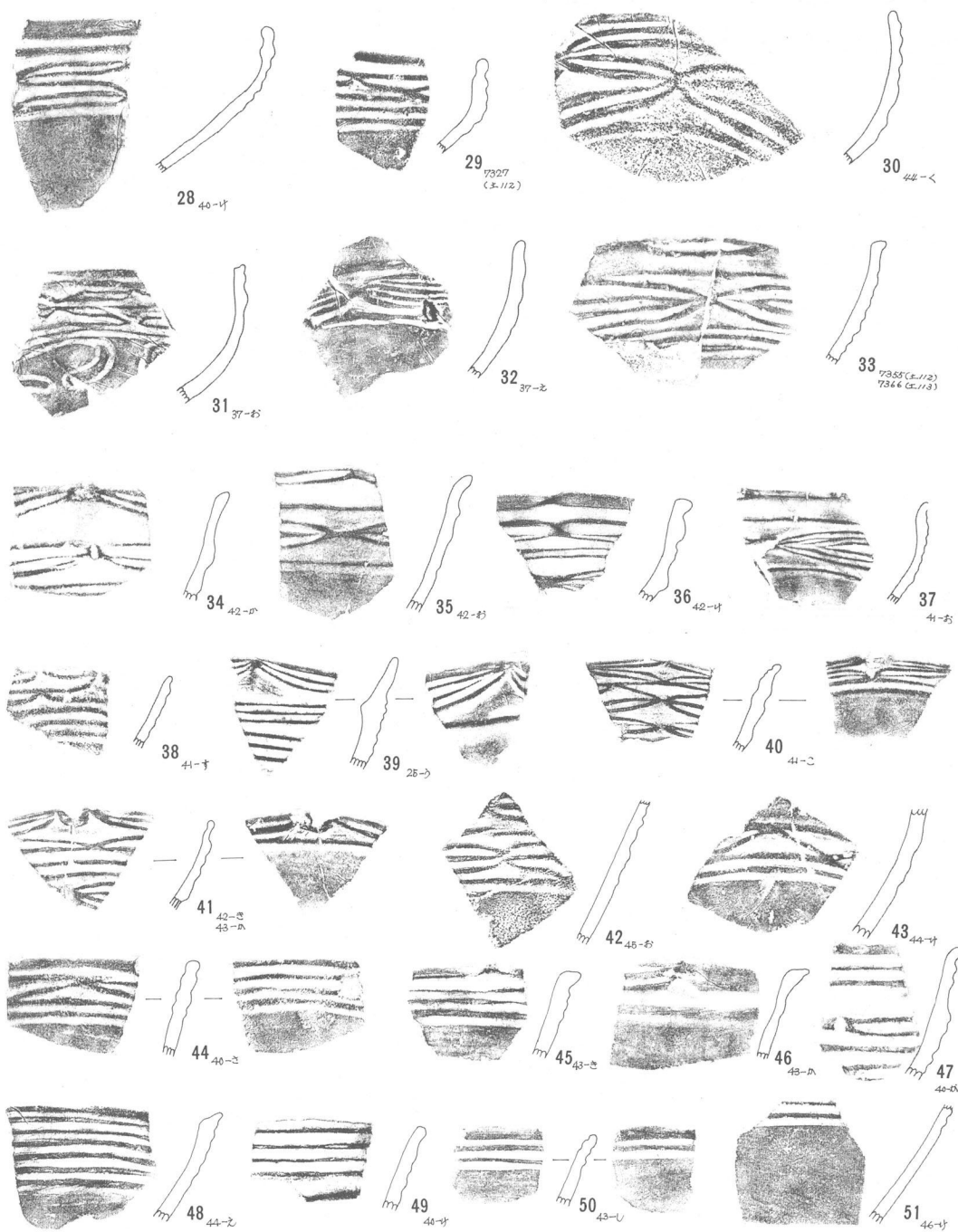
1・2は波状口縁の深鉢で、2は口唇と頸下部に縄文がみられる。ともにあまり類例を知らないものであるが、縄文中期前葉に比定される。雲母がかなり含まれ特徴的な土器である。3は半截竹管によるもので本群というよりやや先行する前期末葉のものであろう。4~10は中期中葉に位置付けられるものである。5・6は平出皿A形式である。11は曽利期の前半に位置づけられる。



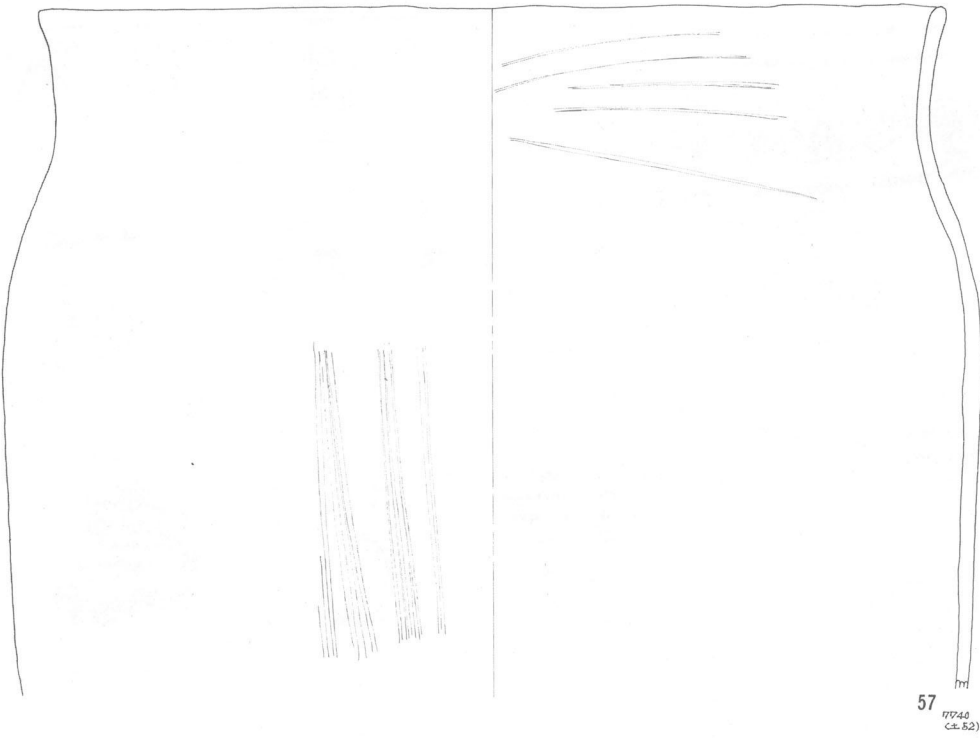
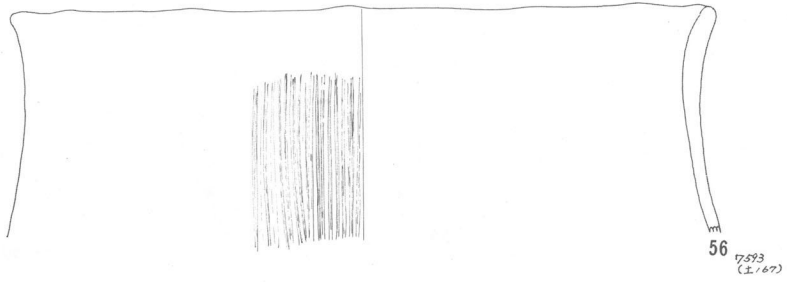
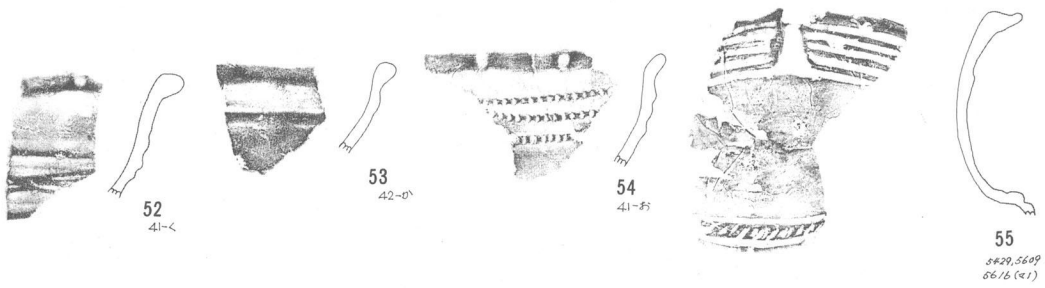
第31図 第I, II群土器 (一)



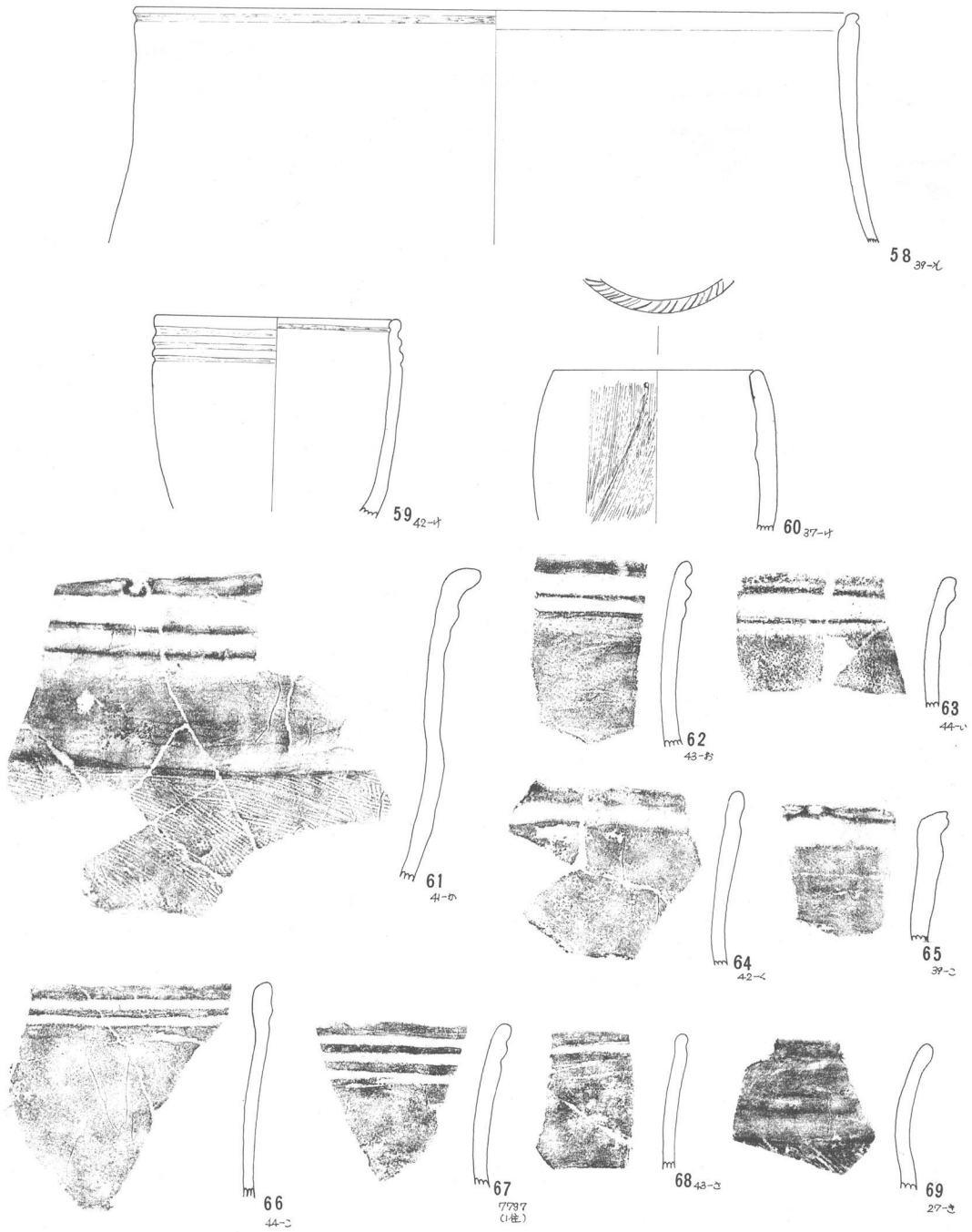
第32図 第Ⅲ群土器 (1/3)



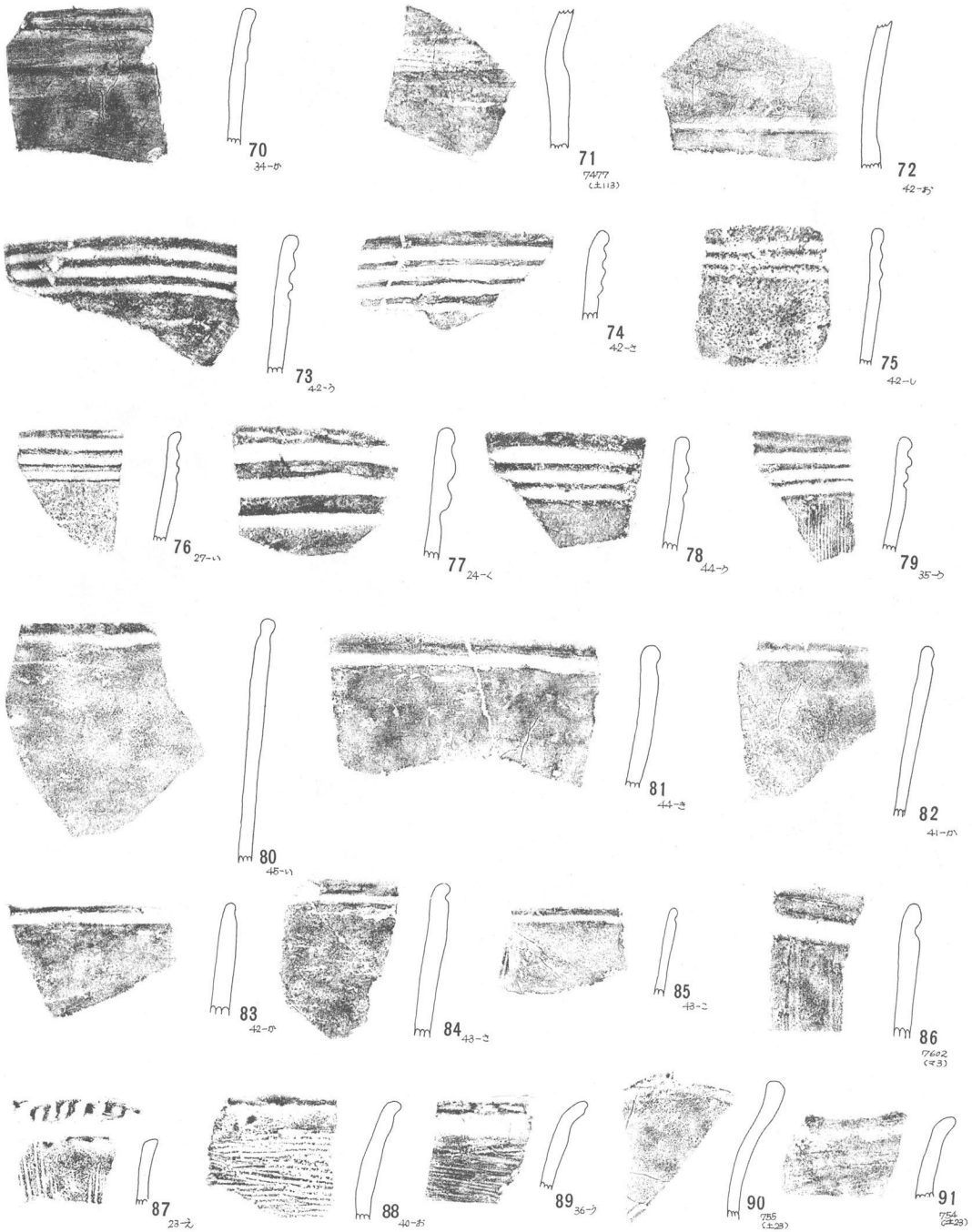
第33图 第三群土器 (1/3)



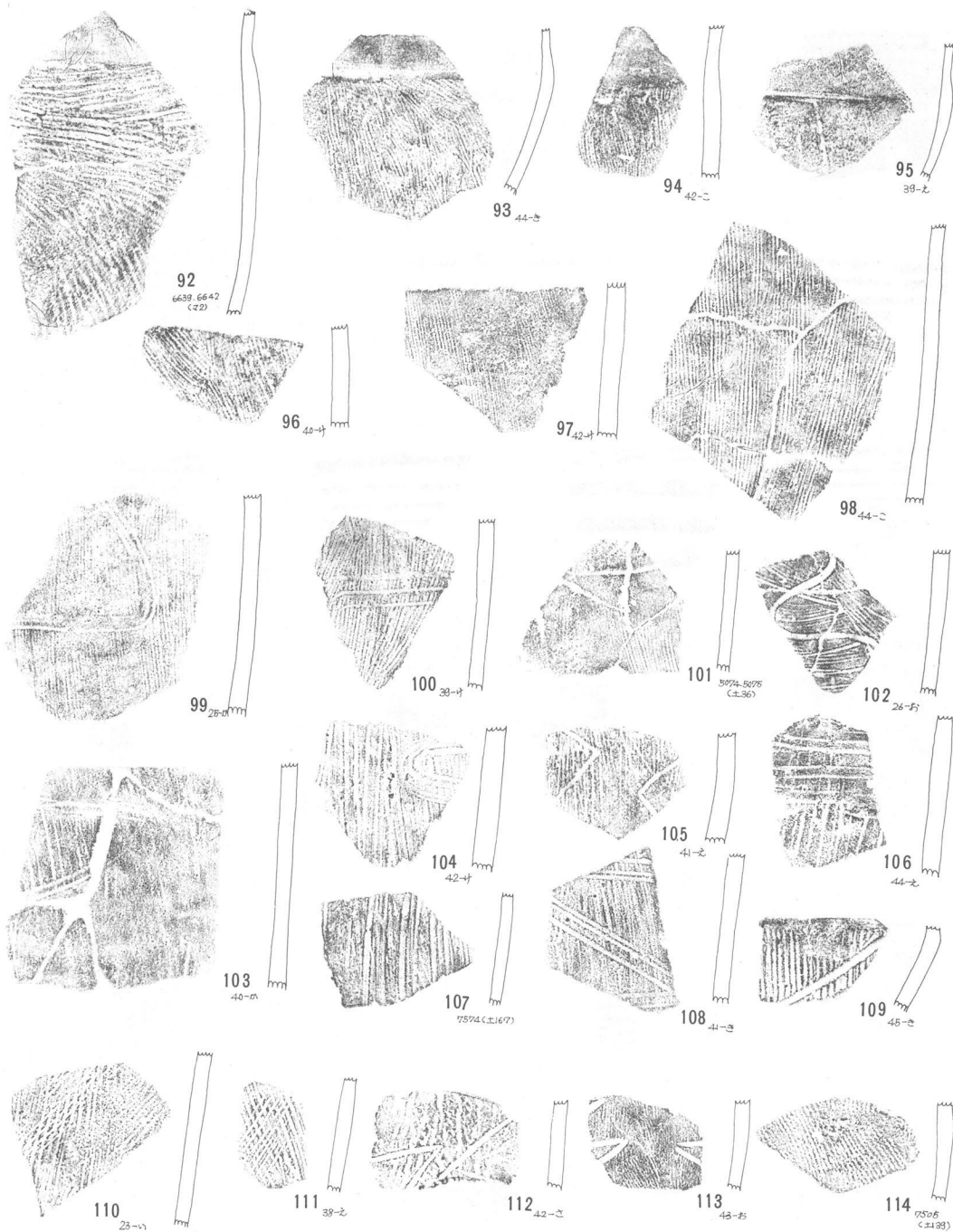
第34図 第Ⅱ群土器 (1/3)



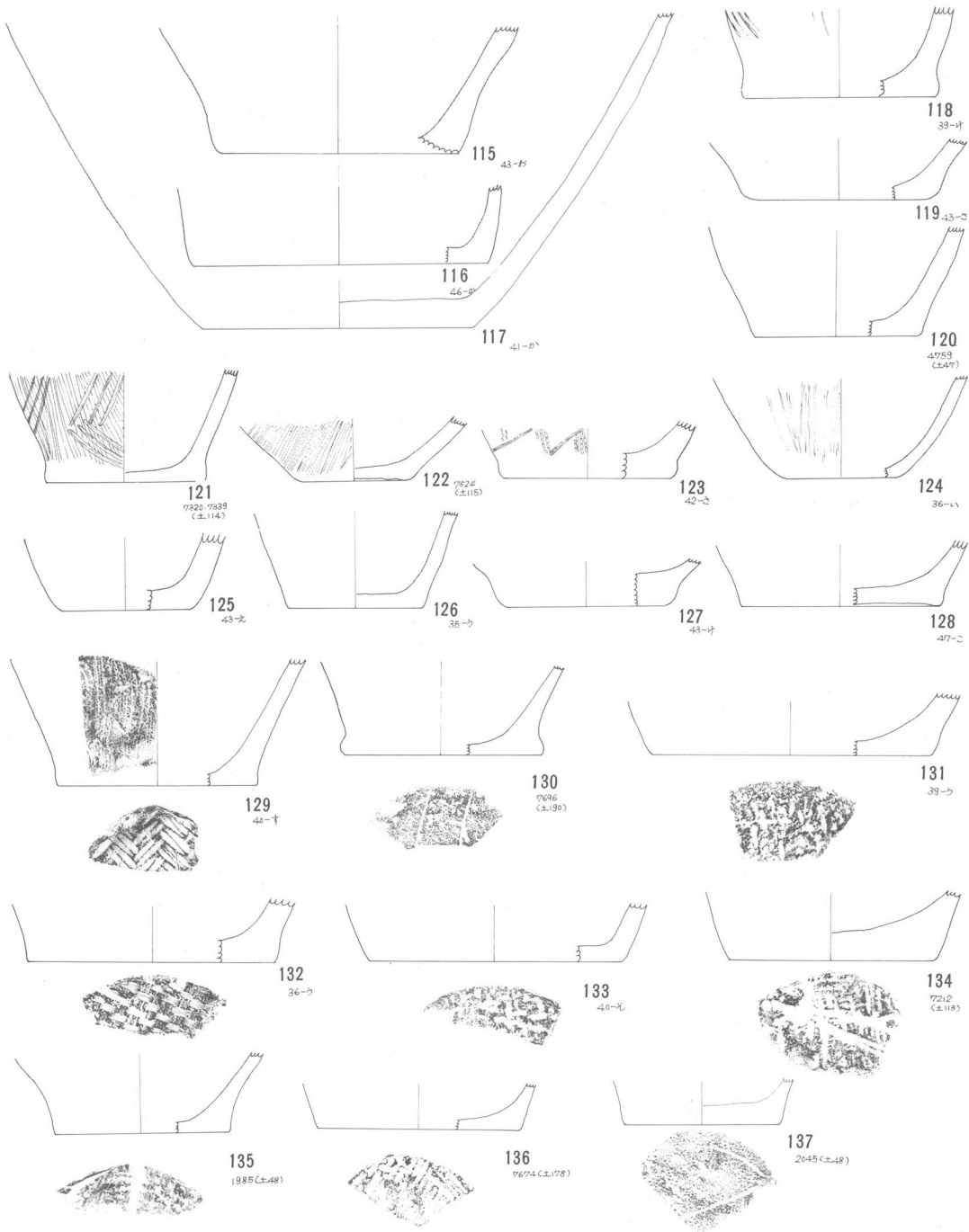
第35图 第三群土器 (1/3)



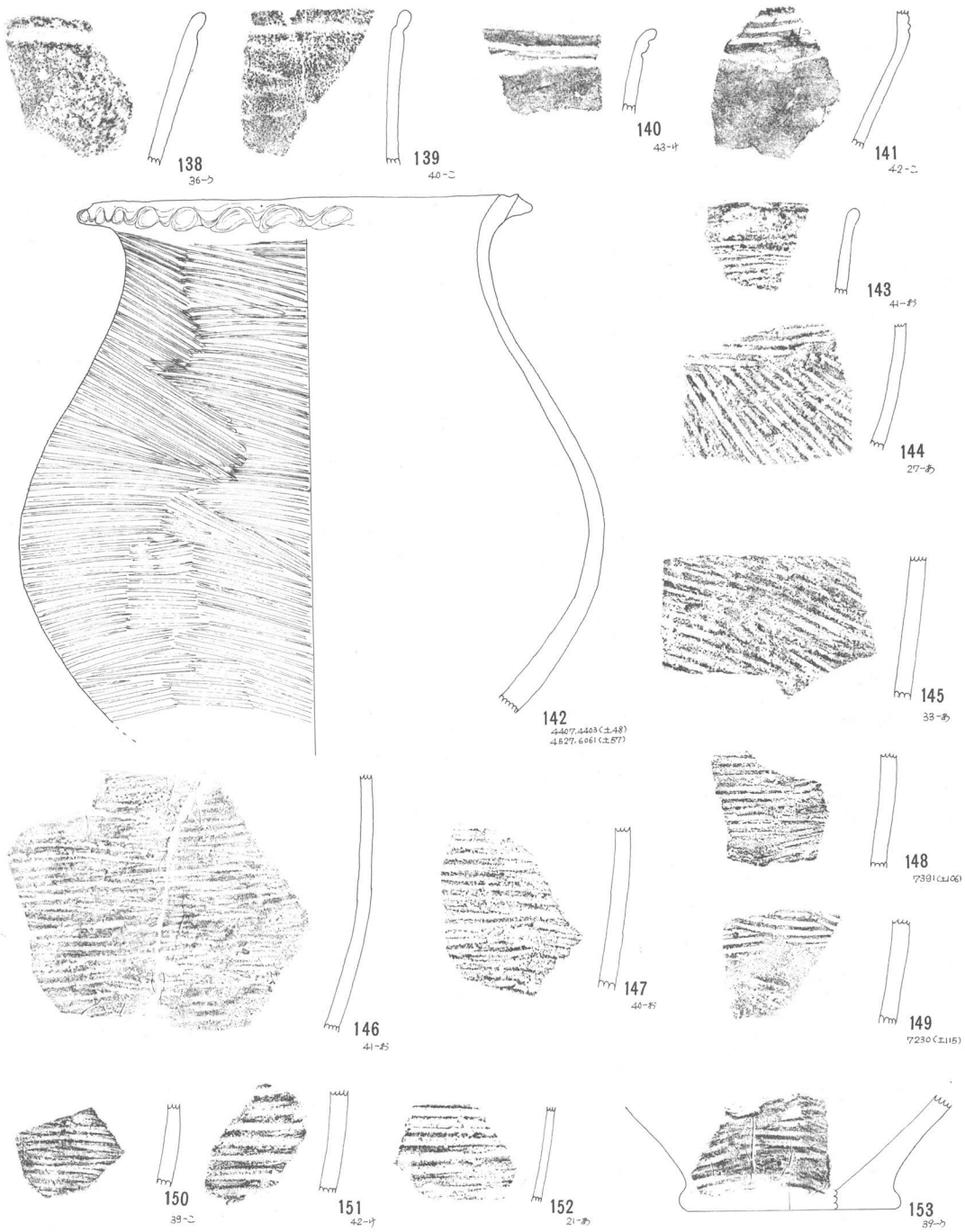
第36図 第三群土器



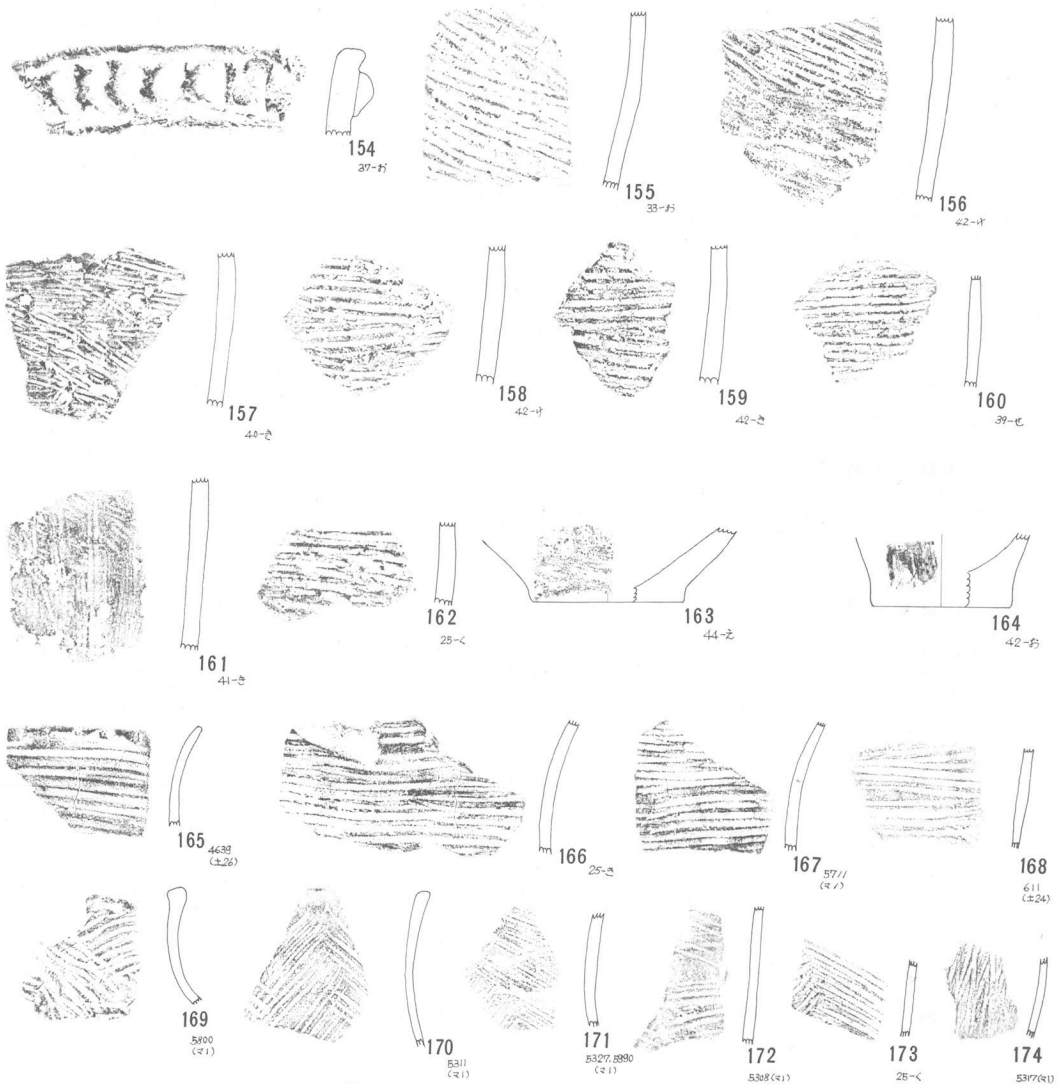
第37图 第Ⅲ群土器 (1/3)



第38図 第三群土器 (㊦)



第39図 第IV群第V群a類土器 (1/3)



第40図 第V群b類第VI群土器 (1/3)

(2)第Ⅱ群土器 (第31図—12—16)

本群は縄文時代後期に属するもので量は少なく図示した5片のみである。13・14・16は磨消縄文を持つものである。12は口唇に刻みを持ち一条の隆帯を横走させるもので類例を知らず一応本群に入れたものである。

(3)第Ⅲ群土器 (第32～38図)

本群は出土土器の主体となるもので、器面を刮去して細隆線状の変形工字文、網状浮線文を表出するものである。文様については網状浮線文の表現を使っている。

本群土器のうち壺形土器はやや先行すると思われる55のみである。深鉢形土器と浅鉢形土器との比較は定かでない。何個体の土器があったかを出土土器から推測することは非常に困難な作業である。とりわけ深鉢形土器の胴部破片と口縁部との接合が予想以上に難しく断念せざるを得ないところである。無文の胴部破片については、胎土・調整などから判断しなくてはならず若干の相違があるものと考えている。

a 浅鉢形土器 (第32～34図)

図示した如く浅鉢形土器といってもさまざまな器形を持つものがあり、またその区分は明確とはならない。

(a) 口縁が直立するもの (17・20, 28～32, 37)

図上復元できたものは17・20のみのためはっきりしないが、17, 30～32, 37のように口頸部が大きく内湾して碗状をなすものと20・28・29のように器高は以外と高く、胴部はほぼ直線的に外に開いて口唇にて直立するものがある。前者の底部は丸底か小さいものであろう。

口外帯を持つもの (17, 28～31・37) と持たないもの (20, 32) とがあるが下部文様の変化に規制を与えるものではないようである。

20は口唇下に1条溝を持ったもので文様構成は珍しいものである。31は胴部文様を沈線によって表出するものでその意味では第Ⅳ群に入るかも知れない。

30を除き胎土は全体にち密で器面は丹念なヘラ磨きが行われ固く焼かれている。

(b) 口縁が外傾するもの (18, 19・21・22, 33～36, 38～51)

口縁が外傾するものには次の三つがある。

㊸内湾しながら外傾するもの (18・19, 22, 33～36, 41, 43, 47・48) ㊹直線的に強く外に張り皿形を呈すもの (21) ㊺直線的に外に開くが㊹ほど張らないもの (38～40, 44～46, 49～51) である。㊸は少なく珍しいものである。

(a)種同様口外帯を持つもの (18・19, 21, 34～36, 38～47) と持たないもの (22, 48～51) とがある。

口外帯には内部を刮去するものとそうでないものがある。21は内部を刮去してないものであるが、36, 44～47とは異なりかなり明確に網状文を表出しており特徴あるものである。(a)においてみられることであるが、口外帯の隆帯上には小隆起がみられるのが一般的であるが、17・34, 36・37を除いてはあまり顕著でない。氷遺跡においてはその小隆起に刻みを持つのは

一般的のようであるが1・34を除いては刻みがみられず一つの特徴となっている。これは口外帯下の文様においても同様のことが言える。

34・39・40・41は口外帯と文様帯が一体となったものでやはり一つの大きな特徴である。

口外帯を持つものは19・21・45、46を除いて網状浮線文と組み合わさるものでこれが一般的なものと思われる。

口外帯を持たないものは無文のもの(22)と2条以上の溝を口縁にめぐらすものがある。22の外面にはわずか擦痕がみられる。

器面があるものもあるが、全体的に内外を丹念にヘラ磨きを行い固く焼かれている。

(c) 口唇が外反するもの(52~54)

わずかであるが口唇が外反するものがある。永遺跡においては肩が張って口唇(口縁)が外反するものが多くみられるが、当遺跡においては肩のはるものは顕著でなく、54にわずかその傾向がみられるぐらいである。

ともに口外帯を有し52・54は隆起上に刻みがみられる。54は3条の細隆線上に刻みを持つもので氷遺跡においても少ないものである。

23~27は浅鉢形土器の底部である。23は口縁が直立するものであろう。ともに内外面丹念なヘラ磨きがみられる。

以上浅鉢形土器をみてきたが、文様を持たない無文のものがかなりあることも考えておく必要がある。これは氷遺跡においてもかなりの無文土器が知られていることからして当然のことであろう。

b 壺形土器(第34図—55)

出土土器が細片のものが多いためはっきりしないが、壺形土器と思われるものは55の一点のみである。口縁が直立し口唇は肥厚して外反する。口縁部に横走る竹管文による文様帯を配し、頸部に1条隆起線をめぐらして隆線上には刻みを持つ。この土器については第Ⅲ群に入るものかどうか疑問の残るものである。あまり類例をみない土器でやや先行するものであろうか。

c 深鉢形土器(第34~38図)

深鉢形土器は第Ⅲ群土器の主体を占めるものであることは間違いないところである。しかしながら出土土器は細片のものが多くまた無文の胴部破片のものが非常に多く明確なことは土器量の割にははっきりしない。完形品はなく図上復元のものも少ないが口縁部形態から3分類してみた。

(a) 肩がはり口縁が外反するもの(56・57・58, 61~72, 92~95)

56・57・58にみるとおり外反はあまり強くないようである。

本種には口外帯を持つもの(61~65, 70)とそうでないもの(56・57・58, 66~69)とがある。口外帯は浅鉢形土器にみられたような内部を削去するものはない。61・65のように小隆起上を凹めたものもみられる。口外帯の下部には幅広い溝を持つのが特徴でその下部に1条ないし2条の細隆起線を表出するものがほとんどである。

口外帯を持たないものは、口唇下に全く文様を持たないもの(56, 57, 69)と溝を持つもの(58, 68) 2~3条の溝によって隆起線を表出するもの(66・67)とがある。

肩が張るといっても明瞭に稜を持たせたもの(61, 69, 71, 72, 92~95)と明瞭な稜を持たないもの(56・57, 58, 66)とがあり、前者は丹念なヘラ磨きが行われており、器面を削ることによって稜を持たせたものと考えられる。これは第Ⅲ群の特徴であり当然であろう。

71・72は別として69, 92~95は胴部に条線がみられ斉一性をみせている。はたしてこれが、水遺跡において指摘されているような口外帯と櫛目状擦痕との組み合わせになるかは本資料だけでは明確でない。

(b) 口縁が内湾するもの(59・60)

口縁の内湾するものは少ない。59はわずかに内湾するもので小形である。縁に3条の溝によって2条の隆起線を表出したもので胴部はゆるやかなカーブを示している。無文である。

60はやはり小形のもので内傾はやや強くなっている。口唇下から非常に細い条線が縦走ない斜走して器面をうめている。

器面調整はともにあまり丹念でない。

(c) 口縁が外傾するもの(73~86)

浅鉢形土器との区別がはっきりしないものが多い。口外帯を有するものはない。口縁部文様帯によって隆起線を表出するもの(73~79)と口唇下に1条の溝をめぐらすもの(80~86)とがある。前者は3本の溝による2条の隆起線が一般的で非常に斉一性をもっている。77は幅広い隆起線を持つものである。

胴部文様は無文か79・86のように無文部を持たずに条線を縦位に施すものがあることは水遺跡において指摘されている。

(d) 口唇が外反するもの(87~91)

87~91はわずかながら口外帯の名残を残すところから本群としたものである。87は条線を縦に、88~89は口唇下に幅広い削りを入れ条線を横走させている。

92~114は胴部破片である。92~95は明瞭な稜を持つものである。無文を除き深鉢形土器の胴部文様は条線が主体を占めている。57にみられるような擦痕を持つものも往々にしてみられる。

条線は細い整美な節歯状工具によって一気にひかれたもの(60, 61) 96~102, 小きざみに短かく引くもの(93・94) 粗く整美でないもの(56, 86, 92, 103~108) 強く深いもの(109)がある。

前2者を持つものに器面調整が丹念なものが多いことは偶然と言えないものがあると考えられる。

99~105, 108, 109, 121は条線の上に沈線によってS字文、ジグザグ文などを描くもので量的に多くない。

56, 104, 107は目の粗い板ないしヘラ状工具によって引かれたものであろう。

110, 111は格子目の条線を持つもので珍しい。

胴部破片の中に縄文、捺糸文を持つものがかなりみられるがすべてⅢ群に伴うものであるか

ははっきりしない。112, 113, 123のように沈線によってジグザグ文などを描くものは本群として間違いないであろう。

115～137は胴下半部から底部にかけてのものである。多くが無文のためすべて第Ⅲ群のものとは言いきれないところもある。

122, 128のように上げ底のものもあるがほとんどが平底である。胴部の立ち上がりは直線的に外に開くものと内屈したのち外に開くものとがみられる。

129, 131, 132～136は網代底, 130, 137は木葉底である。網代底, 木葉底は浅鉢形土器にはみられず深鉢形土器の特徴であろうか。

(4)第Ⅳ群土器 (第39図)

本群はⅢ群と異なっていわれる沈線による文様表出技法を示すものである。第Ⅲ群との区別は必ずしも明確とはなっていない。図示した4片のみで非常に少ない。しかしながら胴部の無文土器はⅢ群との区別はし難くそれを考えると多量の可能性もある。

138, 139は口唇下に1条, 140は2条の沈線をめぐらすものである。141は、頸胴部の破片で定かでないが網状文を持つとも考えられる。

(5)第Ⅴ群土器 (第39・40図)

本群土器はいわゆる条痕文を持つもので東海地方との関連を考える上で重要なものである。第Ⅲ群に続いて多く出土しておりその量も非常に興味あるものである。

量が多いわりに器形を知り得るものは142のみで、口縁部破片も少なくほとんどが深鉢形土器と思われるが定かでない。条痕はほとんどが貝殻腹縁によるもので横ないし、斜走するものが一般的である。底部破片からすると条痕は全面にわたっていたものと考えられ、ある齊一性をみせている。

本群土器の胎土には多い少ないは別にして大粒な長石が含まれている。ここでは非常に多量の長石を含みがさつた感じのものを取り出してb類とした。このb類は往々にして白っぽい色調を持つものがみられる。文様・施文方法等 a・b類に相違はみられない。

a a類 (第39図—142～153)

本類は長石をあまり含まないものである。142を除き深鉢形土器と思われる。

142は第Ⅴ群の唯一の器形を知り得るもので、土坑57から出土している。上部に平盤な自然石がおかれ口縁を上にし底部は抜かれたもので壺棺と考えている。土坑57の東には土坑48があり一部土坑48より接合資料が出土している。

胴部は球状にふくらみ口唇は外反して厚い隆帯をつけている。隆帯上には連続する指頭圧痕がつけられている。条痕は貝殻腹縁によるもので上部はやや斜走、下部は横走している。内面はなでないし一部ヘラ磨きが行われている。

143,146の条痕は腹縁によるものでなく節状工具に類するものと考えられる。条痕の方向は横ないし斜走で144は上部を横に引きその後斜走させている。

153は深鉢の底部で内屈した立ち上がりを示し腹縁による条痕がみられる。

b b類土器 (第40図—154~164)

条痕文土器のうち多量の長石を含むものを**b類**とした。

154は142と同様の指頭痕をもつ隆帯を口唇にめぐらすものでやはり壺形土器であろうか。他は深鉢形土器と思われる。161を除き腹縁利用の条痕でa類同様横走ないし斜走するものである。

161は櫛状工具に類するものを利用し、斜走のあと縦走させている。

163,164は底部で条痕は鮮明でない。

(6)第Ⅵ群土器 (第40図)

少量ではあるが、薄手形形で条痕文を持つ一群が出土している。胎土は全体にち密で明かるい色調を呈すものが多い。

169,170は壺形土器であるが他は判然としない。

165~168は先端が偏平な櫛状工具に類するものを利用して横走させるもので第Ⅴ群土器に相通じるものがある。第Ⅴ群土器条痕文の変化として地域性を補えるか時期差なのか今後の課題である。169~174とは文様構成が異なるが、胎土等は同じであり第Ⅵ群としたものである。

169~174は綾杉文を持つもので173を除き櫛状工具による条痕である。この種のことを条痕と呼ぶか第Ⅲ群のように条線と呼ぶべきか難しい。173は165~168と同じ工具を利用したものである。これからすると横走するものと綾杉文との組み合わせも考えられないことはない。

165~168は別として本群は庄ノ畑式土器に比定されるものであろう。(気賀沢 進)

2 石器 (第41~51図)

今回の調査によって出土した石器は全部で273点である。土器の所で述べたように、縄文時代中期・後期の土器が出土しているが量は非常に少なく石器は第Ⅲ~Ⅵ群土器に伴出すると考えて良いと思われる。このため一括して報告することとする。

273点の内訳は打製石斧135,搔器53,石礮21,横刃形石器18,敲打器16,石錘10,磨石8,磨製石斧7,大形粗製石匙3,特殊敲打器2となっており、打製石斧が約半分を占めており注目される。

氷遺跡においては土器量の割に石器が少ないとされておるが、この273点という量がはたして多いか少ないか同様な良好の遺跡を付近にもたない現状では何とも言えない。

丸山敞一郎氏の「天竜村平岡南遺跡」の報文によるとやはり打製石斧が多いとされている。

晩期には東海地方において打製石斧が急激に増加することは知られる所で、当遺跡の卓越は条痕文土器との関係において考える必要がありそうである。

伊那谷における晩期の遺跡の発掘例は少なく石器の組成の比べようがないのが残念である。

最近諏訪地方において当遺跡と同一期と思われる遺跡の発掘が行われており、地域の様相がみられるが非常に興味深いものである。

石礫の量にも問題がある。佐野遺跡においては多量にみられた石礫が氷遺跡においては極端に少なくなっている。当地方においてそのような比較ができないため先に述べた現象が伊那谷においても言えるものなのか今後の課題である。

石礫に比して多量に出土した黒耀石のチップ、それと搔器とした一群の剥片石器の存在は注目したい。氷遺跡においてはみられないものである。比較資料を持って検討すべきことであろう。

(1)打製石斧 (41～44図)

打製石斧は135点出土している。短冊形122点、撓形12点、分胴形1点となっており、この比率をみる限り中期と大差ないと思われる。短冊形122点のうち完形品は27点で少ない。撓形では3点となっている。分胴形1点は欠損品である。

打性石斧を礫表皮の残り具合から4分類してみた。

a—a 類 (1～2)

両面に自然面を持つものである。1・2とも短冊形で1は刃部を欠く。大割りの後に縁辺を簡単に調整しただけのものである。

b—b 類 (3～20)

片面に自然面を残すものである。大きく自然面を残すものとわずかに残すものとがみられる。3・4・9は撓形、14は分胴形である。短冊形としたものの中にも撓形に近いものがいくつかみられる。

c—c 類 (21)

測辺部及び頭部刃部に自然面を持つもので21の1例だけである。完全なc類とは言えないかも知れない。

d—d 類 (22～31)

まったく自然面を持たないものである。27・29は撓形に近いものである。

1・5、18・26は緑泥岩製、9、12、16、31は緑泥片岩製、22、23は砂岩製、他はすべて硬砂岩製である。

(2)磨製石斧 (第45図)

磨製石斧は7点出土しており乳棒状のもの5点、定角のもの2点となっている。定角のものはすべて欠損品である。

32・33は扁平で乳棒状とは若干異なるが敲打痕を残しているから含めたものである。33・34は加工中のものであろうか。敲打器に似るが端部の利用がみられない点異なるものとした。

(3)大形粗製石匙 (第46図—38～40)

いわゆる大形の粗製の石匙が3点出土している。

38は硬砂製の縦形のもので片面に自然面を残している。

39・40は横形のもので39は緑泥岩製、40は硬砂岩製である。

(4)石錘 (46, 47図—41~50)

石錘は全部で10点出土している。すべて礫石錘で切目石錘はなくいわゆる長軸の方を打ち欠く縦形のものである。48は欠損品である。

石材は45, 50の2点が緑泥岩, 他は硬砂岩である。

(5)敲打器 (第47, 48図—51~63)

敲打器は16点出土している。

51は細長い自然石の側辺を敲打するものである。緑泥岩を利用している。

52~61は細長い自然石の端部を使用するものである。54, 56, 58, 61は全面に軽い磨きが見られる。57・59は敲打痕が一部あるいは全面にわたってみられる。乳棒状が磨製石斧の加工中とも考えられる。石質は52, 54, 57, 59, 60は緑泥岩, 他は硬砂岩である。

62・63は小ぶりな不定石の自然石の一部ないし2箇所を利用するものである。62は硬砂岩製63は緑泥岩製である。

(6)特殊敲打器 (第49図—64・65)

台形ないしやや三角形ぎみの自然石の一端を敲打するものが2点出土している。ともに硬砂岩製である。

特殊敲打器とは南原遺跡においてつけたもので65のように全くの自然石のものと64のように片面割れたものがある。さらに平坦面を磨くものもみられる。

(7)横刃形石器 (第49図—66~70)

剥片利用の横刃形石器が18点出土している。石材は硬砂岩がほとんどである。

(8)磨石

磨石は8点出土しているがすべて破片のため図示していない。

(9)石礫 (第50図—71~87)

石礫は全部で21点出土している。図示したもの以外はすべて欠損品の一部である。石材は黒耀石が19点と卓越し他は79のチャート, 81の安山岩となっている。

有茎のもの9点, 無茎のもの12点である。無茎のものは三角形礫が多く87は五角形礫と思われる。

(10)石錐 (第50図—88)

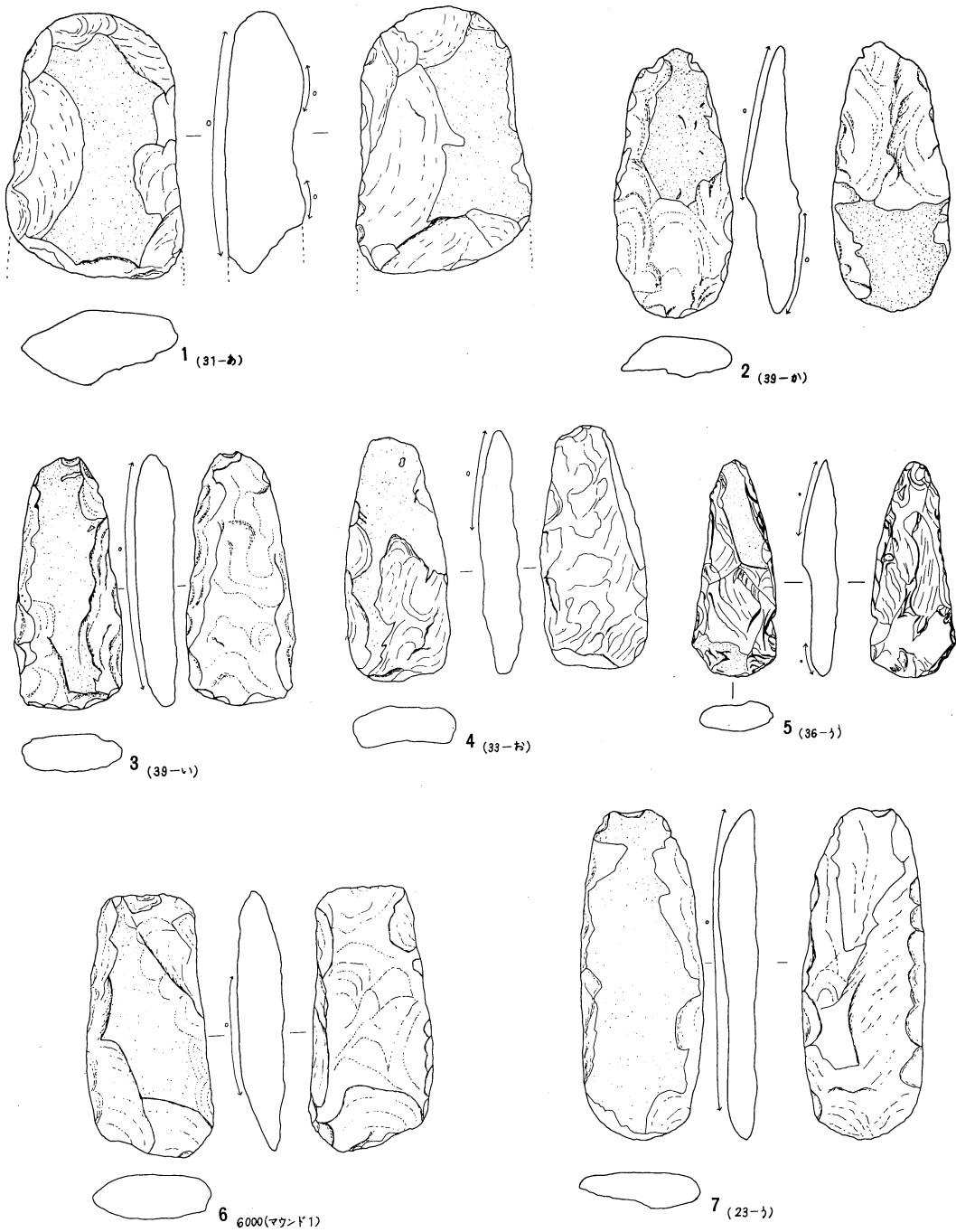
88はカマボコ形の断面を呈すもの石錐とするには問題があると思われる。黒耀石製である。

(11)搔器 (第50図, 51図—89~141)

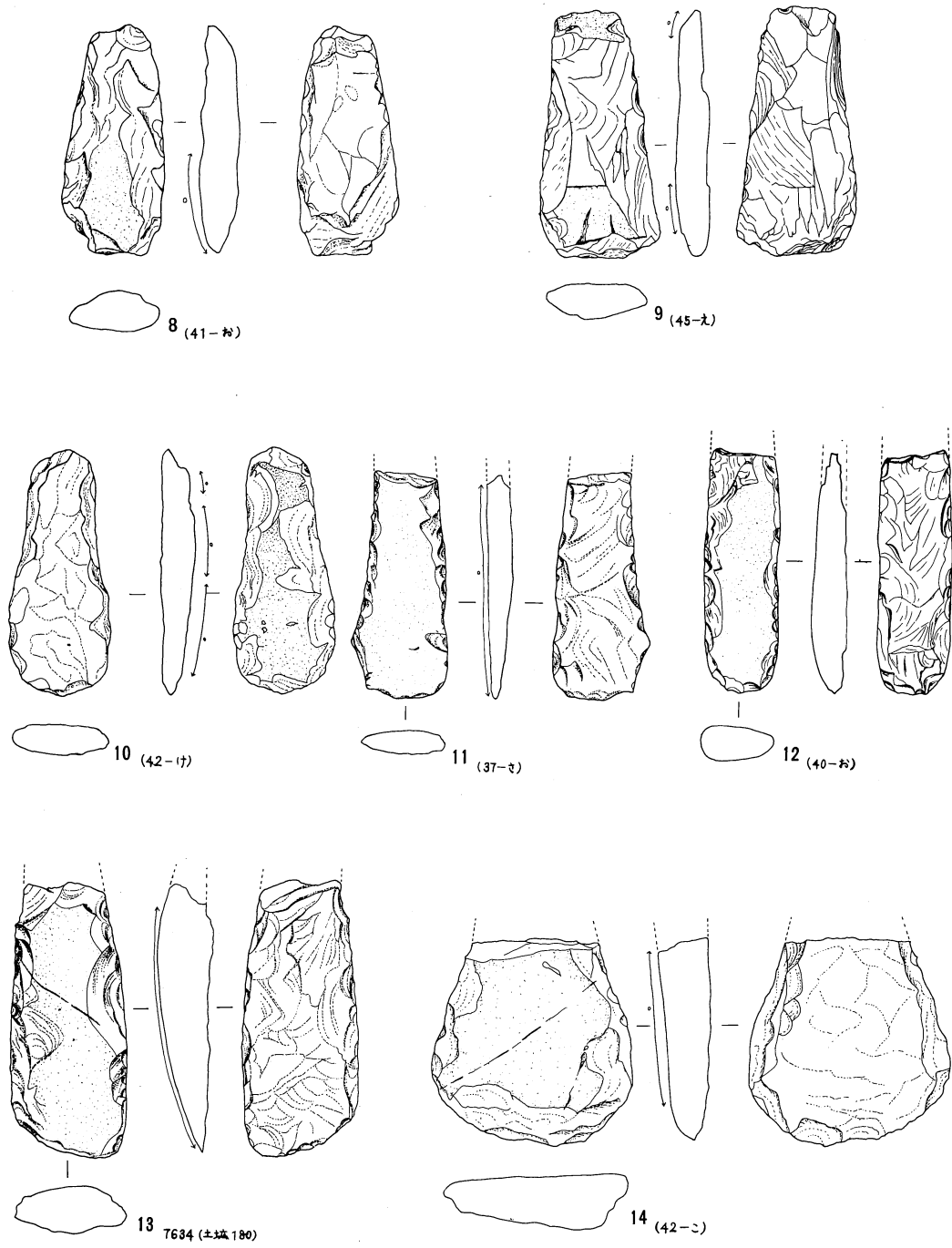
不定形の石器を一括して搔器とした。削器その他多くの用途を持つものと考えられる。

ほとんどが剥片に簡単なリタッチを加えたものである。128のチャートを除けばすべて黒耀石製である。

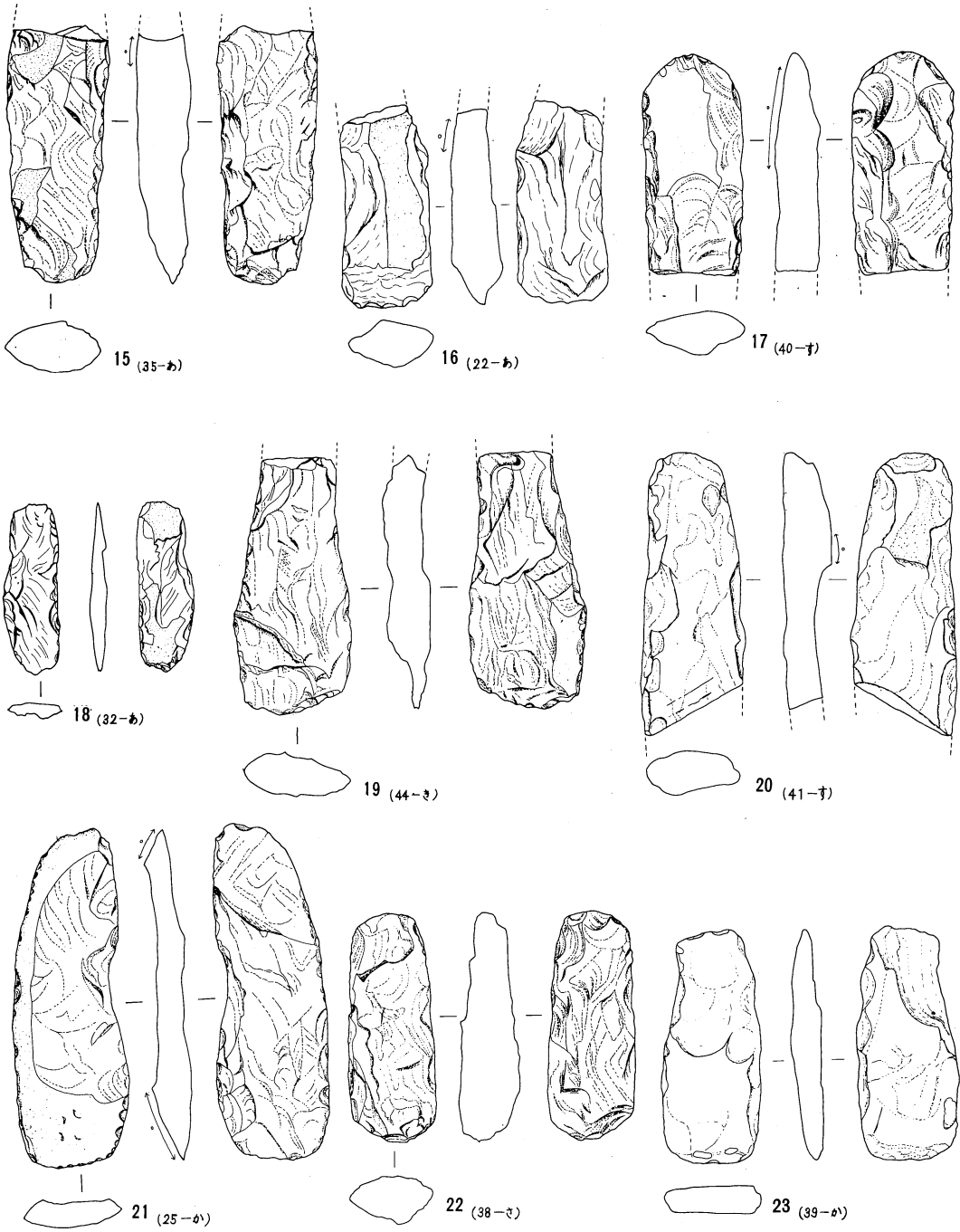
(気賀沢 進)



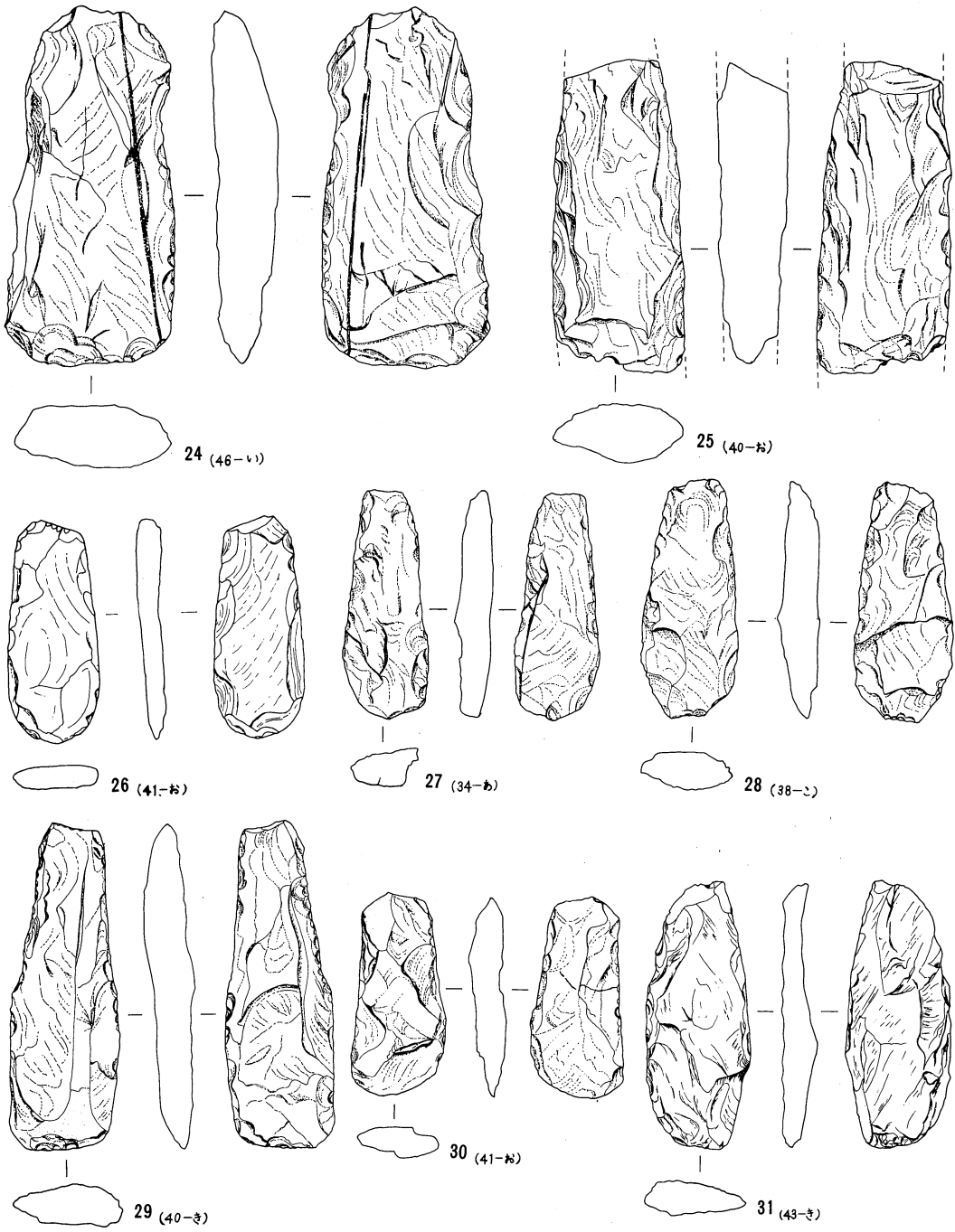
第41図 打製石斧実測図 (1/3)



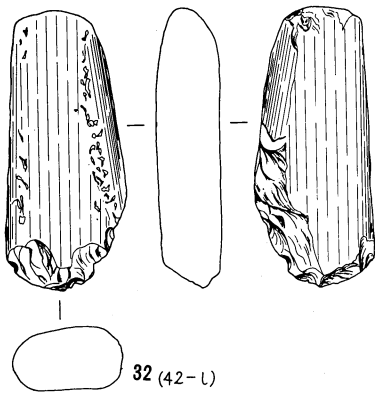
第42図 打製石斧実測図 (1/3)



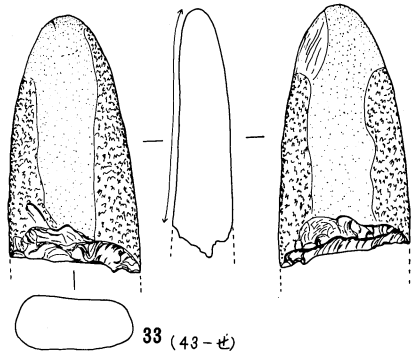
第43図 打製石斧実測図 (1/3)



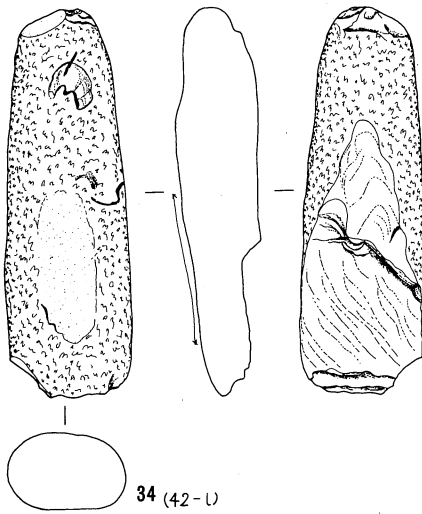
第44図 打製石斧実測図 (1/3)



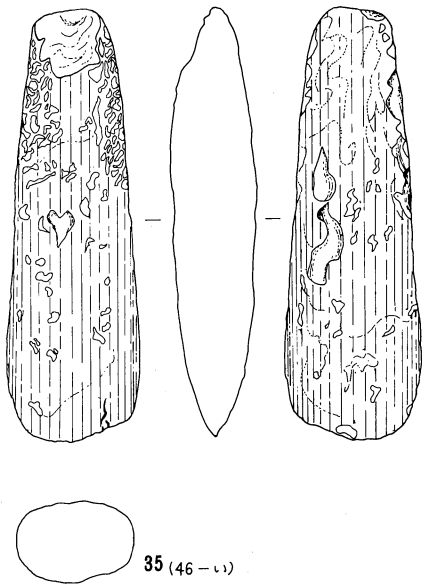
32 (42-l)



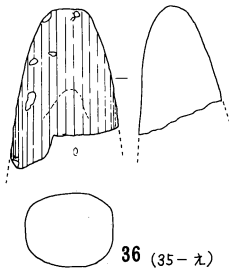
33 (43-se)



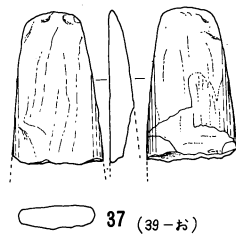
34 (42-l)



35 (46-i)

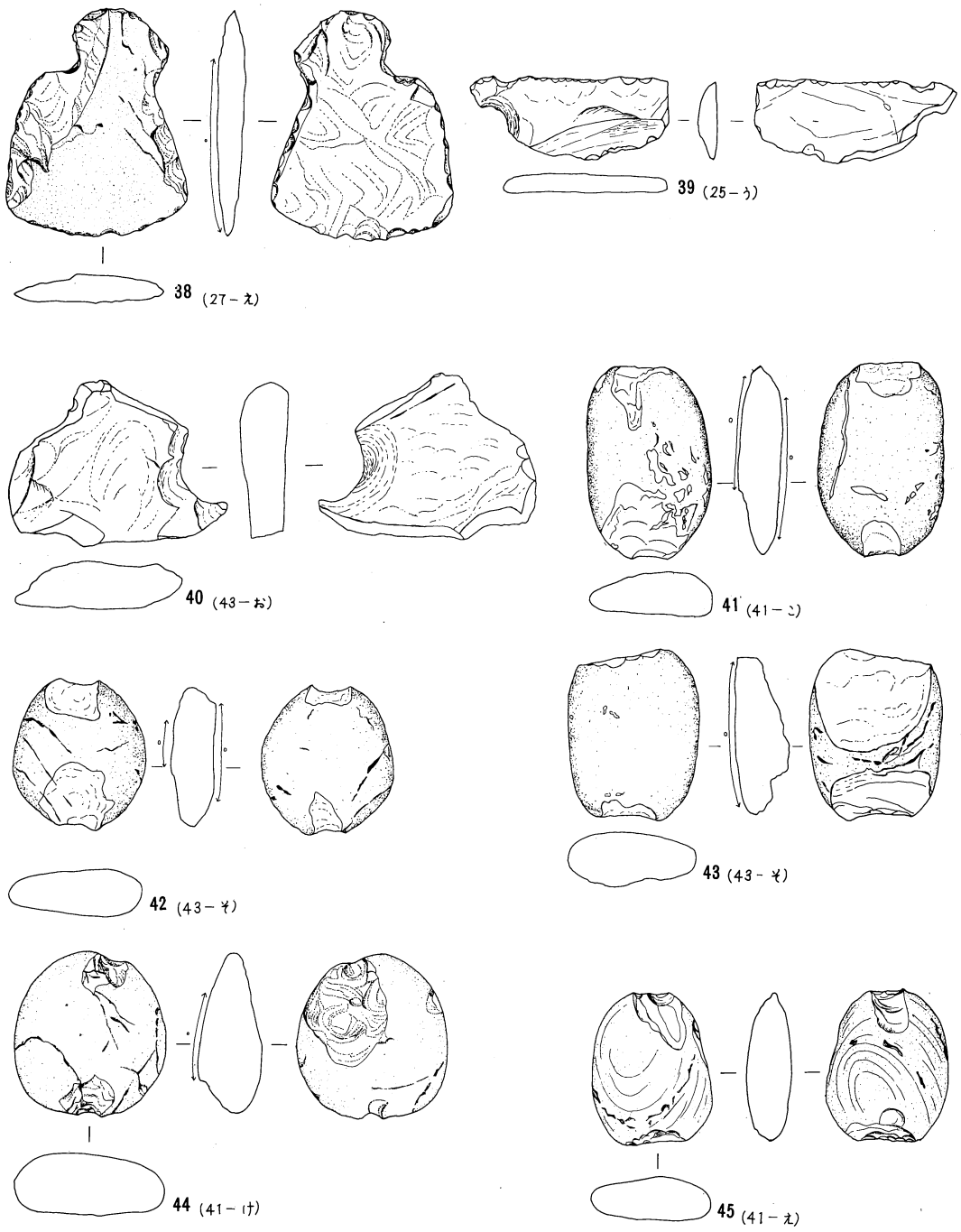


36 (35-9)

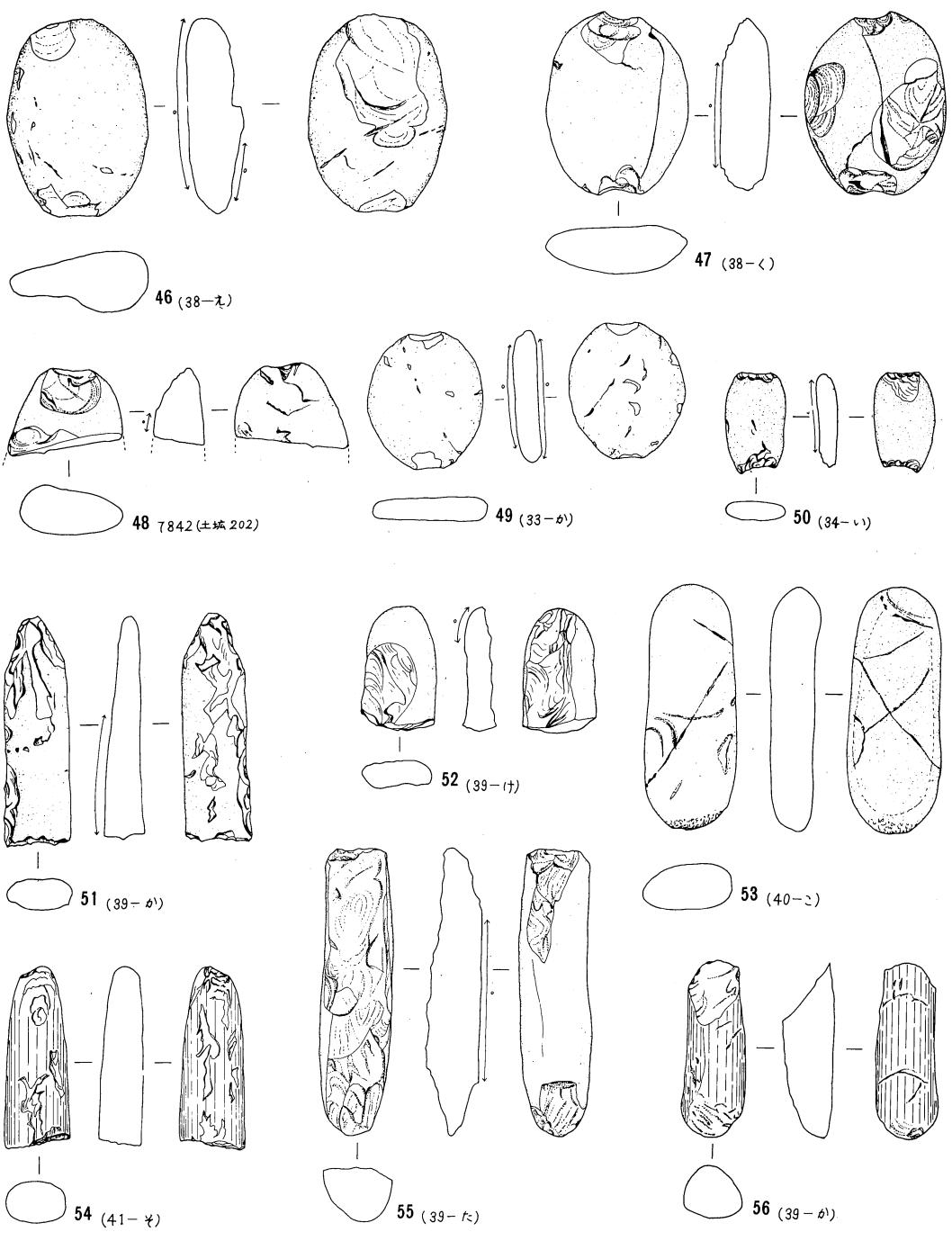


37 (39-o)

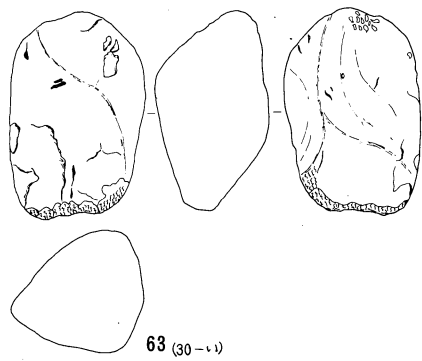
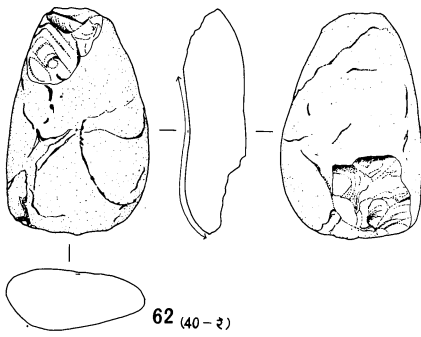
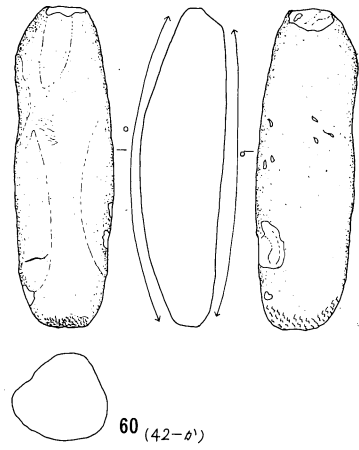
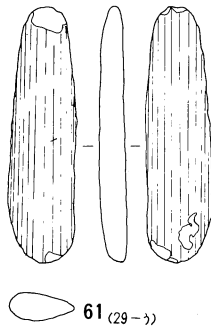
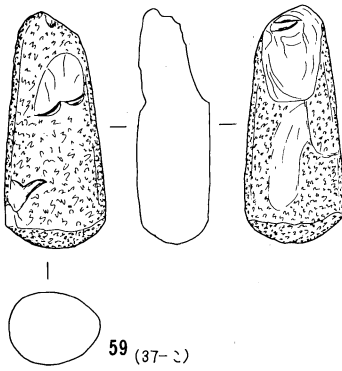
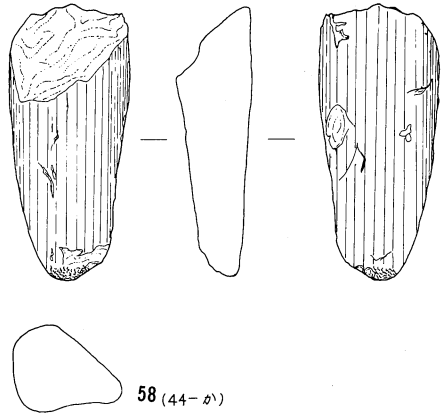
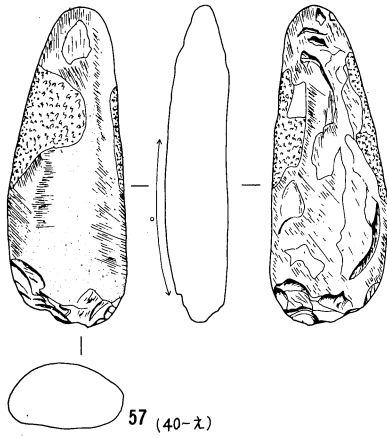
第45図 磨製石斧実測図 (1/3)



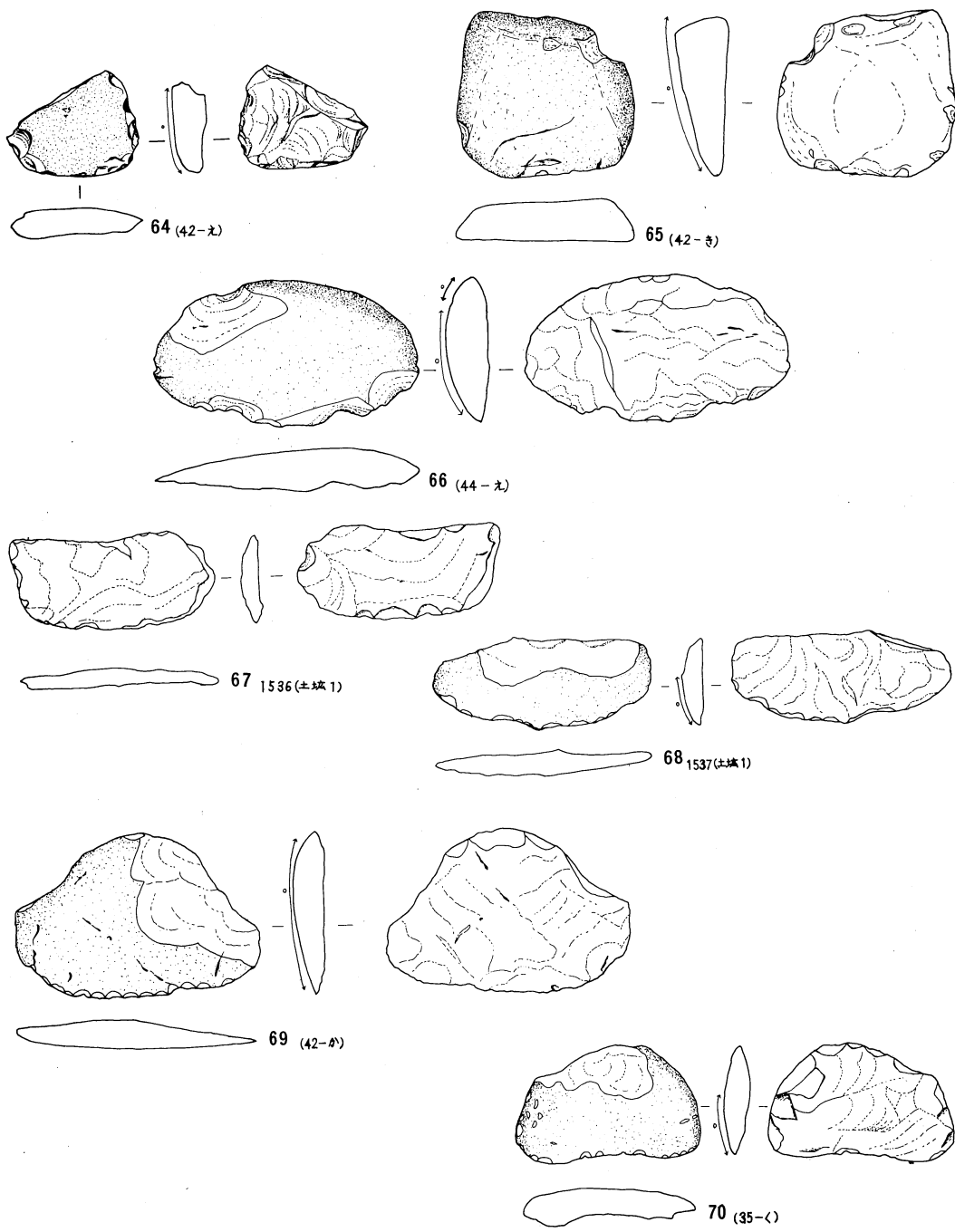
第46図 大形粗製石匙, 石錘実測図 (1/3)



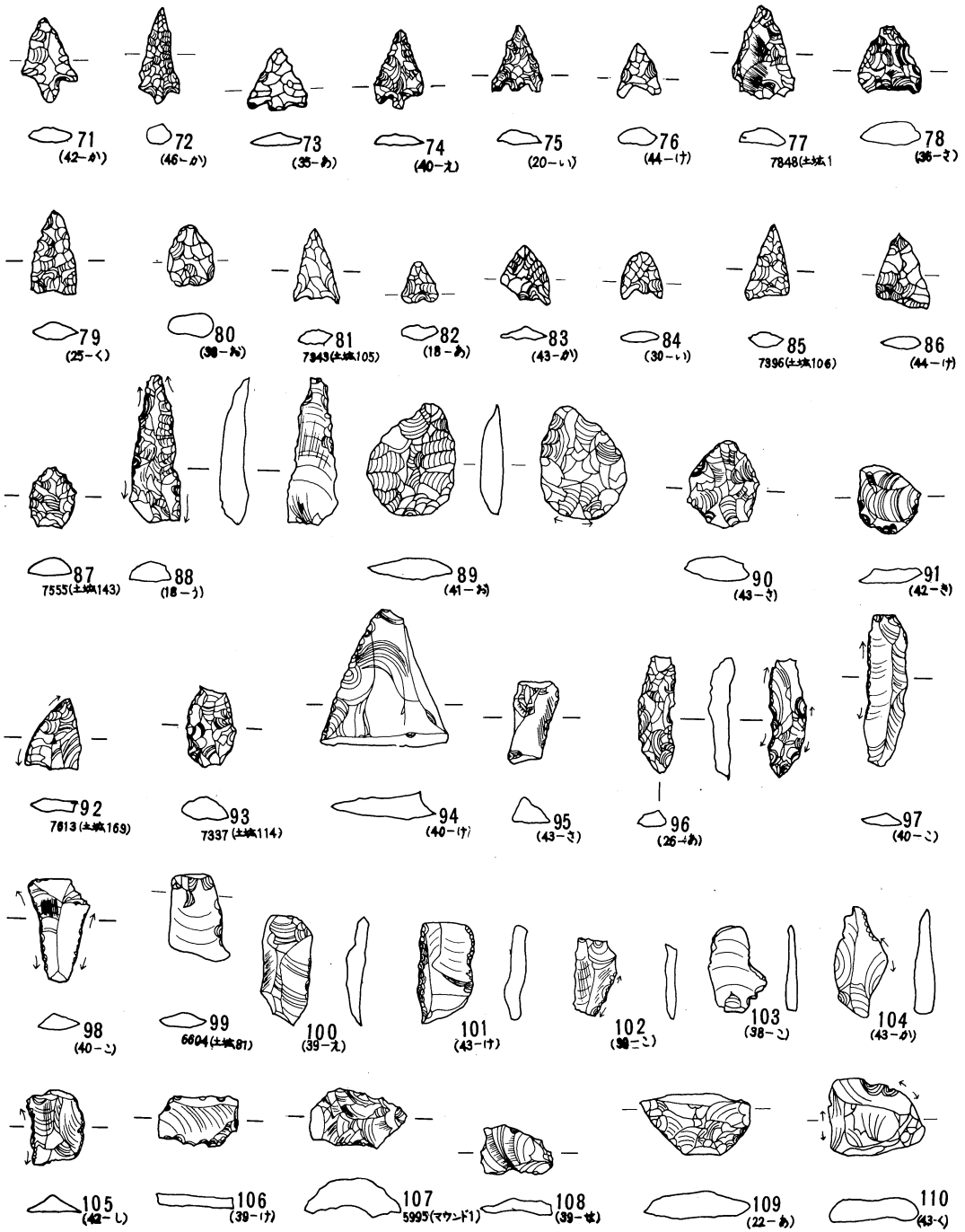
第47図 石錘・敲打器実測図 (1/3)



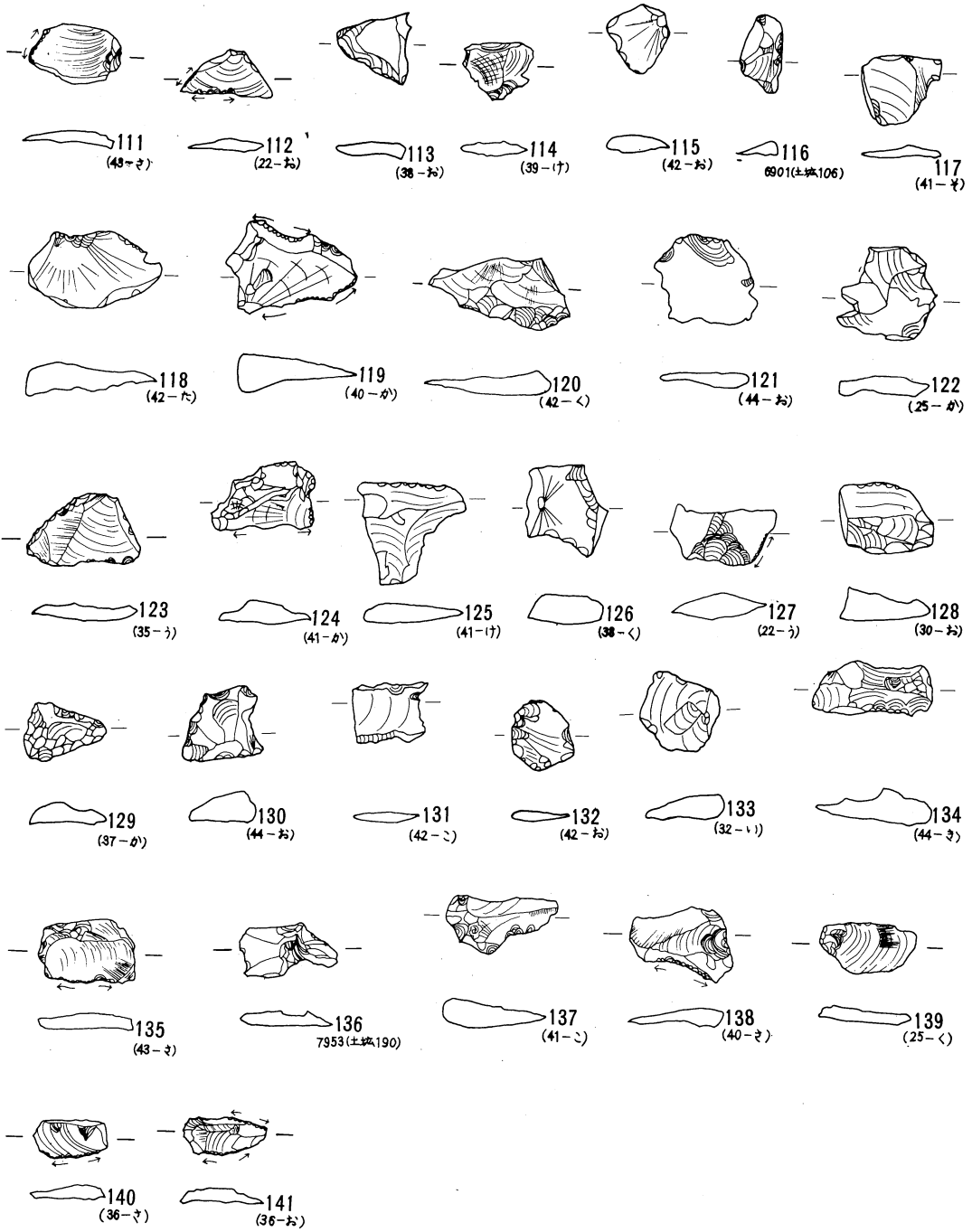
第48図 敲打器実測図



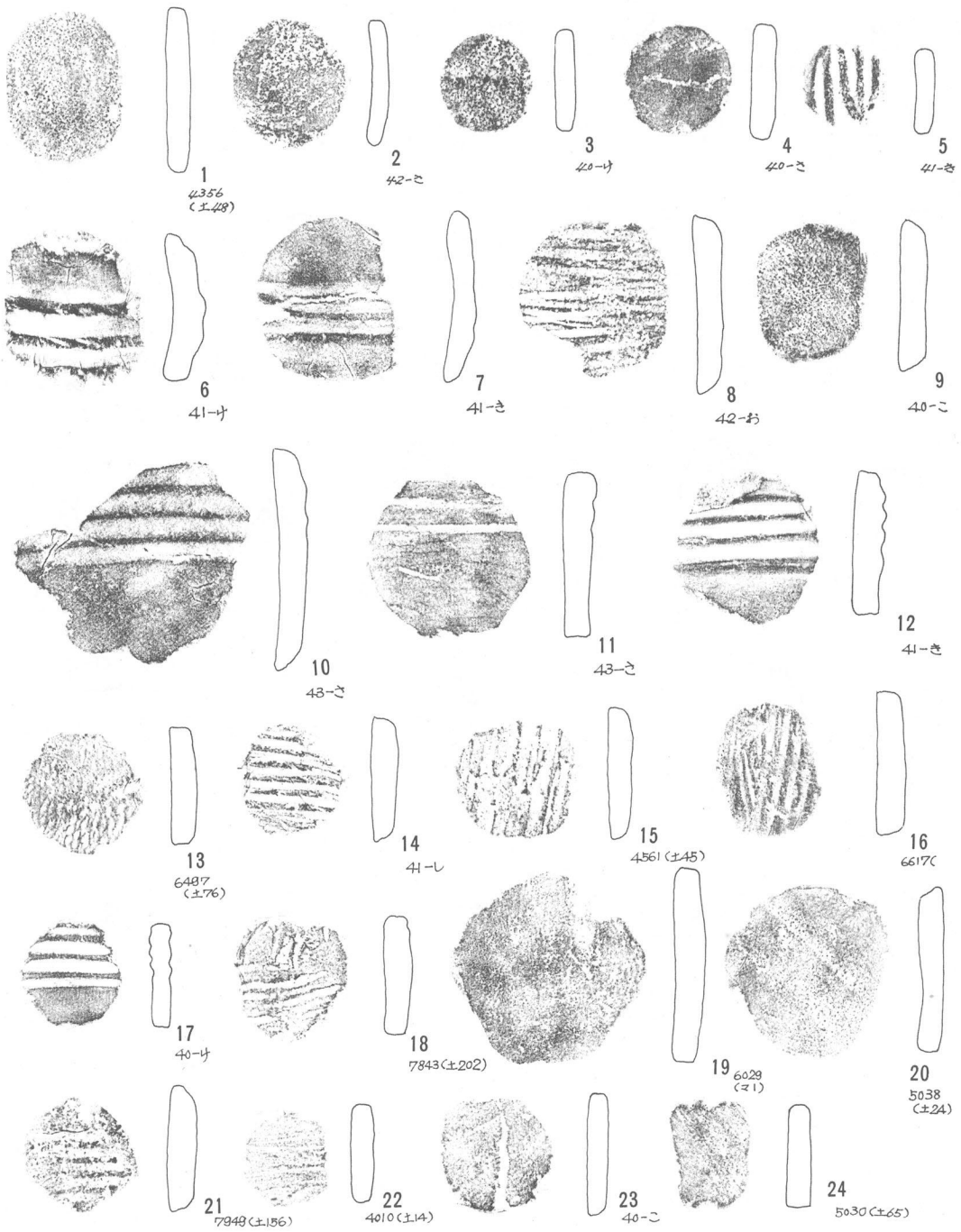
第49図 特殊敲打器・横刃形石器実測図 (1/3)



第50図 石礫・搔器実測図(1/2)



第51図 播器実測図 (1/2)



第52図 土製円板・土錘拓影図 (1/2)

3 土製品 (第52, 53図)

土製品として土製円板・土錘・土偶の足部が出土している。

(1) 土製円板 (第52図—1～23)

土製円板が94点出土している。うち完形のもの76点、欠損品18点である。形態的には円形のもの62点、楕円形21点、長方形6点、方形5点となっている。深鉢形土器の胴部を利用するものが多く、ほとんどが無文である。一覧表にみるとおり大きさは一定していない。

土製円板を製作方法によって3分類してみた。

a 一測面をきれいにすりあげるもの—1～5,

b 一測面の片面のみすり断面が台形を呈すもの—6～9,

c 一形態に応じて打ち割っただけのもの—10～23,

c 類は小破片との区別が明確し難いものである。10のように何回も割っているものもみられ判別は簡単である。

(2) 土錘 (第52図—24)

土錘が1点出土している。深鉢形土器の胴部を利用している。3×2cmの大きさと厚さは、0.8mm重量10gである。長軸両端にわずかに扶きを入れている。

(3) 土偶の足部 (第53図—1・2)

土偶として、足部それも左足が2点出土している。1点は第64号土坑下層(暗褐色土層)より出土し、胎土は長石粒が多い。表面は茶褐色を呈し足裏は黄褐色をしていて、足の長さ、3.0cm幅2.5cmである(第53図—1)。もう1点は41—こグリット内黒褐色土層上層より出土し、胎土は長石粒が多い。表面は明茶褐色を呈し、足の長さ2.3cm幅1.8cmである(第53図—2)ともに、足部のみであるため土偶の全体像は把握しにくい。時期も明確なことはわからないが、周辺の出土土器との関係より、縄文晩期末のものと言えるかもしれない。なお、2の表面には、種子痕がついているが、ものは不明である。

4 石製品 (第53図)

石製品として石剣、有孔磨製石礮・石製未製品が出土している。

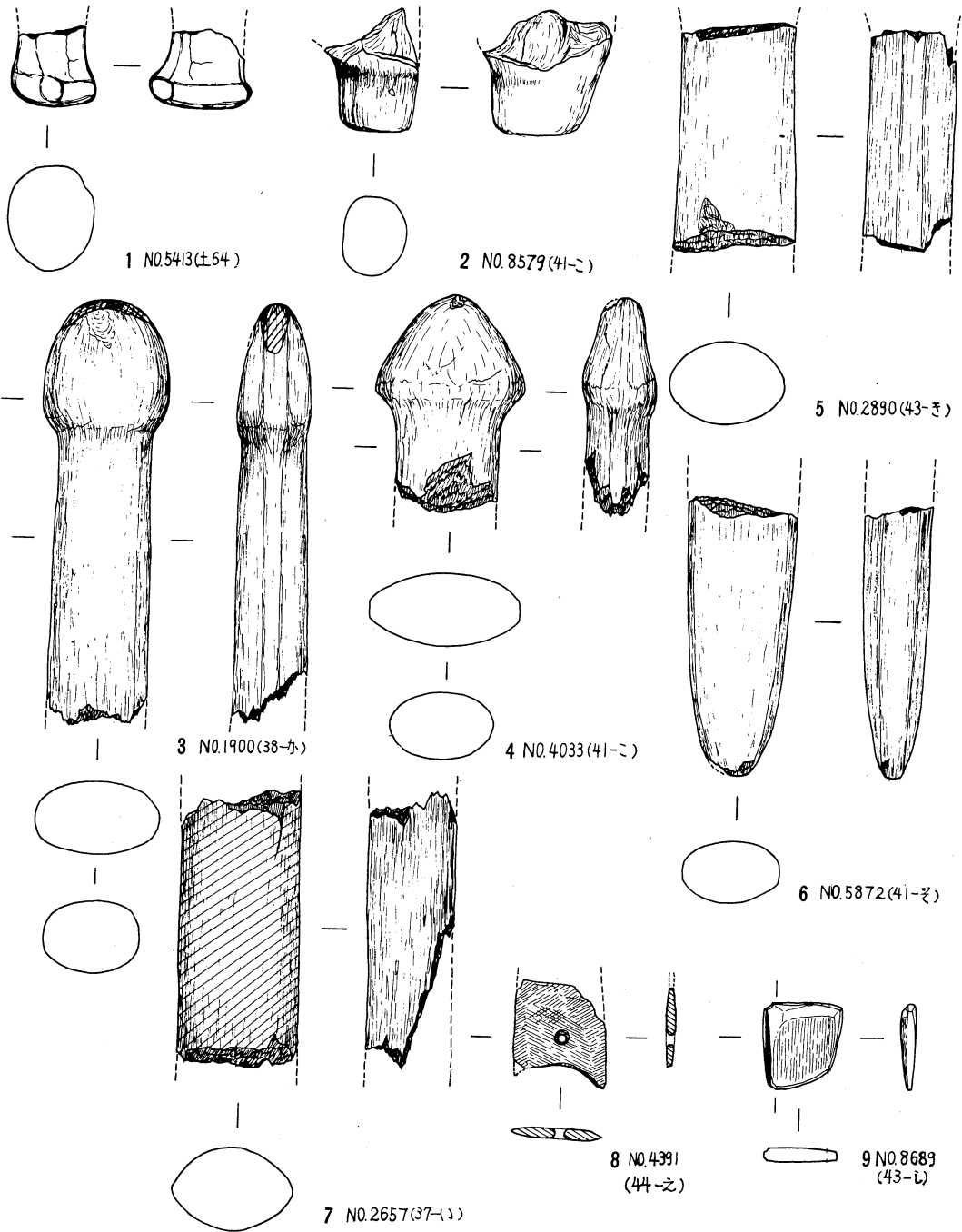
(1) 石剣 (第53図—3～7)

石剣はすべて破損した状態で出土し5点ある。第53図—3・4・6・7は緑泥片岩製であり、5のみが粘板岩製である。3・4・6・7は、黒褐色土層下層からいずれも出土し、人為的に埋設したような形跡は認められなかった。3・7は、赤色顔料が塗布され、3は先端部分のみ、7は全面に施されている。5は埋土中より出土した。

各石剣ともに、断面形は楕円形を呈し、整形は全面的によく研磨されているが、4は悪質の緑泥片岩のためかやや粗く段ちがいの有頭をなしている。また、6は、側面をやや平らに整えている。なお、3は、茎部が意識的によく削り込まれている。

破損状態から意識的に壊ったものとして判別できうるし、5点ともに別個体のものである。

各石剣の色調についてであるが、3は緑色、4は緑青色、5は暗緑青色、6は灰緑色、7は灰白色(地)である。



第53図 土製品、石製品実測図 (1/2)

赤色顔料の塗布という問題についてであるが、専門的な研究成果の上での論述でないので、科学性が欠如するかもしれない。

一般的に赤色顔料は、酸化鉄 (Fe_2O_3) と朱 (赤色硫化水銀 = HgS) に大別され、特に酸化鉄が多く用いられたとしている。また、さらに酸化鉄は天然に赤鉄鉱として産し、その粉末は赤色顔料として用いられ、酸化鉄を多く含んだ土は、含水の度合や爽雑物により赤～黄の色相を呈し、これらも赤や黄等の顔料に用いられた。この色土は、焼くと赤色が強くなるとしている。※3

これらの赤色顔料の特徴から、本遺跡より出土した石剣の中で、3・7の赤色顔料は、朱より配化鉄もしくは酸化鉄を含んだ土の塗布と考えられる。とりわけ、7の真っ赤に塗布されたものは、酸化鉄及びその土を焼いた結果のものとして判別できる。なぜなら、石剣の表面は赤色を呈しているが、その地である緑泥片岩が焼けてただれ、灰白色をしているからである。

このことについては、明確な研究成果ではないので、正確な研究資料の上からの諸先達の御教示をお願いしたい。

(2) 有孔磨製石鏃 (第53図-8)

有孔磨製石鏃1点が、44-エグリット内埋土中より出土している。

厚さ3.0mm、幅2.7mm、孔の直径3.0mmであり、粘板岩製である。

先端部と脚部を欠くが、全面に交差する斜めの擦痕が認められる。孔は、両側から穿たれている。

(3) 石製未製品 (第53図-9)

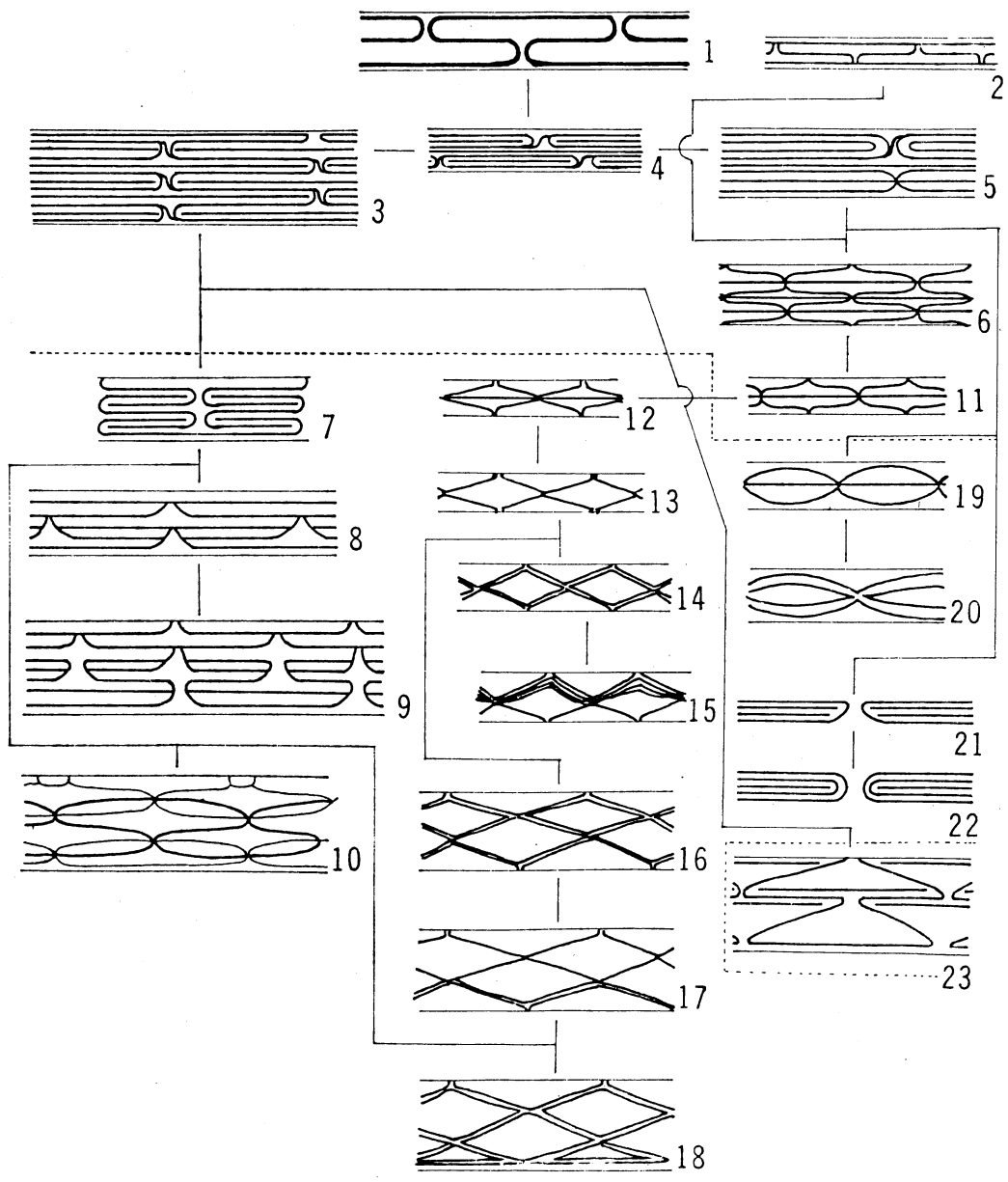
緑色の滑石製で、厚さ4.0mm、幅2.5cm×2.2cmである。43-シグリット内黒褐色土層より出土している。全面をよく研磨していて、側面のうち1片には、擦切技法による痕跡が見られる。

5 出土土器について

出土土器を6群に分けて説明してきたが、本遺跡の主体を占める第Ⅲ～Ⅵ群土器について若干ふれてみたい。多くが細片・無文のため明確にでき得ない点もあり、また誤りもあろうかとも思われる。

第Ⅲ群土器は大きく縄文時代晩期末葉氷Ⅰ式期に比定されることは間違いなからう。荒神沢遺跡の土器についての文様の集成ができないため、「氷遺跡の調査とその研究」から工字文・変形工字文系列図を引用させていただき、荒神沢遺跡の特色をみてみたい。

この時期の特色とされる変形工字文・網状浮線文には色々の文様変化がみられ、氷遺跡においては13の系列が主体をなしているとされている。※4 当遺跡をみると曲線化し丸味を滞びた19・20が主体をなし、さらに内部に接合部をつないだ線を持つものが特徴といえる。後者は第32図-18、第33図-34・40例のように直線的なものにまでみられることからしても大きな特色と考えて良いだろう。これらの土器は6・11の系列に含まれるものであろう。このような文様構成を持つところから網状浮線文との表現を土器の項においては使用したものである。同様な文様構成を持つ遺跡としては静岡県富士川町山王遺跡が知られる。※5



工字文・変形工字文系列図
 (永峯光一「永遺跡の調査とその研究」より引用)

伊那谷においてはこの時期の発掘例が少ないためはつきりしていない。天竜村平岡南遺跡※⁶は出土土器が少なく明瞭でないが、やや異なっていると思われる。発掘例ではないが、当遺跡の南西対岸にある如来寺遺跡※⁷はほぼ当遺跡に類似している。

岡谷市新井南遺跡※⁸においては、一部当遺跡に似るものもあるが全体的には異なっている。伊那谷における資料が乏しくはつきりとはしないが、氷遺跡と異なった変形工字文の変化—網状浮線文を持つ地域としてとらえることができると思われる。

次に氷遺跡においては、浅鉢形土器の口縁下に滑沢無文帯を残し、体上部に文様帯を配置することが特徴とされているが、当遺跡においては氷遺跡例もみられるが、口縁下から文様帯を配置している。口外帯というよりも網状浮線文を表出したと言った方が良いと思われるもののがかなりみられ特色となっている。

また氷遺跡において顕著な隆帯上の刻みが当遺跡においてはあまり目立たないことも相違の一つである。

では深鉢形土器はどうであろうか。氷遺跡において変形工字文を持つもののがかなりみられるのに反しほとんど当遺跡においてはみられないことに注目したい。土器が細片のため浅鉢形土器と深鉢形土器との区別が明確にでき得なかった点があるにしても全くと言って良いほどみられない。

もう一点として胴部文様即ち条線の違いである。氷遺跡では非常に細い条線が縦方向に引かれると言った斉一性をみせているが、斜走するものもあるなどややぐずれた形である。また粗い条線を持つもののがかなりみられる点、東海地方の条痕文系土器の影響を考える必要がある。

このような特徴を持つ第Ⅲ群土器が氷Ⅰ式期に比定されるのか、ややずれを持たせる必要があるのか、今後の類例を持って検討したい。

第Ⅵ群土器は非常に少ない。沈線状になるという文様表出の違いから区別したものであるが氷遺跡ほどの多様性はなく量的にも少ない点異なりをみせている。

第Ⅴ群土器とした条痕文土器群は東海地方との関連を示す点で注目したい。a類・b類と胎土からわけてみたが文様構成、手法とも変化はみられない。a類b類が共伴する土壇も多くみられることからして同時期のものであると考えると良いであろう。

東海地方の条痕文土器の内、西志賀式第3類—貝殻山式第3類に類例を求めることができ、樫王式に比定されるであろう。

さてこれらの土器の共伴関係であるが、土壇出土のものには第Ⅲ群土器と第Ⅴ群土器が共伴する例が多くみられる。遺跡の東部分の黒色土中の遺物出土状態も層位的な変化はなく共伴関係を裏づけている。

第Ⅵ群土器は庄ノ畑式土器に比定されるものであるが、1号マウンドからは第Ⅲ・Ⅴ群土器と共伴しており今後の問題を残している。

第Ⅴ群の条痕文土器群が第Ⅲ群土器群と共伴することははっきりした。上伊那南部の遺跡について若干ふれてみたい。

市内赤穂湯原遺跡※⁹では本遺跡と同様樫王式に比定される条痕文土器を出土しているが、浅

鉢形土器と思われるものまた網状浮線文を持つ土器群が伴出していない。このことは飯島町うどん坂Ⅱ遺跡※10においても同様である。また市内赤穂蟹沢遺跡※11では網状浮線文を持つ土器群はあっても少ない。このような例が何を意味するのか今後の課題として追求し伊那谷における縄文晩期から弥生時代との変換点をより一層明らかにして行く必要がある。

時間的に非常に無理な中での整理のため十分なこともできずまた浅学のため誤りの多きことと思われる。大方のご教示をいただきたい。(気賀沢 進)

- ※1 永峯光一「永遺跡の調査とその研究」— 石器時代第9号— 石器時代文化研究会所収— 昭和44年
- ※2 丸山敏一郎「長野県下伊那郡天竜村平岡南遺跡出土遺物について」— 信濃第18巻第4号 信濃史学会所収— 昭和41年
- ※3 赤色顔料について次の文献を参照した。
日本考古学協会編「日本考古学辞典」東京堂 昭和38年
- ※4 ※1に同じ
- ※5 稲垣甲子男・笹津海洋・望月薫弘「駿河山王— 静岡県富士川町山王遺跡群調査報告書」富士川町教育委員会
- ※6 ※2に同じ
- ※7 如来寺遺跡は荒神沢遺跡の西南対岸にあり、上穂沢川の低位段丘上に位置している。上伊那における縄文晩期の標識遺跡として有名である。発掘調査はされていない。文献としては次のものがある。
林茂樹編著「上伊那の考古学的調査〔総括編〕— 長野県上伊那誌歴史編抜別改題」昭和41年
- ※8 小松原義人・高桑俊雄・福沢幸一・山田端穂・小林正春・堀知哉「2, 新井南遺跡」— 50長野県中央道埋蔵文化財調査報告書〔岡谷市その3〕日本道路公団・長野県教育委員会所収— 昭和51年
- ※9 吉村進「第5節湯原遺跡」— 大城林・北方Ⅰ・Ⅱ・湯原・射殿場・南原・横前新田・塩木・北原・富士山緊急発掘調査報告— 駒ヶ根市教育委員会・南信土地改良事務所所収— 昭和49年
- ※10 伊藤修「2・うどん坂Ⅱ遺跡」— 47長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書上伊那郡飯島町内その3・駒ヶ根市内 日本道路公団名古屋支社・長野県教育委員会所収 昭和48年
- ※ 辻沢遺跡群研究会「辻沢遺跡群— 辻沢川流域における遺跡分布調査報告」辻沢遺跡群研究会— 昭和49年

その外多くの文献を参考にさせていただいたが、紙面の都合上割愛した。

第Ⅵ章 おわりに

荒神沢遺跡の発掘調査は予想以上の成果をあげて終わり、ここに報告書の刊行をみる事ができた。

縄文時代晩期末葉の遺跡は遺物はあっても遺構がないとされていたはわけであるが、今回の調査はそれを破るものとなった。確認された遺構は住居址1軒、炉址1基、ロームマウンド4基、土壇262基である。土壇群の多さは縄文時代中期をさえしのぐ感がある。とりわけ住居址は県下初の発見であり貴重な資料となった。さらに遺跡の東域からは黒色土層より多量の遺物が出土し、炉址との関連から平地住居の可能性も考えられる。

出土土器は氷式に比定されるが、その組成は異なるものがある。東海地方の条痕文器群の共伴関係も明確にされたわけで、伊那谷における標識遺跡として良いであろう。

調査終了後、半年と限られた整理作業のため、十分とはいかなくても基礎的資料の報告だけは行ったつもりである。

今後これをもとに深い検討を重ねて行きたいと念じております。

調査期間中から整理作業にかけて多くの皆さまからとりわけ、永峰光一氏・高橋桂氏・神村透氏・関浩一氏・笹沢浩氏からは土器についてご教示いただきました。ここに記して感謝申し上げます。
(気賀沢 進)

38-う

39

40

41

42

43

44

45

46

レ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

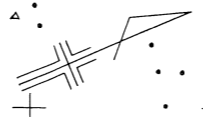
ス

セ

ソ

タ

チ

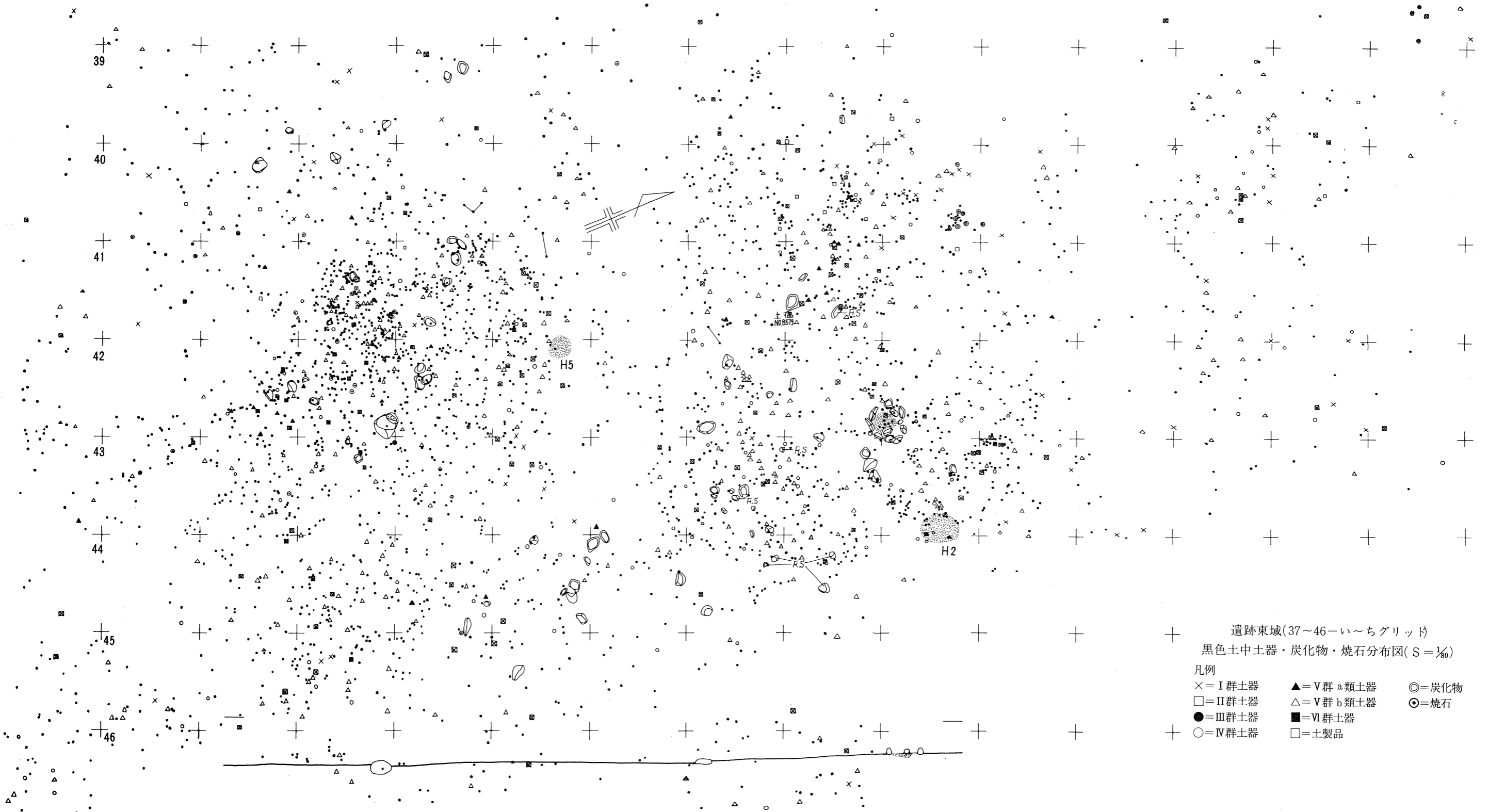


H5

H2

遺跡東域(37~46-い~ちグリッド)
黒色土中土器・炭化物・焼石分布図(S=1/60)

- 凡例
- × = I群土器
 - = II群土器
 - = III群土器
 - = IV群土器
 - ▲ = V群 a類土器
 - △ = V群 b類土器
 - = VI群土器
 - = 土製品
 - ◎ = 炭化物
 - ⊙ = 焼石



石剣
NO.2657

38-う

39

40

41

42

43

44

45

46

石剣
NO.1900

石剣
NO.5872

石剣
NO.4033

石剣
NO.2830

有孔磨製石剣
NO.4391

H5

H2

遺跡東域(37~46-い~ちグリッド)
黒色土中石器・石製品分布図(S=1/100)

凡例

- =打製石器
- =剥片石器
- ▲=磨製石器
- △=すり石
- =敲打器
- =打製石礫
- =黒耀石搔器
- △=黒耀石石核
- =黒耀石剥片
- =石製品

土坑 1 出土土器一覽表 (細片、剥片は省いてある)

番 号	種類・形態その他	層 位	番 号	種類・形態その他	層 位	番 号	種類・形態その他	層 位
1	Ⅲ-深-胴-無文		99	Ⅲ-深-胴-一条線				
2	◇ 一条線 +沈線		104	◇ 無文				
			105	Ⅲ-深-胴-一条線				
3	Ⅲ-深-底-無欠		108	◇ 無文				
4・5	Ⅲ-深-胴-擦痕		114	◇				
6	◇ 一条線		115	◇				
7	◇ 無文		116	◇ 一条線				
8	◇		117	Ⅲ-深-口-溝				
9	横刃形石器-硬砂岩		118	Ⅵ-深-胴-一条痕				
10	Va-深-胴-一条痕		119	◇ -口外帯 +溝				
11	Ⅲ-深-頸-溝							
12	Ⅲ-深-胴-無文		120	Ⅲ-深-頸-一条線				
13	Ⅲ-深-底-木葉		122	Ⅲ-深-胴-無文				
15			126	◇ 一擦痕				
16			127	◇				
17	Ⅲ-深-胴-一条線		132	Ⅲ-深-底-無文				
19	◇		134	Ⅲ-深-胴-擦痕				
20	Ⅲ-深-口(内湾) -無文		136	◇ 無文				
			137	◇				
22	Ⅲ-深-胴-擦痕		139	◇				
49	Va-深-胴-一条痕		141	◇ 一条線				
52	Ⅲ-深-口-無文		142	◇ 無文				
58	Ⅲ-深-胴-無文		150	◇ 一擦痕				
61	Ⅵ-深-胴-一条線		151	◇ 一沈線				
64	Ⅲ-深-胴-無文		152	Ⅲ-浅-底				
71	◇		153	Ⅲ-深-胴-一条線				
81	◇		156	◇ 無文				
82	Ⅳ-深-胴-沈線		160	◇ 一条線				
87	Ⅲ-深-胴-擦痕		167	◇				
91	◇		171	◇				
92	◇		172	◇ 無文				
93	Ⅲ-深-頸-無文		173	◇				
94	Ⅲ-深-胴-無文							
95	◇							
96	Ⅲ-深-口-溝							

各遺構出土遺物一覧表

出土地	番号	名称・形態・その他	出土地	番号	名称・形態・その他	出土地	番号	名称・形態・その他
土 2	7976	黒耀石チップ	土 14	4004	Ⅲ-深-胴-一条線	土 21	1936	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7977	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4005	〃	〃	1937	〃
〃	7978	黒耀石チップ	〃	4006	Ⅲ-深-胴-無文	〃	1938	Va-深-胴-一条痕
土 4	7972	黒耀チップ	〃	4007	黒耀石チップ	土 22	2259	Va-深-胴-一条痕
〃	7975	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	4008	Ⅲ-深-胴-無文	土 23	611	Ⅵ-深-胴-一条痕
土 7	819	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4009	炭化物クルミ殻	〃	617	Ⅲ-深-胴-無文
〃	820	〃	〃	4010	土製円板-Ⅲ-深-胴-一条線	〃	648	〃
土 10	620	打製石斧-頭欠- 撓-硬砂岩	〃	4014	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	649	〃
土 11	801	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4015	Ⅲ-深-胴-無文	〃	706	〃
〃	1288	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4016	〃 一条線	〃	707	〃
土 12	2138	Va-深-胴-一条痕	〃	827	Ⅲ-深-無文	〃	708	〃 一条線
〃	2139	土製円板-深-胴	〃	882	〃	〃	709	Va-深-胴-一条痕
〃	2140	Ⅲ-深-胴-無文	〃	2120	Vb-深-胴-一条痕	〃	710	Ⅲ-深-胴-無文
〃	2141	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	2123	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	712	〃
〃	2142	黒耀石チップ	〃	2126	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	714	〃
土 13	644	Ⅲ-胴-無文	〃	2127	〃	〃	721	〃 一条線
〃	704	〃	〃	3547	Va-深-胴-一条痕	〃	722	〃
〃	732	〃	〃	3548	Ⅲ-深-胴-縄文	〃	726	〃 一無文
〃	733	〃	〃	3549	Ⅳa-深-胴-一条痕	〃	727	〃
〃	734	磨石破片-硬砂岩	〃	3550	Ⅲ-深-胴-無文	〃	754	Ⅲ-深-口-口外帯
土 14	2529	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4771	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	755	〃
〃	2532	Va-深-胴-一条痕	〃	4772	Ⅲ-深-胴-無文	〃	760	打製石斧-頭欠- 短冊-硬砂岩
〃	2826	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4773	Va-深-口(外傾)	〃	762	〃
〃	3912	黒耀石チップ	〃		一条痕	〃	802	Ⅲ-深-胴-無文
〃	3913	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4774	Ⅳa-深-胴-一条痕	〃	803	Ⅵ-深-胴-綾杉文
〃	3914	〃	〃	4963	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	821	Ⅲ-深-胴-無文
〃	3915	〃	土 15	798	Ⅲ-深-胴-無文	〃	822	〃 一条線
〃	3916	〃	土 16	643	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	898	〃 一無文
〃	3918	Ⅲ-浅-口(外傾) -沈線	土 17	621	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	899	〃
〃	3919	黒耀石チップ	〃	796	〃	〃	900	〃 一条線
〃	3920	〃	土 18	7956	Ⅲ-深-胴-無文	〃	901	〃 一無文
〃	4001	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	7957	Ⅲ-深-底-無文	〃	902	Ⅵ-口-流水文
〃	4002	Ⅲ-深-胴-一条線	土 21	1786	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線	土 24	612	Ⅲ-深-胴-無文
						〃	619	〃

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 24	823	Ⅲ-深-胴-無文	土 26	1990	Ⅲ-浅-胴-沈線	土 35	5028	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	824	〃 一条線	〃	1991	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5029	Ⅲ-深-胴-無文
〃	839	〃 一無文	〃	1993	〃	〃	5077	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	841	〃	〃	2117	横刃形石器-硬砂岩	土 36	4749	Ⅲ-深-胴-無文
〃	842	〃	〃	2118	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4750	〃
〃	878	〃	〃	4565	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4751	Ⅲ-深-口(外傾) -沈線
〃	879	〃	〃	4597	Ⅲ-浅-口(外傾) -口外帯+網状浮線文	〃	4829	Ⅲ-深-胴-無文
〃	4201	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4629		〃	4830	打製石斧-頭欠- 短冊-凝灰岩
〃	4202	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4630	Va-深-胴-一条痕	〃	4831	Ⅲ-深-胴-擦痕
〃	4203	〃	〃	4631	〃	〃	4901	Ⅲ-深-胴-無文
〃	4204	〃 一無文	〃	4632	〃	〃	4902	〃
〃	4205	Ⅲ-浅-底-無文	〃	4633	黒耀石搔器	〃	5074	Ⅳ-深-胴-一条線
〃	4207	Ⅲ-深-胴-縄文	〃	4635	Va-深-胴-一条痕	〃	5075	〃 +沈線
〃	4208	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	4636	〃	〃	5076	Ⅲ-深-胴-擦痕
〃	4209	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4637	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5091	Ⅲ-浅-口(外傾) -沈線
〃	4324	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4638	Va-壺-口() -	〃	5092	
〃	4325	Ⅲ-深-口(直) - 沈線	〃	4639	Ⅵ-深-口(外反) -一条痕	〃	5093	Ⅲ-深-胴 条線+平行沈線
〃	4367	Ⅲ-深-底-一条線	〃	4640	Va-深-胴-一条痕	土 37	837	Ⅲ-深-胴-無文
〃	4368	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	4642	Ⅲ-深-胴-無文	土 40	4757	Ⅲ-口(外傾)-口外帯 +沈線
〃	5037	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4643	Va-深-胴-無文	〃	4903	〃
〃	5038	土製円板-Ⅲ-深-胴 -無文	〃	4644	Vb-深-口(直)-一条痕	〃	4904	〃
〃	5039	Ⅲ-深-口(外傾) 沈線	土 27	1784	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4906	Vb-深-胴-一条痕
〃	5040	Vb-深-胴-一条痕	〃	1988	Ⅲ-深-胴-縄文	〃	4908	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5041	〃	土 32	4628	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4909	〃
〃	5079	Ⅲ-深-胴-無文	土 34	4754	Ⅲ-深-胴-無文	土 41	1994	土-Ⅲ-深-胴-無文
〃	5080	〃	〃	4755	〃	土 42	650	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5081	〃	〃	4756	〃	〃	651	〃
〃	5082	Ⅳ-深-胴-沈線	土 35	4967	Ⅲ-深-胴-無文	〃	828	〃
〃	5094	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4968	Vb-深-胴-一条痕	〃	829	〃
〃	5095	〃	〃	4969	Ⅲ-深-胴-無文	〃	830	〃
〃	5097	Ⅲ-深-底-無文	〃	4971	〃			
〃	5098	Ⅲ-深-胴-無文						

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 42	880	Ⅲ-深-胴-無文	土 45	4562	Ⅲ-深-胴-無文	土 48	1960	Va-深-胴-一条痕
〃	4362	〃	〃	4627	Va-深-胴-一条痕	〃	1983	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	4769	炭化物-クルミ	土 46	1890	Va-深-胴-一条痕	〃	1984	Ⅲ-浅-胴-無文
土 43	1788	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4395	磨石破片・花崗岩	〃	1985	Ⅲ-深-胴-網代
〃	1792	〃	〃	4396	Va-深-胴-一条痕	〃	1992	〃
〃	1932	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	4400	Ⅲ-深-胴-無文	〃	2044	打製石斧-完-短 冊-線泥片岩
土 45	1878	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5728	〃	〃	2045	Ⅲ-深-底 -木葉底
〃	1879	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	5736	土製円板-Ⅲ-深-胴 -無文	〃	2046	Vb-深-胴-一条痕
〃	1880	Ⅲ-深-頸-無文	〃	5738	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	2047	Ⅲ-深-底-無文
〃	1882	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5739	〃	〃	2113	Ⅲ-深-胴-無文
〃	1884	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	5740	Ⅲ-深-胴-無文	〃	2114	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	1885	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5742	Ⅲ-深-口(外傾) -無文	〃	2249	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	1886	Ⅲ-浅-口(外傾) 内外沈線	〃	5742	Ⅲ-深-口(外傾) -無文	〃	2250	〃
〃	1887	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	5785	Ⅲ-深-胴-一条痕	〃	2261	〃
〃	1888	Va-深-胴-一条痕	〃	5786	Va-深-胴-一条痕	〃	2677	Ⅳ-深-胴-無文
〃	1931	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	5791	Ⅲ-浅-口(外反) -網状浮線文	〃	2678	Ⅲ-深-胴 条線+沈線
〃	1963	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5792	Va-深-胴-一条痕	〃	2679	Ⅲ-浅-底-無文
〃	2110	Ⅲ-深-胴- 条線+沈線	〃	5850	Ⅲ-深-胴-無文	〃	3992	Vb-深-胴-一条痕
〃	2111	- I ?	〃	5851	〃	〃	3993	Ⅳ-深-胴-一条線
〃	4441	Va-深-胴-一条痕	〃	5856	〃	〃	3994	〃
〃	4442	〃	〃	5861	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	3995	Ⅲ-深-胴-擦痕
〃	4444	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	5866	〃	〃	3996	〃
〃	4445	Ⅲ-深-胴-無文	土 47	4759	Ⅲ-深-底-無文	〃	3998	横刃形石器 硬砂岩
〃	4464	〃	〃	4760	Ⅲ-深-胴-無文	〃	3999	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	4467	Ⅲ-深-胴- 縄文+沈線	〃	4761	Ⅲ-深-底-無文	〃	4000	Ⅲ-深-胴-沈線
〃	4468	Ⅲ-深-胴-沈線	〃	4762	Ⅲ-深-胴-擦糸	〃	4141	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	4469	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4763	Ⅲ-深-胴-無文	〃	4142	〃
〃	4470	〃	〃	4764	〃	〃	4143	〃
〃	4471	Va-深-胴-一条痕	土 48	1933	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線	〃	4144	Ⅳ-深-胴 縄文+沈線
〃	4472	Ⅲ-深-胴-無文	〃	1934	〃	〃	4219	Ⅲ-胴-一条線
〃	4560	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	1934	〃	〃		
〃	4561	土製円板-Va-深-胴-一条痕	〃	1939	Ⅲ-深-底-無文	〃		

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 48	4220	Ⅲ－深－胴－条線	土 49	5078	Ⅲ－深－胴－無文	土 63	4752	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4221	◇	◇	5189	◇	◇	4765	◇
◇	4222	◇	土 50	4911	Ⅲ－深－胴－無文	土 64	5411	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4223	Ⅲ－深－底－無文	土 51	7755		◇	5412	黒耀石搔器
◇	4224	Ⅲ－深－胴－無文	土 52	7740	Ⅲ－深－口(外反)胴中央	◇	5414	Vb－深－胴－条痕
◇	4225	◇			－擦痕	◇	5418	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4353	◇	土 53	4361	Ⅲ－深－胴－無文	◇	5421	◇
◇	4354	◇	◇	4369	◇	◇	5450	◇
◇	4355	Vb－深－胴－条痕	土 54	4210	Ⅲ－深－口－沈線	◇	5504	黒耀石搔器
◇	4356	土製円板－Ⅲ－深	◇	4211	Ⅲ－深－胴－無文	◇	5510	Ⅲ－深－口－沈線
		－胴－無文	◇	4212	◇	◇	5601	Ⅲ－浅－口(直)－
◇	4358	◇	土 55	4224	Ⅲ－深－胴－無文			網状浮線文
◇	4359	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	4225	Ⅲ－深－胴－条線	◇	5602	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4360	Ⅲ－深－胴	◇	4411	Vb－深－胴－条痕	◇	5603	◇
		－縄文＋沈線	◇	4412	◇	◇	5670	Ⅲ－深－胴－擦痕
◇	4401	Ⅲ－深－胴－無文	◇	4459	Ⅲ－深－胴－条線	土 65	5030	土錘－Ⅲ－深
◇	4402	◇	土 56	2133	Ⅲ－浅－胴－無文			－胴－無文
◇	4403	Vb－壺－胴－条痕	◇	2134	Va－深－胴－条痕	◇	5032	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4404	◇ (4527と接合)	◇	2136	◇	◇	5033	◇
◇	4405	Ⅲ－深－胴－条線	◇	4428	◇	土 66	4912	Ⅲ－深－胴－無文
◇	4406	Vb－壺－胴－条痕	◇	4775	◇	◇	4913	◇
◇	4407	◇	◇	4776	Ⅲ－深－胴－無文	◇	4974	I－深－口(中期初)
◇	4557	Ⅲ－深－胴－無文	◇	4777	◇	◇	4975	Ⅲ－深－胴頸－擦紋
土 49	1789	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	4778	◇	◇	4981	Ⅲ－深－胴－無文
◇	1791		土 57	4527	Va－壺－底欠－指頭＋条痕	◇	5190	Ⅲ－深－胴－条線
◇	1957	Ⅲ－深－底－条線	土 60	4572	Ⅲ－深－胴－無文(6061と接合)			＋沈線
◇	1959		◇	4624		◇	5191	Ⅲ－深－胴－条線
◇	1982	Ⅲ－深－胴－条線	◇	4625	Ⅲ－深－胴－無文	◇	5192	
◇	2020	Ⅲ－深－口(外傾)	◇	4626	◇	◇	5194	Ⅲ－深－胴－縄文
		－無文	土 61	4753	Ⅲ－深－胴－条線＋	◇	5195	Ⅲ－深－胴－無文
◇	2246	Ⅲ－深－胴－縄文			沈線	◇	5269	Ⅲ－深－胴－縄文
◇	2247	◇	◇	4966	Ⅲ－深－胴－無文			＋沈線
◇	2260	Va－深－胴－条痕	◇	5419	Ⅲ－浅－口頸(内湾)	◇	5270	◇
◇	4964	Ⅲ－浅－口(外傾)			口外帯＋網状浮線文	◇	5271	Ⅲ－深－胴－擦痕
		網状浮線文	土 62	4900	Ⅲ－深－胴－無文	◇	5272	Ⅲ－浅－口(直)－沈線

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 67	4972	Ⅲ-深-胴-無文	土 72	5102	Ⅲ-深-口-擦痕	土 75	6981	一深-胴-刺突
◇	4976	◇	◇	5407	Ⅲ-深-胴-無文	◇	6982	Ⅲ-深-胴-無文
◇	4977	◇	◇	5408	◇	◇	6983	◇
◇	4978	◇	◇	5409	◇	◇	7236	◇
◇	4979	Ⅲ-浅-胴-無文	◇	5410	Vb-深-胴-条痕	◇	7237	Ⅲ-深-胴-条線 +沈線
◇	4980	◇	◇	5422	Ⅲ-深-胴-無文			
◇	5087	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5787	◇	◇	7238	Ⅲ-深-胴-擦痕
◇	5181	Ⅲ-浅-口(外傾) 口外帯+沈線	◇	5788	◇	◇	7239	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文
			◇	5996	Va-深-胴-条痕			
◇	5183	Ⅲ-深-底-無文	◇	5997	Vb-深-胴-条痕	◇	7240	Ⅲ-深-胴-条線 +沈線
◇	5184	土製円板-破片-無文	◇	5999	打製石斧-頭欠-撓 -緑泥岩			
◇	5263	Ⅲ-深-胴-無文				◇	7244	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5264	◇	◇	6031	Ⅲ-浅-口(内湾)-無文	◇	7245	土製円板-Ⅲ-深-胴
◇	5265	Ⅲ-深-胴-条線 +沈線	◇	6032	Ⅲ-浅-口(外傾)-無文	◇		-擦痕
			◇	6033	◇	◇	7276	Ⅲ-浅-胴-無文
◇	5266	Ⅲ-浅-口(内湾)- 網状浮線文	◇	6034	Ⅲ-深-胴-無文	◇	7248	Ⅱ-深-胴-凸帯文に 刻目
			◇	6035	Ⅲ-浅-胴- 網状浮線文			
◇	5267	Ⅲ-深-胴-無文				土 76	6050	Ⅲ-深-胴-無文
土 68	4965	Va-深-胴-条痕	◇	6037	Ⅲ-浅-胴-無文	◇	6051	Ⅲ-浅-胴-無文
土 69	4960	Va-深-胴-条痕	◇	6040	◇	◇	6052	Ⅲ-深-胴-無文
◇	4962	◇	◇	6041	◇	◇	6053	◇
土 70	5021		◇	6043	◇	◇	6054	◇
			◇	6045	◇	◇	6055	◇
◇	5022	Ⅲ-深-口(外傾) -無文	◇	5187	Ⅲ-深-胴-無文	◇	6056	
			◇	5188	Vb-深-胴-条痕	◇	6057	Ⅲ-深-胴-縄文
◇	5024	Ⅲ-深-口(外傾) 沈線	土 74	5600	Ⅲ-深-胴-無文	◇	6058	Ⅲ-深-胴-条線
			◇	6047	◇	◇	6059	Ⅲ-深-口(外傾) -沈線+条線
◇	5025	Vb-深-胴-条痕	◇	6048	◇	◇	6060	Ⅲ-深-胴-条線
◇	5026	Ⅲ-深-胴-沈線	◇	6049	◇	◇	6005	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5030	◇	◇	7275	◇	◇	6007	
◇	5083	◇	土 75	6977	Ⅲ-深-口(外傾) -口外帯	◇	6111	
◇	5085	Ⅲ-浅-口(内湾) -沈線+網状浮線文	◇	6978	Ⅲ-深-胴-無文			
◇	5086		◇	6979	◇	◇	6112	Ⅲ-深-胴-条線
◇	5187	Ⅲ-浅-口(外傾)-無文	◇	6980	Ⅲ-深-胴-条線	◇	6164	I-深-胴-縄文+沈線

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 76	6266	Ⅲ-深-胴-無文	土 84	6578		土 98	6922	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6267	Ⅲ-深-胴-一条線	土 87	6579	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7388	Ⅲ-深-胴-擦痕
〃	6268	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線	土 88	6636	Ⅲ-浅-胴-無文	土 104	6923	Vb-深-胴-一条痕
〃			6269	I-深-口(外反) -平行沈線	土 90	7954	Ⅲ-深-胴-無文	土 105
〃	6497	土製円板-Ⅲ-深 -胴-撚糸文	〃	7955	横刃形石器- 硬砂岩	〃	6908	Vb-深-胴-一条痕
〃			6492	6650	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6909	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6498	I-深-胴- 縄文+平行沈線	土 93	6489	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6910	Ⅲ-浅-胴-無文
〃			6490	6490	石礮-黒耀石	〃	6911	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6522	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6491	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6912	〃
〃			6537	〃	〃	6599	〃	7341
〃	6538	〃	〃	6635	〃	〃	7342	Ⅲ-深-底
〃	6539	Ⅲ-深-胴-一条線	土 94	6602	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7343	石礮-茎少し欠- チャート
〃	6540	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6603	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7344	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	6541	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7490	打製石斧-頭欠- 短冊-硬砂岩	〃	7345	
〃	6609	〃	土 95	6598	Vb-深-胴-一条痕	〃	7346	打製石斧-破片 -硬砂岩
〃	6610	Ⅲ-深-胴-無文 }	〃	6601	Ⅲ-深-胴-一条線	土 106	6900	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6614		〃	6637	Vb-深-胴-一条痕	〃	6901	搔器-黒耀石
〃	6615	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6651	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線	〃	7242	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	6616		〃	6914	Ⅲ-浅-胴- 網状浮線文	〃	7243	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6902		〃	6915	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7350	〃
〃	6903		〃	6915	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7380	〃
〃	6904		土 97	6639	Va-深-胴-一条痕	〃	7390	Ⅲ-深-胴-沈線
〃	6905	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6645	Ⅲ-深-口(外傾) -沈線	〃	7391	Va-深-胴-一条痕
土 77	6151	Ⅲ-深-胴-無文	〃			〃	7392	Ⅲ-深-胴-無文
〃	6152	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	6646	Ⅲ-深-底	〃	7393	土製円板-Ⅲ-深 -胴-沈線
〃	6201	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	6647	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7396	石礮-脚欠- 黒耀石
土 80	6542	Ⅲ-浅-口(内湾)	〃	6648	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	7398	Ⅲ-深-胴-無文
土 81	6604	搔器-黒耀石	〃	6649	〃	〃	7399	〃
土 83	6581	Ⅲ-深-胴-無文	土 98	6920	土製円板-Ⅲ-深- 胴-擦痕	〃	7400	〃
土 84	6487	I-深-胴-竹管文	〃	6921	Ⅲ-深-口(外傾) -沈線	〃	7423	〃
〃	6488	Ⅲ-深-胴-無文						
〃	6577							

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 106	7454	土製円板-Va-深- 胴一条痕	土 112	72	Ⅲ-深-胴一条線	土 112	7328	Ⅲ-浅-胴-無文
			〃	72	〃	〃	7329	Ⅲ-深-胴一条線
〃	7455	Ⅲ-深-胴-無文	〃	72	〃	〃	7330	Ⅲ-深-底-網代
〃	7466	土製円板-Ⅲ-深- 胴-無文	〃	72	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7331	Ⅲ-浅-口(直)-口 外帯+網状浮線文
			〃	72	Ⅲ-深-胴一条線			
〃	7497	Ⅲ-深-胴-無文	〃	72	〃	〃	7332	Ⅲ-深-底-
〃	7501	Vb-深-胴一条痕	〃	72	〃	〃	7333	Ⅲ-浅-胴-無文
土 109	6916	Ⅲ-深-胴-無文	〃	72	Ⅲ-深-口(外傾) -擦痕	〃	7354	Ⅲ-深-胴-無文
土 110	6917	Ⅲ-深-胴-無文				〃	7355	Ⅲ-浅-口(内湾) 網状浮線文
〃	6918	〃	〃	72	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7357	Ⅲ-深-胴一条線
〃	7297	〃	〃	72	〃	〃	7404	Va-深-底-
〃	7298	Ⅲ-深-胴一条線	〃	73	〃	〃	7405	Vb-深-胴-無文
〃	7300	Ⅲ-深-胴-無文	〃	73	〃	〃	7406	Ⅲ-深-胴一条線
〃	7301	〃	〃	73	Va-深-胴一条痕	〃	7407	〃
〃	7302	〃	〃	73	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7408	Vb-深-胴一条痕
土 111	7491	打製石斧-刃欠- 短冊-硬砂岩	〃	73	Va-深-胴一条痕	〃	7409	〃
			〃	73	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7410	Ⅲ-深-口(外傾)- 口外帯+溝
	7492	土製円板-Ⅲ-深- 胴-無文	〃	73	Ⅲ-深-口(外傾)- 溝	〃	7411	Ⅳ-深-口(外傾) -沈線
土 112	7208	Ⅲ-深-胴-無文	〃	73	Ⅲ-深-胴-沈線	〃	7412	Ⅲ-深-胴-無文
						〃	7413	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7209	Vb-深-胴一条線	〃	73	Ⅲ-浅-胴-網状 浮線文	〃	7414	Ⅲ-深-胴一条線
〃	7235	Ⅲ-深-胴-無文	〃	73	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	7443	Vb-深-胴一条痕
〃	7247	Vb-深-口(直)一条痕	〃	73	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7412	Ⅲ-深-底-網代
〃	7248	Ⅲ-深-胴-無線	〃	73	〃	〃	7213	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7249	Ⅲ-深-口(外傾) -溝	〃	73	Ⅲ-浅-口(外傾) -無文	土 113	7218	〃
			〃	73	Ⅲ-浅-口(外傾) -無文	〃	7365	打製石斧-刃のみ -硬砂岩
〃	7253	Ⅲ-深-胴-無文	〃	73	土錘-Ⅲ-浅-胴- 網状浮線文	〃	7367	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7264	Ⅲ-深-胴一条線	〃	73	Ⅲ-浅-胴-網状 浮線文	〃	7369	土製円板-Ⅲ-深- -胴一条線
〃	7265	〃	〃	73	Ⅲ-深-口(直)- 口外帯+溝	〃	7373	Ⅲ-深-口(外傾) -無文
〃	7266	Ⅲ-深-胴-無文	〃	73	Ⅲ-浅-口(内湾)- 網状浮線文	〃		
〃	7269	Ⅲ-深-口(外傾)- 網状浮線文	〃	73	Ⅲ-深-口(直)- 口外帯+溝	〃		
〃	7277	Va-深-胴一条痕	〃	73	Ⅲ-浅-口(内湾)- 網状浮線文	〃		
〃	7278	Ⅲ-深-胴一条線	〃	73	Ⅲ-浅-口(内湾)- 網状浮線文	〃		
〃	7279	〃	〃	73	Ⅲ-浅-口(内湾)- 網状浮線文	〃		

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他			
土 113	7418	Vb-深-胴-条痕	土 114	7260	Ⅲ-深-胴-無文	土 115	7527	Ⅲ-浅-胴-無文			
〃	7444	〃	〃	7261	〃	〃	7528	〃			
〃	7445	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7270	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7529	Ⅲ-浅-胴-溝			
〃	7446	〃	〃	7271	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7552	〃			
〃	7447	〃	〃	7292	Va-深-胴-条痕	〃	7554	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7448	Vb-深-胴-無文	〃	7318	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7578	敲打器-硬砂岩			
〃	7449	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7319	Ⅲ-深-底-網代	〃	7580	Ⅲ-深-胴-擦痕			
〃	7450	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7320	Ⅲ-深-下底部-条線 +ジクザグ文7339と 接合	〃	7581	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7451	Va-深-胴-条痕				〃	7584	Ⅳ-深-胴-沈線			
〃	7453	Ⅲ-深-胴-条線				〃	7609	Ⅲ-浅-胴-無文			
〃	7459	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文	〃	7321	土製円板-Ⅲ-深-胴- -無文	〃	7624	Ⅲ-深-頸胴- 擦痕 7632と接合			
〃	7460	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7322	Va-深-胴-条痕		〃	7632	7624と接合		
〃	7461	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文	〃	7334	Ⅲ-深-胴-無文		〃	7646	Ⅲ-深-胴-無文		
〃	7462	〃	〃	7336	〃	〃	7646	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7463	〃	〃	7337	搔器-黒耀石	土 116	7274	Vb-深-胴-擦痕			
〃	7464	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7339	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7382	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7477	Ⅲ-深-頸-擦文	〃	7340	土製円板-深-胴- 擦痕	〃	7389	Ⅲ-浅-口(外傾) 網状浮線文			
〃	7478	Ⅳ-深-口(外傾)- 沈線				〃	7358	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7394	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7479	Ⅲ-深-胴-無文				〃	7359	〃	〃	7395	〃
土 114	7216	Vb-深-胴-条痕	〃	7360	〃	土 117	7303	Ⅳ-深-胴-無文			
〃	7219	Ⅲ-深-胴-条線	土 115	7228	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文	土 120	7401	Va-深-胴-条痕			
〃	7220	Ⅲ-深-胴-無文				〃	7402	Ⅲ-深-口(直) -溝			
〃	7221	〃				〃	7403	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7222	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7230	Va-深-胴-条痕	土 121	7347	Ⅲ-深-胴-条線			
〃	7223	Va-深-胴-条痕	〃	7231	Ⅲ-深-口(外傾) -溝	〃	7429	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7224	〃	〃	7232	Ⅲ-深-胴-無文	土 124	7353	Va-深-胴-条痕			
〃	7225	Ⅲ-深-胴-無文				〃	7381	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7256	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文				〃	7425	Vb-深-胴-条痕			
〃	7256	〃	〃	7263	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7426	〃			
〃	7257	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7523	〃	〃	7427	〃			
〃	7258	〃	〃	7524	〃	〃	7493	〃			
〃	7259	〃	〃	7526	Ⅲ-深-口(内湾)-無文						

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 125	7351	Ⅲ－深－胴－無文	土 138	7507	Ⅲ－深－胴－一条線	土 147	7521	Ⅲ－浅－胴－無文
◇	7352	◇	◇	7517	◇		7522	◇
◇	7363	◇	土 139	7470	Ⅲ－深－胴－縄文	土 148	7556	Ⅲ－深－胴－無文
◇	7364	土製円板－Ⅲ－深－ 胴－擦痕	◇	7483		土 149	7514	土製円板－Ⅲ－深 －胴－無文
			◇	7498	Ⅲ－浅－胴－無文			
土 126	7430	Ⅲ－深－胴－無文	◇	7499	Ⅲ－深－胴－擦糸文	◇	7532	Ⅲ－深－胴－無文
◇	7431	Va－深－胴－一条痕	◇	7500	◇	◇	7533	◇
◇	7432	Vb－◇	◇	7503	◇	◇	7534	Ⅲ－浅－胴－無文
◇	7434	土製円板－Ⅲ－胴－ 網状浮線文	◇	7504	◇	◇	7535	Ⅲ－深－胴－一条線
◇	7435	Ⅲ－浅－胴－沈線	◇	7505	◇	◇	7536	打製石斧－刃欠－ 分胴－砂岩
◇	7437	Ⅲ－深－胴－無文	◇	7511	◇	◇	7539	Vb－深－胴－一条痕
◇	7438	Ⅲ－深－底－網代	◇	7516	◇	◇	7540	◇－無文
◇	7439	Ⅲ－深－胴－溝	土 140	7471	Ⅲ－深－胴－縄文＋ 隆帯	◇	7548	Ⅲ－浅－胴－無文
土 127	7383	Ⅲ－深－胴－無文				◇	7549	◇
◇	7384		◇	7537	Ⅲ－深－胴－擦糸文	◇	7550	Ⅲ－深－胴－無文
◇	7385	Ⅲ－浅－胴－網状 浮線文	◇	7538	Ⅲ－深－胴－無文	◇	7551	Ⅲ－深－胴－一条線
◇	7386	Ⅲ－深－胴－縄文	◇	7546	7537と接合	土 150	7544	磨り石－破片－砂岩
			◇	7547	◇	土 151	7543	Vb－深－胴－一条痕
131 31	7374	Ⅲ－浅－胴－無文	土 141	7472	Ⅲ－深－胴－無文	土 153	7588	Ⅲ－深－胴－無文
土 132	7375	Vb－深－胴－一条痕	◇	7473	◇	土 155	7561	Ⅲ－深－底
◇	7376	Va－深－胴－一条痕	土 142	7474	Ⅲ－深－胴－擦痕	◇	7715	Ⅲ－深－胴－無文
◇	7377	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	7475	Ⅲ－深－胴－無文	土 156	7949	土製円板－Vb－深 －一条痕
◇	7457	Ⅲ－深－胴－無文	◇	7476	◇			
◇	7458	◇	◇	7542	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	7951	Ⅲ－深－口(外傾) －溝
土 135	7420	Ⅲ－深－胴－擦痕	土 143	7555	石礫－黒耀石			
◇	7421	Vb－深－口(直)－口 唇－指頭圧痕	土 145	7494	Ⅲ－深－口(内傾) －無文	土 161	7575	Va－深－胴－一条痕
						+ 163	7568	炭化物－トチの実
土 136	7441	Ⅲ－深－胴－無文	土 146	7512	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	7569	Va－深－胴－一条痕
◇	7468	土製円板－Ⅲ－深 －胴－無文	◇	7518	土製円板－Ⅲ－深－ 胴－無文	土 165	7571	Ⅲ
						◇	7572	
土 138	7456	Ⅲ－深－胴－無文	◇	7519	Ⅲ－浅－胴－無文	◇	7576	Ⅲ－深－胴－擦糸文 ＋沈線
◇	7469	◇	◇	7520	◇			
◇	7481	Va－深－胴－一条痕	◇	7557	Ⅲ－深－胴－一条線	◇	7585	土製円板－Ⅲ－深－ 胴－無文
◇	7482	◇	◇	7558	Ⅲ－深－胴－無文			

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 165	7603	Vb-深-胴-条痕	土 169	7690	Ⅲ-深-胴-無文	土 188	7716	Va-深-胴-条痕
〃	7604	Ⅲ-浅-胴-網状 浮線文	〃	7691	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7723	Ⅲ-深-胴-擦糸文
〃	7678	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7693	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7724	Vb-深-胴-条痕
〃	7680	〃	〃	7694	〃	〃	7725	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7681	〃	土 170	7614	Ⅲ-深-胴-擦糸文	〃	7726	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線
〃	7682	〃	土 174	7621	〃	〃	7727	Va-深-胴-条痕
土 166	7564	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7648	Ⅲ-浅-胴-無文	土 190	7696	Ⅲ-深-底-網代
〃	7669	炭化物-トチの実	土 175	7649	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7697	土製円板-Va-深- -胴-条痕
〃	7670	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7650	〃	〃	7698	Ⅲ-深-胴-条線 +沈線
〃	7671	〃	〃	7651	Ⅲ-浅-胴-網状 浮線文	〃	7701	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7672	〃	土 178	7626	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	7816	Ⅲ-浅-胴-無文
土 167	7574	Ⅲ-深-胴-条線	〃	7627	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7817	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7577	〃	〃	7673	〃	〃	7848	石鏃-一部欠- 黒耀石
〃	7583	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7674	Ⅲ-深-底-網代	〃	7849	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7592	Vb-深-胴-条痕	〃	7675	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7854	〃
〃	7593	Ⅲ-深-口頸-擦文	土 179	7636	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7873	Ⅲ-深-胴-条線
〃	7596	Va-深-胴-条痕	〃	7637	Va-深-口(直) -条痕	〃	7889	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7597	〃	〃	7729	Vb-〃	〃	7902	Va-壺-頸-条痕
〃	7605	Ⅲ-浅-胴-無文	土 180	7634	打製石斧-短冊-頭欠 -硬砂岩	〃	7928	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7606	Ⅲ-浅-口(外湾) -無文	土 181	7635	〃	〃	7930	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7607	Ⅲ-浅-口(外傾) 口外帯+溝	〃	7652	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7943	〃
〃	7608	Ⅲ-深-胴-無文	土 182	7652	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7944	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7610	Ⅲ-浅-胴-無文	土 184	7667	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文	〃	7945	Ⅲ-深-口(外傾) -無文
〃	7644	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7668	Vb-深-胴-条痕	〃	7947	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7645	土製円板-Ⅲ-深- -胴-無文	土 186	7655	Ⅲ-深-底-網代	〃	7953	搔器-黒耀石
〃	7712	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7656	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7968	Ⅲ-浅-胴-無文
土 168	7612	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7657	〃	〃	7970	土製円板-Ⅲ-深-胴
土 169	7613	搔器-黒耀石	〃	7664	7651と接合(土175)	〃	7971	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7642	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7710	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7981	〃
〃	7643	〃	〃	7711	Ⅲ-浅-胴-網状-浮線文	〃	7983	Ⅲ-深-胴-条線

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 191	7719	土製円板-Ⅲ-胴 -無文	土 203	7741		土 230	7858	
			〃	7758	Va-深-胴-一条痕	〃	7875	Ⅲ-深-胴-無文
土 192	7721	Ⅲ-深-胴-無文	土 204	7745	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	7876	Vb-深-下底-擦痕
〃	7735	〃	土 205	7746	Ⅲ-深-底-擦痕	〃	7877	Vb-深-胴-一条痕
土 193	7733	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線	〃	7747	Ⅲ-浅-胴-網状 沈線文	〃	7885	Ⅲ-深-胴-一条線
			〃			〃	7886	Vb-深-胴-一条痕
土 195	7739	打製石斧-半折- 硬砂岩	+ 206	7757	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	7887	Vb-深-口(直)-一条痕
			土 208	7764	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	7888	Vb-深-胴-一条痕
土 197	7732	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7765	〃	〃	7893	Ⅲ-深-胴-無文
土 198	7751	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7766	〃	〃	7894	Vb-深-胴-一条痕
			〃	7825	〃	土 212	7839	Vb-深-胴-一条痕
土 199	7827	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線	土 214	7767	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7896	Vb-深-胴-一条痕
			〃	7840	〃	〃	7897	Ⅲ-深-口(外反) -無文
〃	7830	Vb-深-胴-無文	〃	7847	〃	〃		
土 200	7729	V-深-胴-一条痕	土 217	7813	Ⅲ-深-底	〃	7904	Vb-壺-頸-一条痕
〃	7730	Ⅲ-深-胴-撚糸文 +沈線	土2118	7761	Ⅲ-深-口(外傾) -網状浮線文	〃	7905	V _B -深-胴-一条痕
			〃	7731	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7923	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	7734	打製石斧-刃欠- 短冊-硬砂岩	〃	7770	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7924	Vb-深-口(外傾) -一条痕
土 201	7749	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7909	Vb-深-口(外傾) -一条痕	〃	7936	〃
			〃	7910	Vb-深-口(直) -一条痕	〃	7937	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7911	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線	土 219	7759	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7938	Ⅲ-深-胴-一条線
			〃	7763	〃	〃	7940	Vb-深-胴-一条痕
土 202	7742	Ⅲ-深-胴-無文	土 222	7777	Ⅲ-深-胴-一条線	土 231	7915	Ⅲ-深-胴-無文
			〃	7778	Ⅲ-深-胴-撚紋	〃	7916	〃
〃	7743	〃	土 223	7775	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7917	
〃	7744	〃	〃	7776	〃	〃	7918	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7754	-深-胴-縄文	土 226	7891	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7939	Ⅲ-深-胴-縄文
〃	7772	Ⅲ-浅-胴-網状 浮線文	土 228	7838	Ⅲ-深-胴-一条線	土 232	7866	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線
			土 229	7853	Ⅲ-浅-口(外傾)- 網状浮線文	〃	7892	土製円板-Ⅲ-深- 胴-撚糸文
〃	7842	石錘-半折-硬砂岩	〃	7855				
〃	7843	土製円板-深-胴-	〃	7929	Vb-深-胴-一条痕	土 233	7913	
〃	7844		土 230	7856		〃	7914	Vb-深-胴-一条痕
〃	7845	Ⅲ-深-胴-無文	〃	7857	Vb-深-口(直)-一条痕			

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
土 234	7865	Ⅲ-浅-胴-無文	土 248	7993	Ⅲ-深-胴-一条線	土 261	8167	Ⅳ-深-胴-一条線
〃	7868	Ⅲ-深-胴-無文	土 249	7960	Vb-深-口(直)-一条痕	マ 1	4958	Va-深-胴-一条痕
〃	7869	〃	〃	7986	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	4959	炭化物-トチの実
〃	7870	〃	〃	7987	-深-胴-縄文	〃	4961	Vb-深-胴-一条痕
〃	7871	Vb-深-胴-一条痕	〃	8007	Ⅲ-深-口(外反)-	〃	4988	〃
〃	7872	Ⅲ-深-胴-無文			溝	〃	4989	石石鏃-黒耀石
〃	7878	〃	〃	8008	Ⅲ-深-底	〃	4990	Vb-深-胴-一条痕
	}		〃	8012	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	5099	-深-底-木ノ葉
〃	7883	〃	〃	8013	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	5101	-深-胴-無文
〃	7920	〃	〃	8014	Ⅲ-浅-胴-網状	〃	5276	Ⅲ-深-胴-擦痕
土 235	7931	Ⅲ-深-胴-無文			浮線文	〃	5279	Va-深-胴-一条痕
〃	7932	〃	土 251	7961	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5281	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	7935	Ⅲ-深-底	〃	7992	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	5282	Ⅲ-深-胴-無文
〃	7967	Ⅲ-浅-胴-無文	土 253	7963	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	5284	I-深-胴-縄文
土 236	7889	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	7996	Va-深-胴-一条痕	〃	5285	Vb-深-胴-一条痕
〃	7925	〃	〃	8020	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5286	Ⅲ-深-胴-擦痕
土 238	7912	Ⅲ-無文	土 256	8010	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5287	〃
土 239	7926	Ⅲ-無文	〃	8011	〃	〃	5289	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	7927	Ⅲ-浅-胴-溝	土 257	8018	Ⅲ-深-底	〃	5290	Va-深-胴-一条痕
土 241	7997	Vb-深-口(外傾) -無文	〃	8021	土製円板-Ⅲ-浅- 胴-無文	〃	5291	-深-口(直) 口唇に縄文
土 244	8000	Ⅲ-浅-胴-無文	土 258	8015	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5292	Ⅲ-深-胴-無文
土 245	8002	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8022	Vb-深-口(外傾)	〃	5293	〃
〃	8003	凹石-花崗岩			一条痕	〃	5294	Vb-深-胴-一条痕
〃	8004	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8023	Ⅲ-深-口(直)-一条線	〃	5295	Ⅲ-深-胴-一条線
土 246	7995	Ⅲ-深-胴-一条線Ⅲ			+沈線	〃	5296	〃
〃	7998	Va-深-胴-一条痕	〃	8024	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	5298	Vb-深-胴-一条痕
〃	7999	Ⅲ-深-胴-擦痕	〃	8025	〃	〃	5299	土製円板-Ⅲ-深 -胴-無文
〃	8006	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線	〃	8026	Ⅲ-深-胴-縄文	〃	5300	Ⅲ-深-胴-無文
			〃	8028	Ⅲ-深-胴-無文	〃	5301	〃
土 247	7989	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8170	Ⅲ-深-胴-網状	〃	5303	-深-胴-縄文
土 248	7964	Ⅲ-深-胴-無文			浮線文	〃	5305	Ⅲ-深-口(外反) -口唇刻目無文
〃	7965	Ⅲ-深-胴-一条線	土 260	8171	Ⅲ-浅-胴-無文	〃	5306	Ⅲ-深-口(内湾)-擦痕
〃	7966	Ⅲ-深-底	土 261	8166	磨製石斧-破片- 緑泥岩	〃		
〃	7985	Ⅲ-深-胴-無文						

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
マ 1	5307	Vb-深-胴-条痕	マ 1	5437	Ⅲ-深-胴-縄文	マ 1	5579	搔器-黒耀石
◇	5308	Ⅵ-深-胴-綾杉文	◇	5439		◇	5580	+5284と接合
◇	5310	Vb-深-胴-条痕	◇	5440	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5585	Ⅵ-深-口(外傾)- 口唇刻+綾杉文
◇	5311	Ⅵ-深-口-綾杉文	◇	5441	Ⅵ-深-胴-綾杉文 +沈線	◇	5588	Ⅲ-深-口(外反) -無文
◇	5312	打製石斧-刃のみ- 短冊-硬砂岩	◇	5443	Ⅲ-深-胴-無文			
◇	5313	Ⅲ-深-胴-条線	◇	5444	◇	◇	5589	◇
◇	5314	Va-深-胴-条痕	◇	5445	Vb-深-胴-条痕	◇	5597	Ⅲ-深-口-条線
◇	5316	Ⅵ-深-胴-綾杉文	◇	5447	Ⅵ-深-胴-綾杉文 +沈線	◇	5604	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5317	Ⅵ-深-胴-条痕				◇	5605	◇
◇	5318	Ⅵ-深-胴-綾杉文	◇	5448	Va-深-胴-条痕	◇	5606	◇
◇	5319	Ⅲ-深-胴-条痕	◇	5473	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5609	5429と接合
◇	5320	◇	◇	5474	Va-深-胴-条痕	◇	5611	◇
◇	5321	Ⅵ-深-口-沈線	◇	5475	Ⅲ-深-口(外傾) -無文	◇	5615	◇
◇	5322	◇						
◇	5323	Vb-深-胴-条痕	◇	5479	Va-深-胴-条痕	◇	5616	5429と接合
◇	5324	Ⅲ-深-胴-条線	◇	5480	Vb-深-胴-条痕	◇	5618	Vb-深-胴-条痕
◇	5325	Ⅵ-深-胴-沈線	◇	5481	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5619	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5326	Ⅵ-深-胴-綾杉文	◇	5482	◇	◇	5620	Va-深-胴-条痕
◇	5329	◇	◇	5483		◇	5621	Ⅲ-深-胴-条線
◇	5329	◇	◇	5484	Vb-深-胴-条痕	◇	5623	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5330	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5485	Va-深-胴-条痕	◇	5624	Ⅲ-深-胴-条線
◇	5331	Va-深-胴-条痕	◇	5486		◇	5625	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5332		◇	5487	-◇	◇	5626	Ⅲ-深-胴-擦痕
◇	5333	Ⅵ-深-胴-綾杉文	◇	5488	Vb-深-胴-条痕	◇	5627	◇
◇	5334	Ⅲ-深-底	◇	5489	-深-胴-縄文	◇	5629	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5423	Ⅲ-深-胴-条線	◇	5490	Vb-深-胴-条痕	◇	5630	◇
◇	5424	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線	◇	5491	Vb-深-口(直)-条痕	◇	5631	Va-深-胴-条痕
◇	5425	Ⅲ-深-胴-擦痕	◇	5492	Vb-深-胴-条痕	◇	5632	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5427	◇	◇	5493	Ⅲ-深-胴-擦痕	◇	5635	Vb-深-胴-条痕
◇	5428	Ⅵ-深-胴-沈線	◇	5495	Ⅲ-浅-胴-無文	◇	5701	Ⅲ-深-胴-無文
◇	5429	Ⅲ-壺-口(外反) -沈線+隆帯	◇	5496	Va-深-胴-条痕	◇	5703	◇
◇	5441	土製円板-深-胴-無文	◇	5497		◇	5704	◇
			◇	5498	Ⅲ-深-胴-無文	◇	5706	土製円板-Ⅲ-深-胴-条線
			◇	5578	Ⅲ-深-胴-条線	◇	5707	Va-深-胴-条痕

出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
マ 1	5709	Ⅲ-深-胴-無文	マ 1	5990	5327と接合	マ 1	6118	Ⅲ-浅-胴- 網状浮線文
〃	〃	〃	〃	5993	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	5711	Ⅵ-深-胴-一条痕	〃	5994	Va-深-胴-一条痕	〃	6119	
〃	5712		〃	5995	搔器-黒耀石	〃	6120	Va-深-胴-一条痕
〃	5713	Vb-深-胴-一条痕	〃	6000	打製石斧-刃欠- 短冊-硬砂岩	〃	6121	〃
〃	5714	Vb-深-底-一条痕				〃	6122	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5715		〃	6001	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6123	Ⅲ-深-口(外傾) -無文
〃	5716		〃	6002	Ⅲ-深-胴-一条線			
〃	5718	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6005	Va-深-胴-一条痕	〃	6271	〃
〃	5719	Vb-深-胴-一条痕	〃	6008	Vb-深-胴-一条痕	〃	6273	Ⅲ-深-底
〃	5728	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6009	Ⅵ-深-胴-無文	〃	6274	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	5794	〃	〃	6011	Va-深-胴-一条痕	〃	6275	〃
〃	5796	〃	〃	6012	〃	〃	6276	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5800	5585と接合	〃	6013	〃	〃	6279	Vb-深-胴-一条痕
〃	5801	Va-深-胴-一条痕	〃	6014	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6281	Ⅲ-深-胴-一条線 +沈線
〃	5802		〃	6015	Ⅲ-深-胴-一条線			
〃	5805	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6016		〃	6340	Va-深-胴-一条痕
〃	5806	〃	〃	6017	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6342	Vb-深-胴-一条痕
〃	5808		〃	6018	〃	〃	6343	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5809		〃	6019	〃	〃	6344	Ⅲ-深-胴-一条線
〃	5810		〃	6020	Va-深-胴-一条痕	〃	6347	Vb-深-胴-一条痕
〃	5811		〃	6021	〃	〃	6348	〃
〃	5812	土製円板-Ⅲ-深- 擦糸文+沈線	〃	6022	Ⅲ-深-胴-無文	マ 2	6536	Ⅲ-深-胴-無文
			〃	6023	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6605	〃
〃	5814	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6024	Ⅲ-深-胴-無文	〃	6638	Ⅲ-浅-胴-無文
〃	5815	〃	〃	6026	〃	〃	6639	Ⅲ-深-胴-擦痕
〃	5816	〃	〃	6028	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6642	〃
〃	5818	〃	〃	6029	土製円板-Ⅲ-深- 胴-無文	〃	7378	〃
〃	5819	Va-深-胴-一条痕				〃	7379	Ⅲ-深-胴-網状 浮線文
〃	5820	Ⅲ-深-胴-一条線	〃	6030	Vb-深-胴-一条痕			
〃	5982	Va-深-胴-一条痕	〃	6113	Va-深-胴-一条痕	〃	7559	Ⅲ-深-胴-縄文 +沈線
〃	5983	Vb-深-胴-一条痕	〃	6114	炭化物-クルミ			
〃	5984	〃	〃	6115	Va-深-胴-一条痕	〃	7589	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5985	〃	〃	6116	Va-深-胴-一条痕	〃	7590	Ⅲ-深-胴-無文
〃	5989	Vb-壺-胴-一条痕	〃	6117	〃	〃	7591	Ⅲ-浅-胴-無文

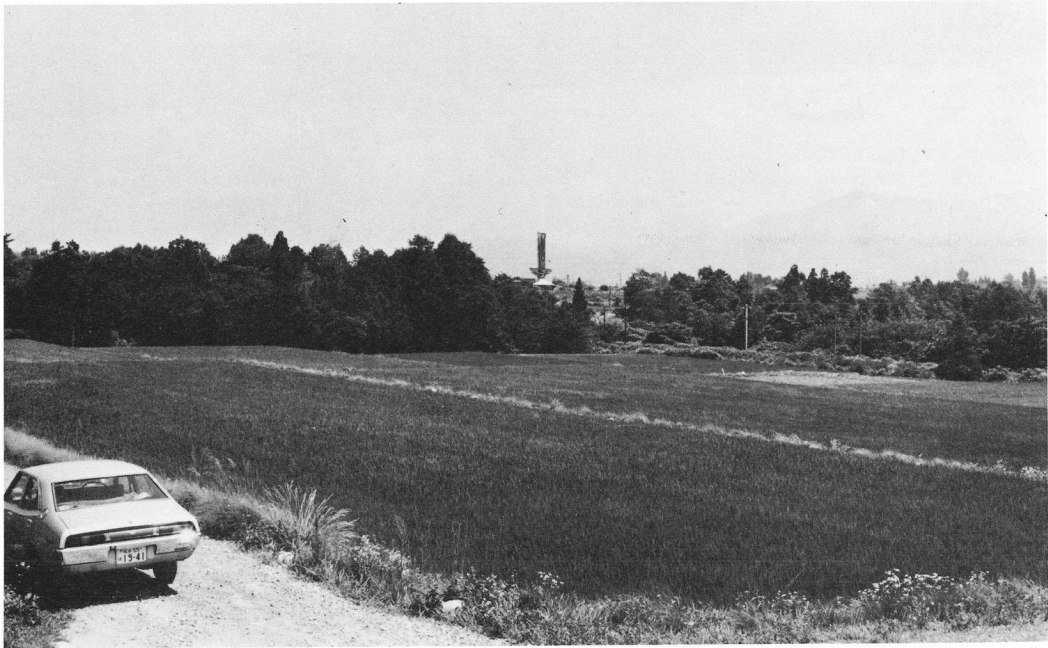
出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他	出土地	番号	種類・形態・その他
マ 2	7617	Ⅲ-浅-胴-無文	炉址内	8457	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7618	Va-深-胴-条痕	〃	8459	Ⅲ-浅-口(内湾)- 無文			
〃	7629	Ⅲ-浅-胴-無文						
〃	7659	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8460	Ⅲ-浅-口(外傾) -溝			
〃	7677	〃						
マ 3	7598	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8462	Vb-深-胴-条痕			
〃	7599	〃	〃	8465	8460と接合			
〃	7600	Va-深-胴-条痕	〃	8516	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7601	Ⅲ-深-胴-無文	〃	8517	〃			
〃	7602	Ⅲ-深-口頸(直)- 溝+擦痕	〃	8518	Ⅲ-深-胴-条線			
			〃	8519	Ⅲ-深-胴-無文			
〃	7620	Ⅲ-深-胴-条線	〃	8520	Ⅲ-浅-胴-無文			
〃	7623	Ⅲ-深-口(外傾) -無文						
〃	7630	Ⅲ-浅-胴-無文						
〃	7631	〃						
〃	7653	Ⅲ-深-胴-無文						
〃	7654	Ⅲ-深-底-網代						
〃	7661	Ⅲ-浅-胴-無文						
〃	7662	〃						
〃	7663	〃						
マ 4	7703	Ⅲ-深-胴-無文						
〃	7704	〃						
〃	7828	〃						
〃	7832	〃						
〃	7835	〃						
〃	7836	Ⅲ-浅-胴-無文						
〃	7850							
〃	7851	Ⅲ-浅-胴-無文						
〃	7861	Ⅲ-深-胴-無文						
〃	7863	Ⅲ-深-胴-条線						
〃	7874	Ⅲ-深-胴-擦痕						
〃	7884	Ⅲ-深-口(外傾)-溝						
〃	7889	Ⅲ-浅-胴-無文						
炉址内	8456	Ⅲ-深-胴-条線+沈線						

土製円板一覧表 (単位cm, g, () は現存値)

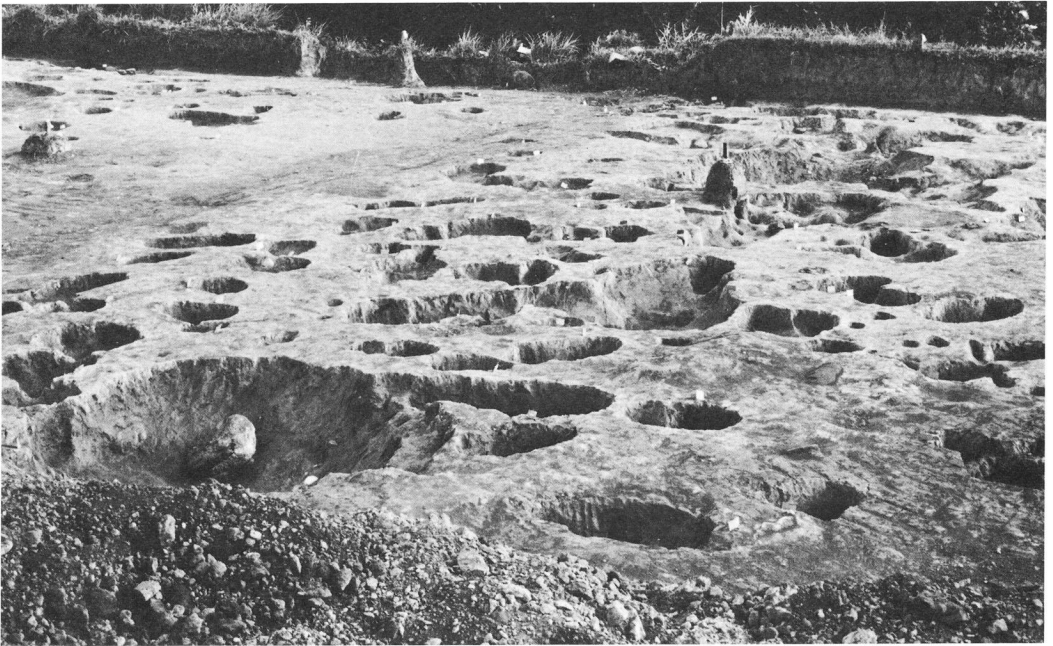
番号	出土地	挿図番号	部位	文様その他	形態	大きさ	厚さ	重量	種類	残存状態
4356	土 48	52 -1	胴	深一無文	楕円形	4.7×3.4	0.7	18	a	完形
6419	42-さ	-2	〃	〃	円形	3.8×3.6	0.4	15	a	〃
3854	40-け	-3	〃	〃 (Ⅲ)	〃	3.0×3.0	0.6	11	a	〃
6597	40-さ	-4	〃	一无文 (Ⅲ)	〃	3.5×3.3	0.8	15	a	〃
2906	41-き	-5	頸	浅一網状文 (Ⅲ)	楕円形	2.7×2.1	0.6	9	a	〃
3462	40-こ		〃	一无文	円形	2.5×2.4	0.5	10	a	〃
5644	29-せ		〃	深一无文	楕円形	3.3×2.7	0.5	10	a	〃
7187	45-き		〃	一无文 (Ⅲ)	円形	2.6×2.4	0.5	9	a	〃
7667	土 184		〃	一无文	〃	2.8×3.0	0.7	10	a	〃
6941	41-き		〃	深一无文	〃	3.8×4.0	0.7	19	a	〃
3481	39-け		〃	一无文	〃	2.8×2.8	0.7	10	a	〃
4070	42-け		〃	一无文	楕円形	3.4×2.6	0.5	10	a	〃
6697	42-き		〃	深一条文 (Vb)	〃	2.9×2.1	0.6	8	a	〃
8672	43-さ		〃	深一擦痕 (Ⅲ)	長方形	2.8×2.2	0.6	10	a	〃
2942	41-お		〃	〃 (Ⅲ)	楕円形	4.0×	0.6	(8)	a	半欠
6936	42-き		〃	深一无痕 (Ⅲ)	円形	3.6×	0.7	15	a	〃
4358	土 48		〃	〃 (Ⅲ)	〃	3.5	0.8	(12)	a	〃
8075	41-け	-6	口縁	浅一網状浮線文 (Ⅲ)	方形	4.2×4.0	0.7	20	b	完形
2905	41-き	-7	〃	〃 (Ⅲ)	長方形	5.0×4.0	0.5	(18)	〃	一部欠
2449	42-お	-8	胴	深一条痕 (Va)	円形	5.0×4.7	0.4	(22)	〃	一部欠
3873	40-こ	-9	〃	深一无文 (Ⅲ)	〃	4.2×4.0	0.6	19	〃	完形
4036	41-こ		〃	〃	〃	4.0×4.0	0.5	17	〃	〃
2139	土 12		〃	〃	〃	3.5×3.3	0.6	13	〃	〃
5011	44-い		〃	〃 (Ⅲ)	〃	3.3×3.2	0.6	12	〃	〃
7195	土-き		〃	一无文	〃	2.6×2.5	0.6	9	〃	〃
7889	44 4		〃	浅一无文 (Ⅲ)	〃	4.0×4.0	0.5	11	〃	〃
4393	46-え		〃	一无文	〃	2.5×2.3	0.5	9	〃	〃
5562	マ-し		〃	深一无文 (Ⅲ)	〃	3.7×	0.6	(9)	〃	半欠
3382	44-か		〃	一无文 (Ⅲ)	〃	3.4×	0.7	(8)	〃	〃
5911	41-し		〃	深一无文 (Ⅲ)	楕円形	3.3×27	0.6	8	〃	完形
3704	43-お		〃	浅一无文 (Ⅲ)	〃	4.2×31	0.7	12	〃	〃
147	43-い		口縁	深一溝 (Ⅲ)	〃	4.0×33	0.7	13	〃	〃
2193	43-え		胴	深一擦痕 (Ⅲ)	〃	4.8×39	0.7	(17)	〃	一部欠
2705	40-か		〃	深一无文 (Ⅲ)	〃	4.6×	0.6	(10)	〃	半欠
3527	40-こ		〃	〃 (Ⅲ)	方形	3.2×32	0.5	11	〃	完形

番号	出土地	挿図番号	部位	文様その他	形態	大きさ	厚さ	重量	種類	残存状態
5906 5907)	43-さ	52-10	口縁	浅-溝 (Ⅲ)	円形	7.7×7.0	0.7	42	c	一部欠
8426	43-さ	-11	〃	深-擦痕 (Ⅲ)	〃	4.8×4.7	0.7	26	〃	完形
5237	41-き	-12	〃	-溝 (Ⅲ)	〃	4.4×4.4	0.7	20	〃	〃
6497	土 76	-13	胴	深-縄文 (Ⅲ)	〃	3.5×3.4	0.6	14	〃	〃
5390	41-し	-14	〃	深-条痕 (Va)	〃	3.5×3.4	0.6	15	〃	〃
4561	土 45	-15	胴部	深-条痕 (Va)	円形	3.5×3.5	0.5	11	〃	〃
6617	43-し	-16	〃	〃	楕円形	4.0×3.0	0.7	18	〃	〃
6551	40-け	-17	口縁	浅-溝 (Ⅲ)	円形	3.0×2.9	0.6	10	〃	〃
7843	土 202	-18	胴部	-縄文 (?)	楕円形	3.8×3.1	0.6	10	〃	〃
6029	マ 1	-19	〃	深-無文 (Ⅲ)	円形	6.0×5.8	0.7	38	〃	〃
5038	土 24	-20	〃	〃	〃	5.0×4.9	0.6	25	〃	〃
7949	土 156	-21	〃	深-条痕 (Vb)	〃	3.7×3.6	0.6	12	〃	〃
4010	土 14	-22	〃	深-擦痕 (Ⅲ)	方形	2.7×2.6	0.5	7	〃	〃
3880	40-こ	-23	〃	深-無文 (Ⅲ)	円形	3.5×3.6	0.6	10	〃	〃
3429	39-け		〃	〃	〃	4.2×4.1	0.5	18	〃	〃
7461	土 113		〃	〃	〃	2.8×2.8	0.7	7	〃	〃
8384	44-け		〃	〃	〃	3.2×3.0	0.6	9	〃	〃
8355	42-け		〃	〃	〃	3.3×3.1	0.7	10	〃	〃
2539	40-お		〃	〃	〃	3.0×2.8	0.7	10	〃	〃
4309	41-こ		〃	-無文 (?)	〃	2.0×2.0	0.8	4	〃	〃
8367	43-こ		〃	深-無文 (Ⅲ)	〃	2.6×2.5	0.7	8	〃	〃
4452	24-く		〃	〃	〃	3.3×3.1	0.7	10	〃	〃
8605	41-こ		〃	〃	〃	3.7×3.5	0.6	11	〃	〃
4124	42-け		〃	〃	〃	3.0×2.8	0.5	8	〃	〃
4059	41-け		〃	-無文 (Ⅲ)	〃	3.5×3.3	0.7	10	〃	〃
5915	43-さ		〃	深-無文 (Ⅲ)	〃	3.0×3.0	0.7	9	〃	〃
5706	マ 1		〃	〃	〃	4.4×4.1	0.5	12	〃	〃
2878	42-く		〃	〃	〃	3.0×2.8	0.7	8	〃	〃
6945	41-き		〃	〃	〃	5.0×5.0	0.6	20	〃	〃
7132	45-か		口縁	浅-網状- (Ⅲ)	〃	2.7×2.5	0.6	6	〃	〃
8279	43-け		胴部	深-無文 (Ⅲ)	〃	4.0×3.9	0.8	17	〃	〃
5073	44-え		〃	〃	〃	4.2×4.1	0.7	18	〃	〃
4373	44-お		〃	〃	〃	2.5×2.4	0.7	8	〃	〃
6422	42-こ		〃	〃	〃	3.0×2.8	0.6	9	〃	〃

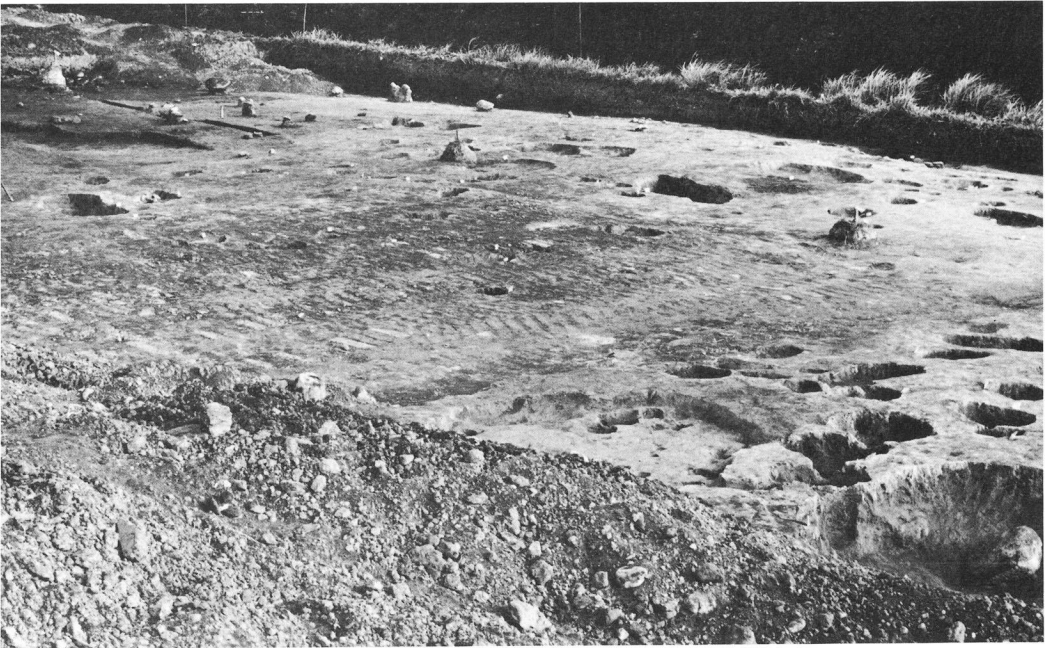
圖 版



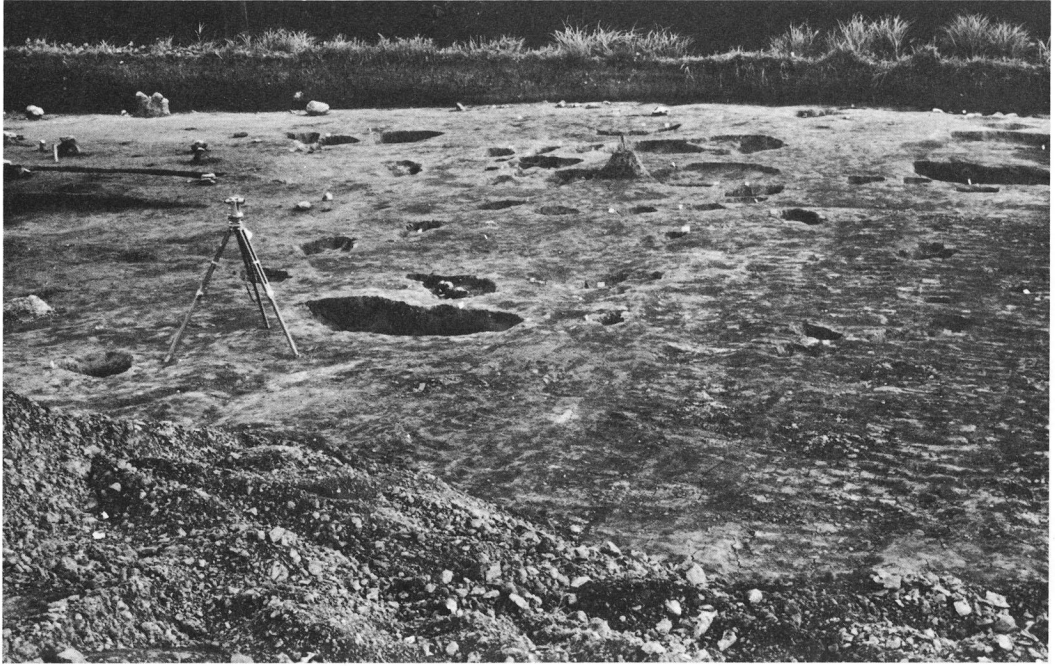
図版1 遺跡遠景（上-南より、下-南西より）



図版2 土壇群（北より）



図版3 住居址と土坑群（北より）



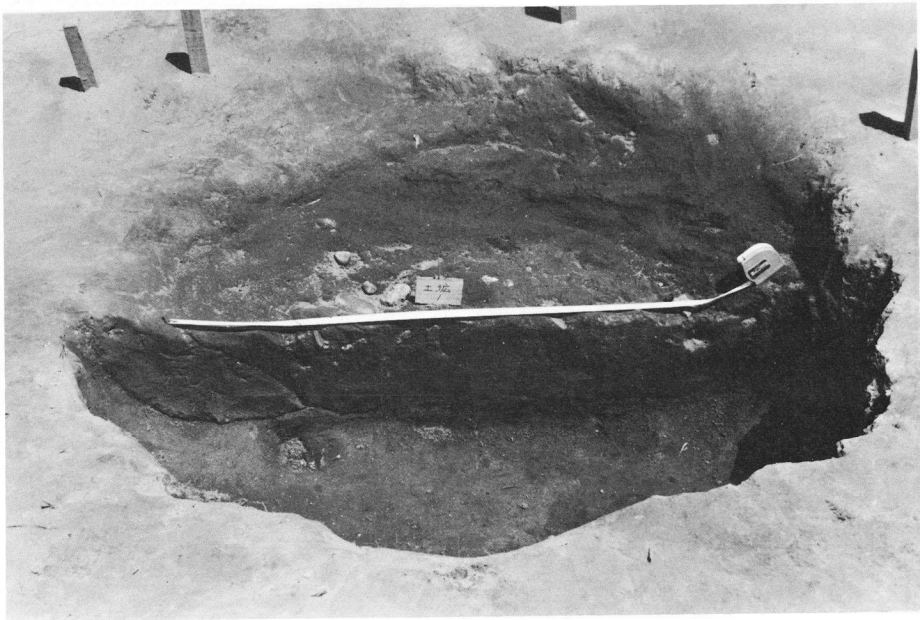
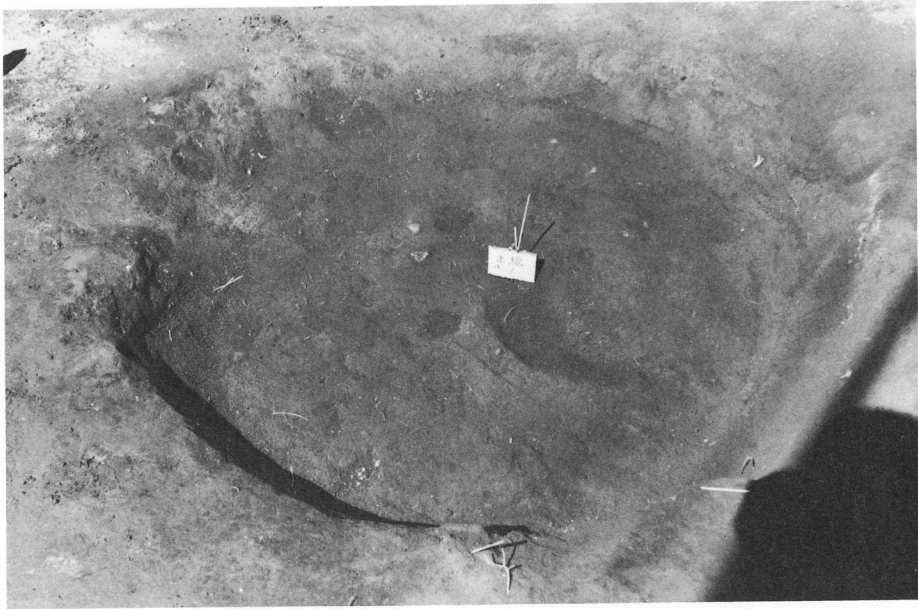
図版4 土壇群（北より）



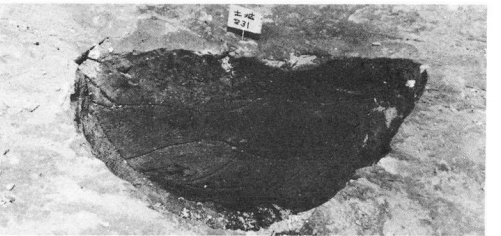
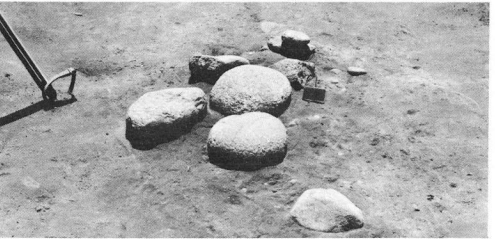
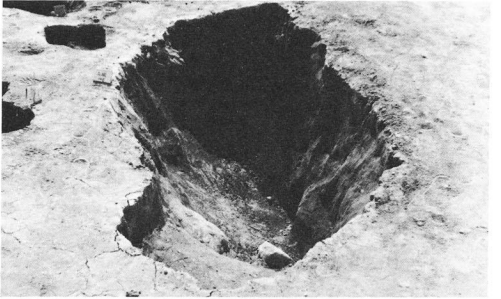
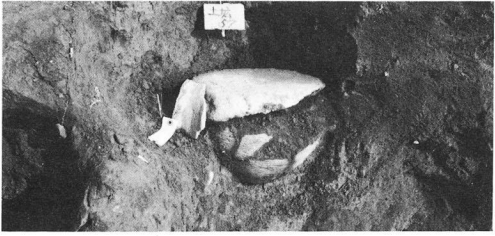
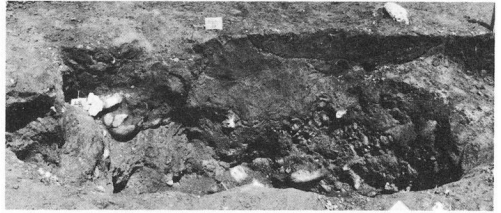
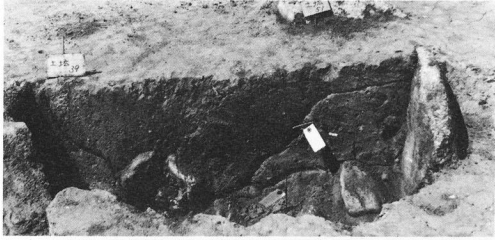
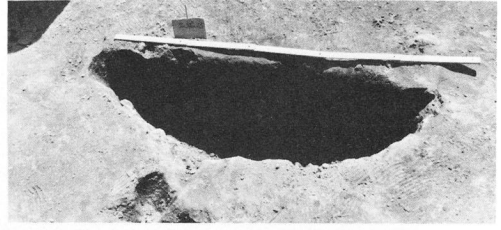
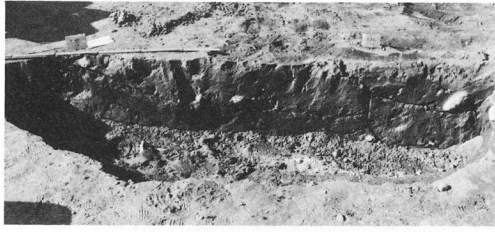
図版5 住居址（北より）



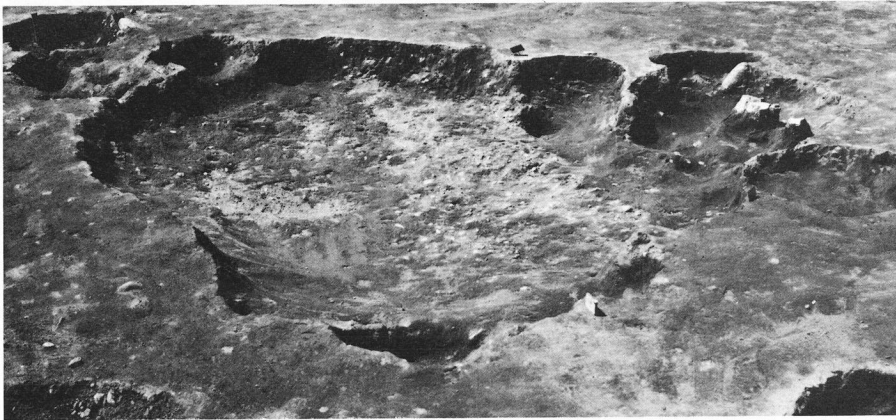
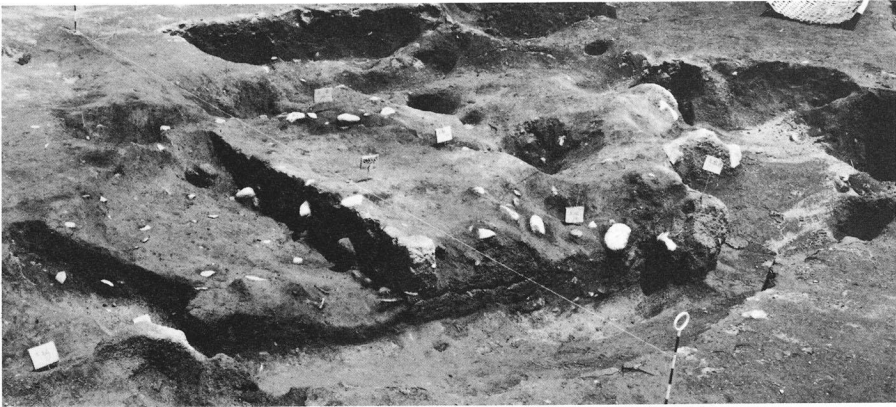
図版6 土坑1



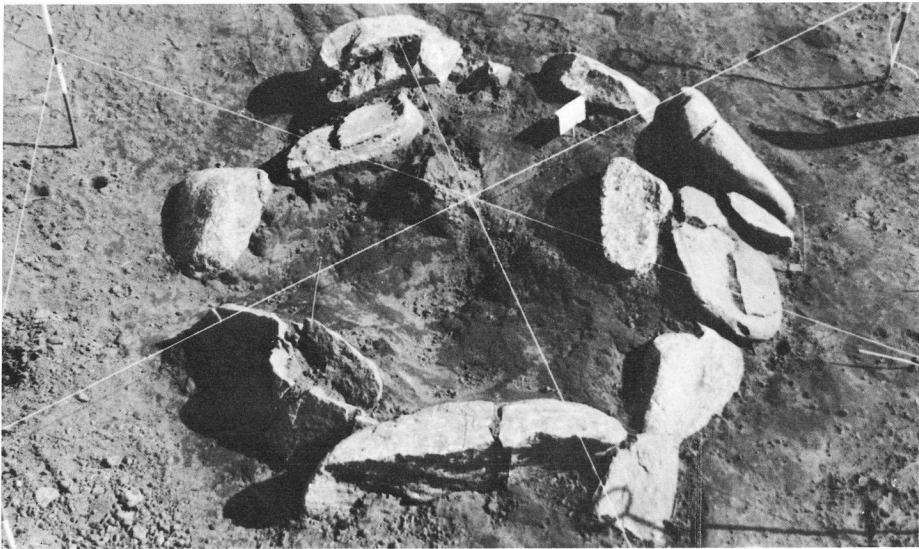
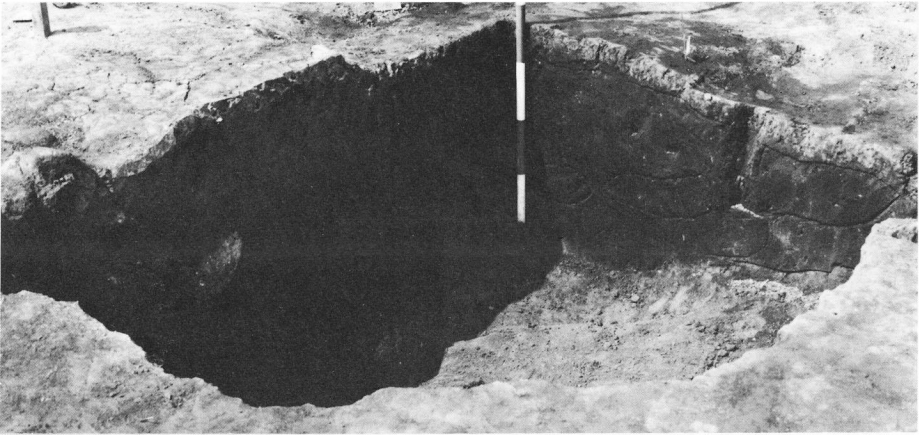
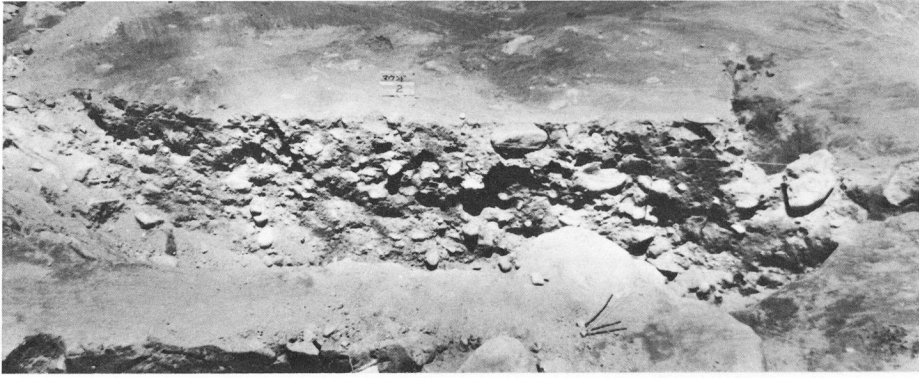
図版7 土壇1 (上部石を除いたあと)



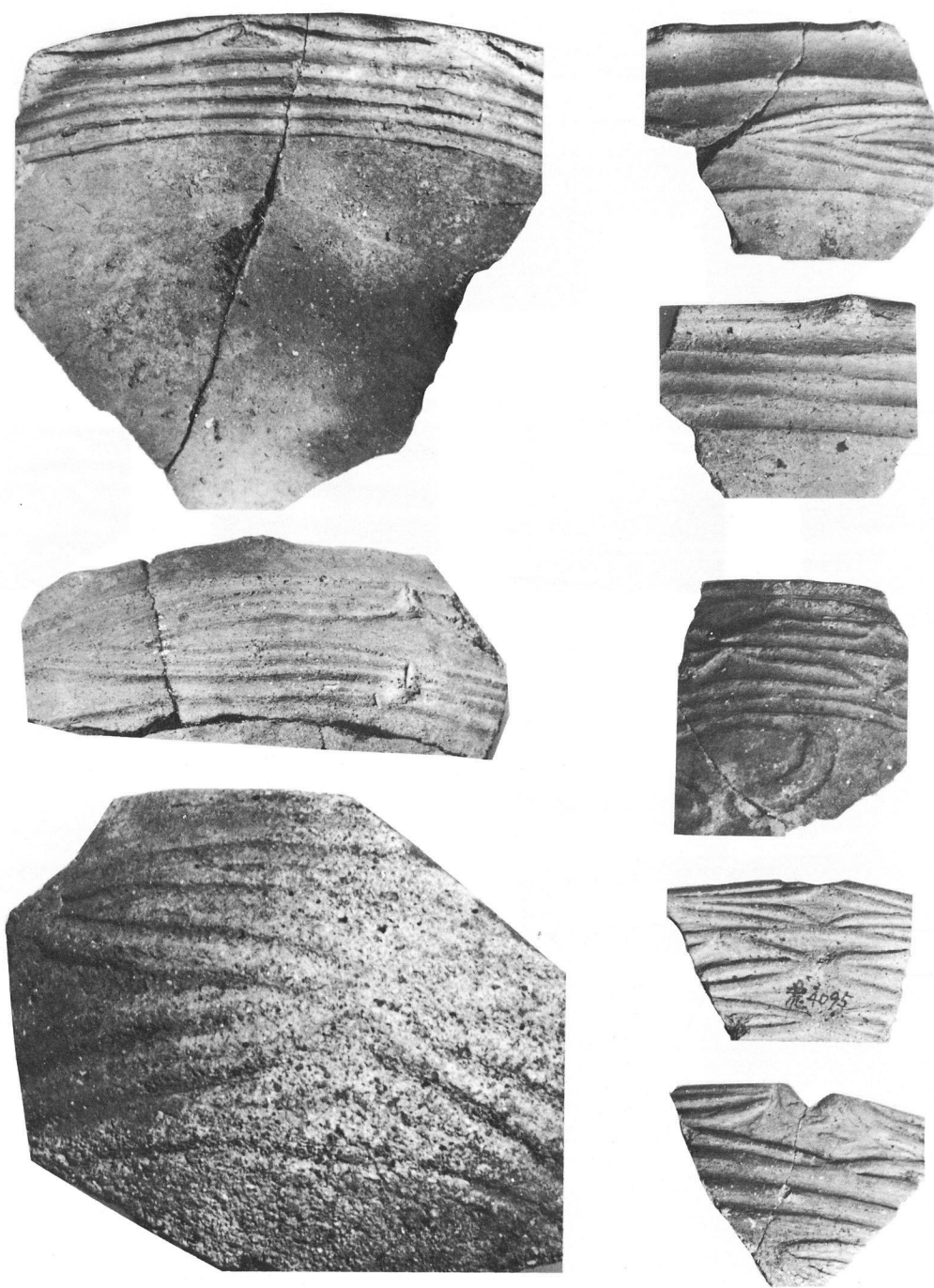
图版8 各土坑



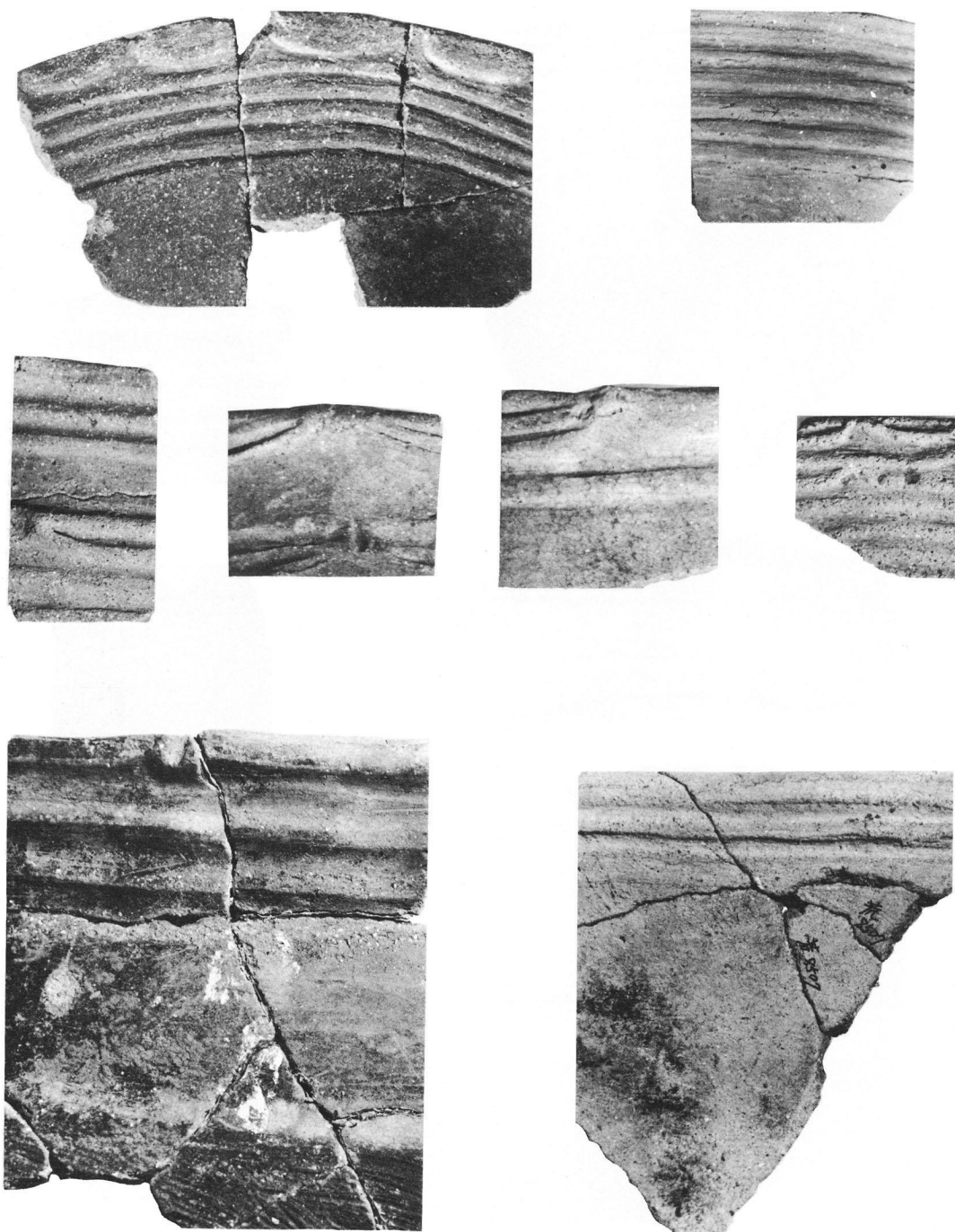
図版9 1号マウンド



図版10 マウンドと炉址（上- 2号マ、中- 4号マ、下- 炉址）



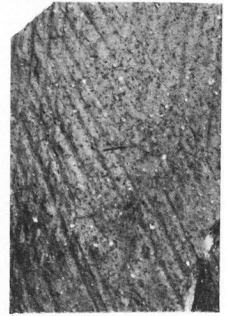
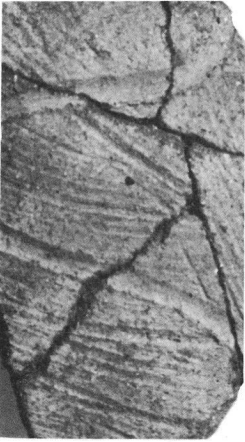
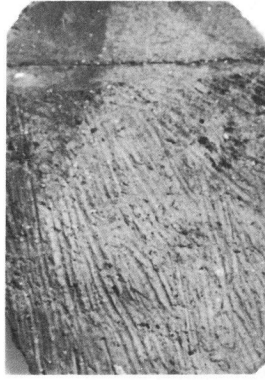
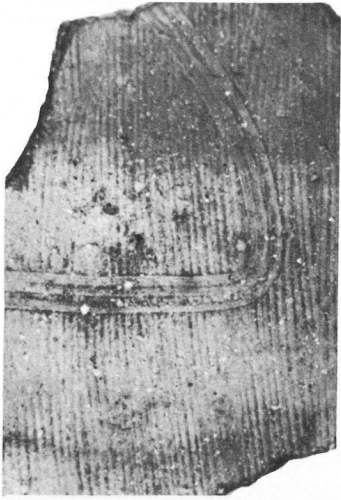
图版11 第三群土器



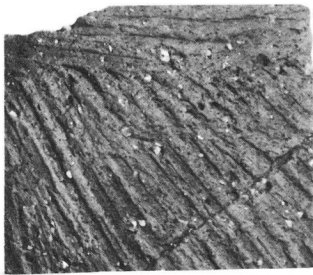
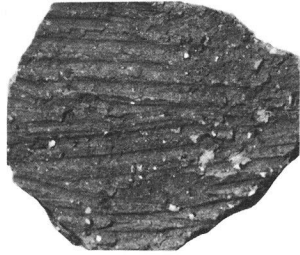
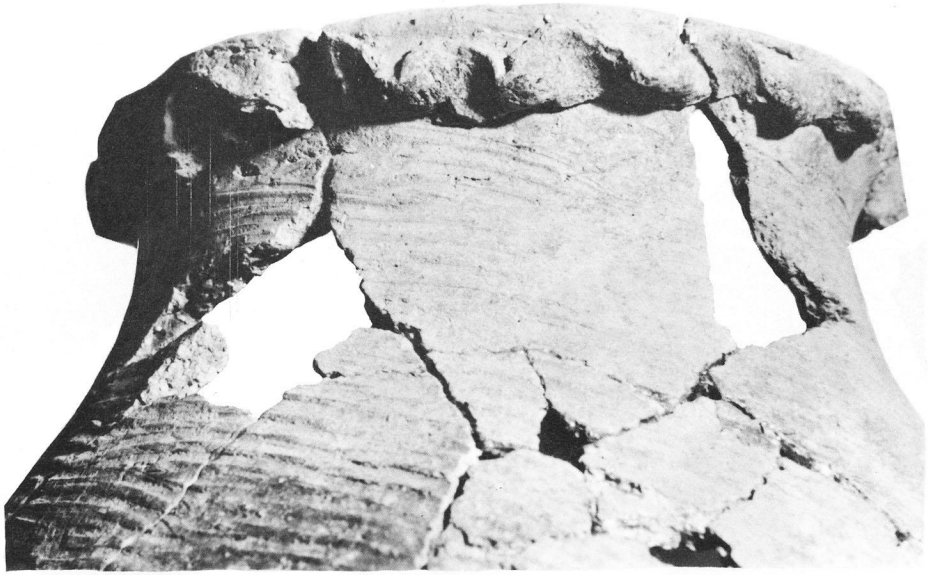
图版12 第Ⅲ群土器



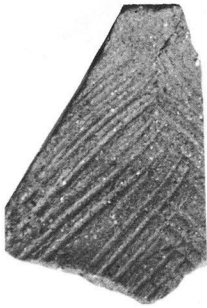
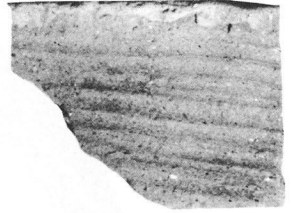
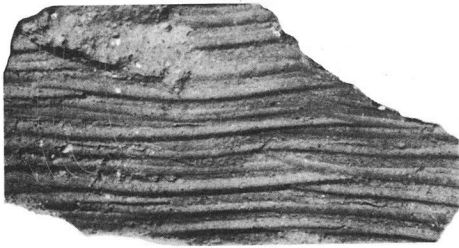
图版13 第三群土器



图版14 第Ⅲ群土器



图版15 第V群土器



图版16 第VI群土器

荒神沢遺跡

—緊急発掘調査報告—

昭和54年3月5日印刷

昭和54年3月10日発行

編集

駒ヶ根市赤穂2423-6 市立博物館
県営ほ場整備事業大田切(3)地区埋蔵
文化財調査会
荒神沢遺跡発掘調査団

発行

伊那市青木町伊那合同庁舎内
南信土地改良事務所
駒ヶ根市赤穂10780-2
駒ヶ根市教育委員会

印刷

下諏訪町駅前
株オノウエ印刷 電(02662)8-5553